

平成25年度

研究紀要

研究主題

「自分の思いを確かにし、主体的に生活しようとする力を育む指導の充実」
～【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点を踏まえた授業づくりを通して～

【小学部】

「自らの興味・関心を広げ、進んで取り組む児童の育成を目指した授業づくり」
～人や物とかかわる活動の積み重ねを通して～

【中学部】

「自分の役割を最後までやり通す生徒の育成を目指した授業づくり」
～自ら進んで活動するための支援の工夫を通して～

【高等部】

「将来の夢や希望を持ち、実現に向けて努力しようとする生徒の育成を目指した授業づくり」
～作業学習における支援の工夫を通して～



オニタビラコ
～仲間と一緒に～

宮城県立石巻支援学校

〈巻頭言〉「個の志」から「集団の志」へ

校長 今野 和則

本校の校内研究が3年目のまとめの年を迎えました。さらに、創立30周年の節目の年が重なることから、多くの方々に学校を公開し、研究発表を行う場を設けました。次の十年そして続く研究の歩みに向け、これまでを総括することで、新たな展望を開くにあたっての貴重な御指導をいただけることは、この上なく有り難い機会と考えます。

さて、本校の研究テーマは「志教育」です。言うまでも無く、子どもを教育する教員の仕事には、自らを高めていく志向性が必要です。通常では指導力や専門性の向上と言われるものがそれにあたります。本校の母体であった光明支援学校の教育理念に、「よく学ぶ者こそ人の師たり得る」がありますが、これらはまさに、私たちにとって永遠の理念の一つであり課題です。

ところで、自らを高めようとする志向性を「個の志」とすれば、校内研究や共同研究は、「集団の志」と言ってよいかもしれません。勿論のことながら、「個の志」があらゆる研究の前提となるのですが、個々の教員の研究の歩みを縦の軸とすれば、集団によるそれは、横の軸を広げ、研究に厚みと力強さを加え、学校変革の力を与えてくれるのです。さらに教員の「個の志」を引き上げる役割も果たし、取りも直さず、児童生徒の教育環境を数段高めてくれるものとなるでしょう。

しかしながら、この集団研究には留意点があります。それは、「個の志」には必ず格差があるということです。一部の縦糸が先行するあまり、織り上がりが歪むことがあります。また一部の縦糸の鈍い動きも、同様の現象を産んでしまいます。したがって、同じような現状、課題や願いから似たような研究テーマを設定しても、その学校の教職員の実態・実情によって、その目標等は変わることになり、そこには時間を掛けた慎重な選択が要求されることになるのです。

本校の場合は、御案内のように、志教育の視点に基づく「授業づくり」に的を絞っての目標設定を行いました。手前味噌のようですが、その選択は、この3年間で程よい生地を織り上げることにつながり、当面の成果は得たと考えています。どうか、研究紀要及び研究発表を精査され、さらに御忌憚のない御意見を頂戴いたします。

結びになりますが、本校は東日本大震災を経験し、地域の方々から多くの御支援をいただき、そのつながりが平時から必要であったことを学びました。研究主題の設定にあたって、「児童生徒一人一人の将来を見据えた自立と社会参加」は、「自ら社会に働き掛け、共に生きようとする主体的な生活経験の積み重ねが必要」とおさえました。3年間の研究成果を踏まえ、さらに地域の中に本校があり、本校の子どもたちの笑顔が地域の中に溢れて欲しいと願っています。それが、本校の「志教育」、ひいては特別支援教育における「志教育」のあるべき姿を示してくれているように思えてなりません。

研究主題

**「自分の思いを確かにし、主体的に生活しようとする力を育む指導の充実」
～【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点を踏まえた授業づくりを通して～**

I 主題設定の理由

今日、急激な社会情勢の変化に伴い、教育の現場においては、新学習指導要領において示されているように「生きる力」の育成が強く求められている。私たちはこのことを踏まえ、①本校における教育活動の現状、②特別支援教育における今日的教育課題、③教師や保護者の願い、の三点から本校における教育課題を整理した。その結果、

① 本校における教育活動の現状から

- ・学校教育目標「一人一人の障害の状態及び特性に応じた適切な教育を行い、健康で人間性豊かな児童生徒を育成する。」の具現化のためのさらなる教育課程の改善が必要である。
- ・今、行っている学習がどのように発展し、この児童生徒の将来にどのようにつながっているかが見えにくくなっている。

② 特別支援教育における今日的課題から

- ・平成21年3月特別支援学校高等部学習指導要領告示総則に「キャリア教育」が規定された。
- ・障害のある児童生徒のニーズに応じた勤労観・職業観を育成するキャリア教育の推進が重要とされている。

③ 教師や保護者の願いから

- ・教師の思い・・・個に応じた指導による一人一人の豊かな社会参加
- ・保護者の願い・・・自立と社会参加につながる力の育成

上記のように整理された。このことから「児童生徒一人一人の将来を見据えた自立と社会参加につながる教育の実践」が本校の教育課題であると考えた。

社会参加をするためには、自ら社会に働き掛け、共に生きようとする主体的な生活経験の積み重ねが必要である。その原動力の一つとして「自分の思い」を持ち、それを伝えようとするところにあるのではないか。それは、自分の意思を持ち、選び、相手や周囲に働き掛けて伝え、決定していく姿の第一歩でもある。そこで本校では、研究主題を「自分の思いを確かにし、主体的に生活しようとする力を育む指導の充実」とし、平成23年度から研究を行っている。

平成23年度は研究主題を受けて、各学部の目指す児童生徒像から学部ごとの研究テーマとして掲げ、具体的な育てたい力を、他学部との繋がりや違いを確認しながら研究を進めることにした。また、この主題に迫るうえで、「キャリア教育」の視点が生かせると考え、副題を「キャリア発達段階を踏まえた教育課程の改善と活用に向けて」とし、「キャリア教育」の視点による授業づくりを通して一人一人の児童生徒の生きる力の育成を目指した。

研究を進める中で、目指す児童生徒像に近付けるため各学部で系統性を意識した授業づくりの視点

を設定することが、キャリア発達を促す支援のための授業づくりに有効であることが分かった。その視点には各学部共通する面があり、平成22年11月に宮城県教育委員会より示された志教育の「人と『かかわる』」「よりよい生き方を『もとめる』」「社会での役割を『はたす』」の三つの目標が、昨年度まで各学部で行ってきた授業づくりの視点が重なることが見えてきた。

平成23年度 各学部 授業作りの視点

小学部

- ・興味・関心を持って活動に取り組もうとする意欲を引き出す工夫
- ・教師や友達とのかかわりを楽しめるようにする工夫
- ・「できる」体験を積み重ね、達成感を持てるようにする工夫

中学部

- ・自分のやりたいことを選択し、進んで取り組む力を育てる工夫
- ・自分の役割を果たそうとする態度・意欲を引き出す工夫
- ・友達とのかかわりを楽しむ支援の工夫

高等部

- ・学習への意欲を引き出し、自己評価や課題設定のための気づきを促す工夫
- ・目上の人とのかかわりに関する課題設定の工夫
- ・集団の中で自分の役割を自覚し、その責任を果たそうとする態度を育てる工夫

さらに「自分の思いを確かにし、主体的に生活する力を育む」ことは「夢をはぐくみ、志に高める」ことであり、志教育は、本研究の目指す方向性と同じであるのではないかと考えた。

現在志教育は、小学校、中学校、高等学校の県内すべての校種において推進されており、12年間を通して、一貫した支援や指導を行うことで志を育むことを目指している。小学部、中学部、高等部を擁し、数多くの児童生徒が小学校や中学校から入学する特別支援学校における志教育の推進は、通常の学校との連携を図り、一貫した支援を行ううえでも大切であると考えた。

④ 1年次の研究の成果と志教育の理念の方向性の一致から

- ・「自分の思いを確かにし、主体的に生活する力を育む」 ⇔ 「夢をはぐくみ、志に高める」
- ・本校の授業づくりの視点 ⇔ 志教育の「もとめる」「かかわる」「はたす」の三つの視点
- ・みやぎの志教育と目指す方向性や特別支援学校の教育目標の特色が一致

そこで、平成24年度から、志教育の『かかわる』『もとめる』『はたす』の視点を、石巻支援学校志教育全体計画にある、小学部、中学部、高等部の「めざす児童生徒像」と関連させてとらえ、研究の副題を「【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点を踏まえた授業づくりを通して」と設定した。

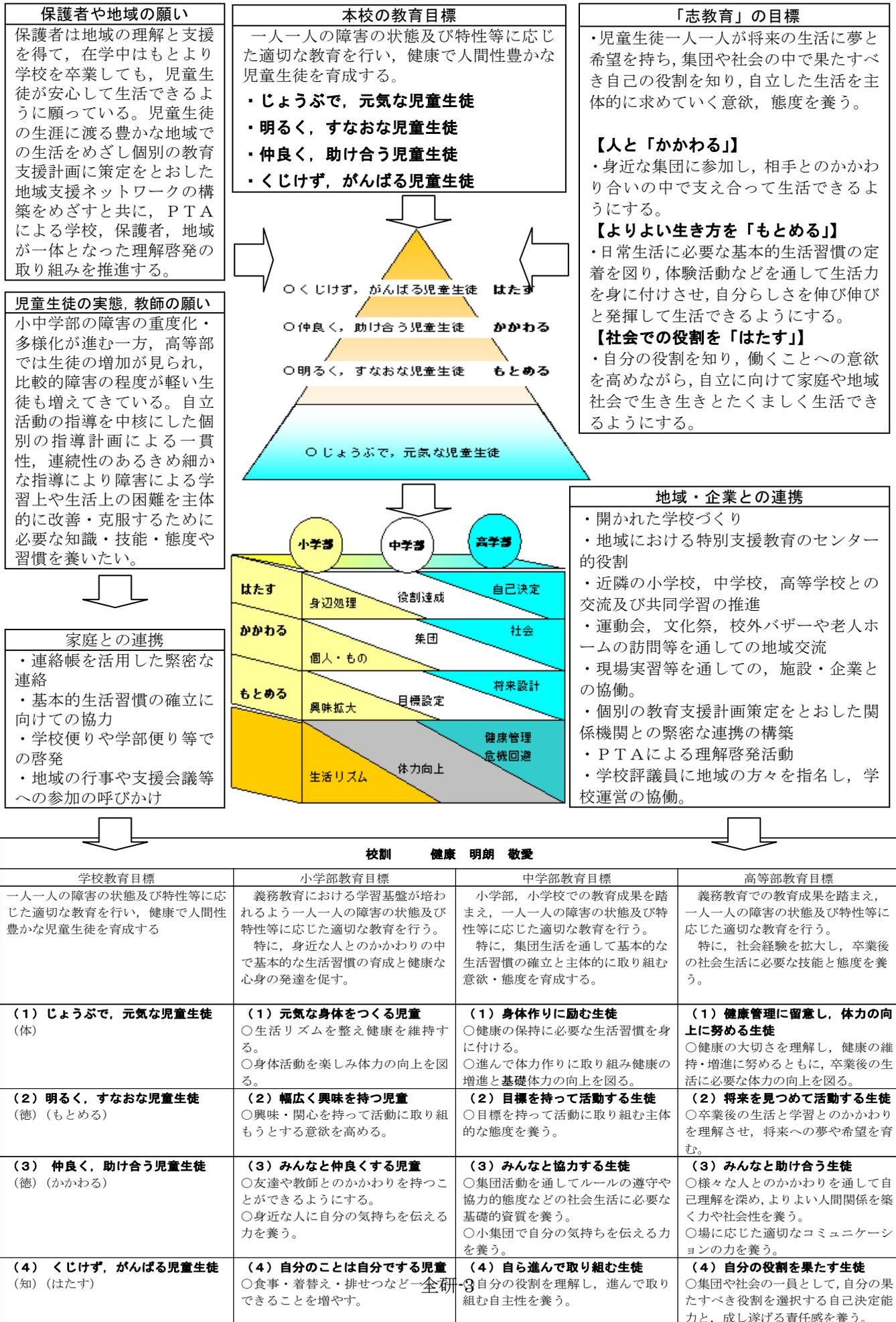
「児童生徒一人一人が将来の生活に夢と希望を持ち、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を知り、自立した生活を主体的に求めていく意欲、態度を養う。」という、志教育の理念を理解し、その視点による授業づくりを通して一人一人の児童生徒とどう向き合い、どう育てていくかということを考えていくこととした。

Ⅱ 志教育全体計画

本校では、宮城県教育委員会により策定された志教育のプランを児童生徒の実態、保護者や地域の願い、本校の目指す教育目標と関連付け、次ページに示す志教育全体計画を作成した。

本研究の構想も志教育全体計画に基づき、志教育の三つの視点から授業づくりを進めるものである。

志教育全体計画（宮城県立石巻支援学校）



Ⅲ 研究目標

「志教育で掲げる『かかわる』『もとめる』『はたす』の視点に基づく授業づくりを通して、児童生徒が自分の思いを確かにし、主体的に生活していく力を育むための指導の在り方を探る。」

Ⅳ 研究仮説

「志教育の視点を踏まえたねらいのもと、児童生徒一人一人の発達段階を踏まえた指導・支援の方法を工夫し、授業作りを行い、児童生徒が自分の思いを持って『できた』ことが実感できる経験を積み重ねることができれば、児童生徒は、自分の思いを確かにし、主体的に生活しようとする力を育むことができるであろう。」(図1)

V 研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

以下のことを通して、児童生徒が自分の思いを確かにし、主体的に生活していく力を育むための指導の在り方を探る。

- ・志教育の先行研究の取り組みに学び、理解を深め、情報や資料の収集と有効活用
- ・志教育の三つの視点(【もとめる】【かかわる】【はたす】)の視点設定に基づく授業づくりとその検証
- ・全学部ごとに、効果的な研究授業及び事後検討会の実施による授業づくり
- ・志教育の視点に基づく教育課程の見直し

2 研究の計画

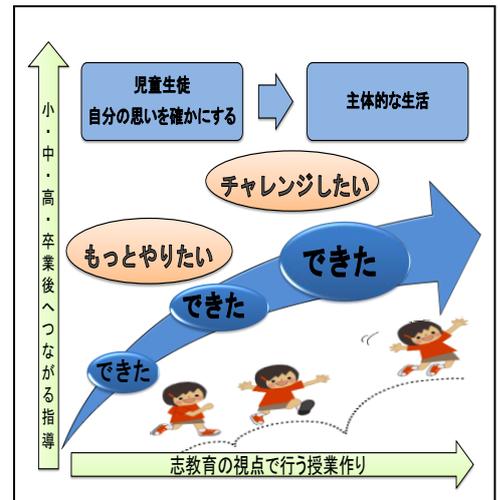
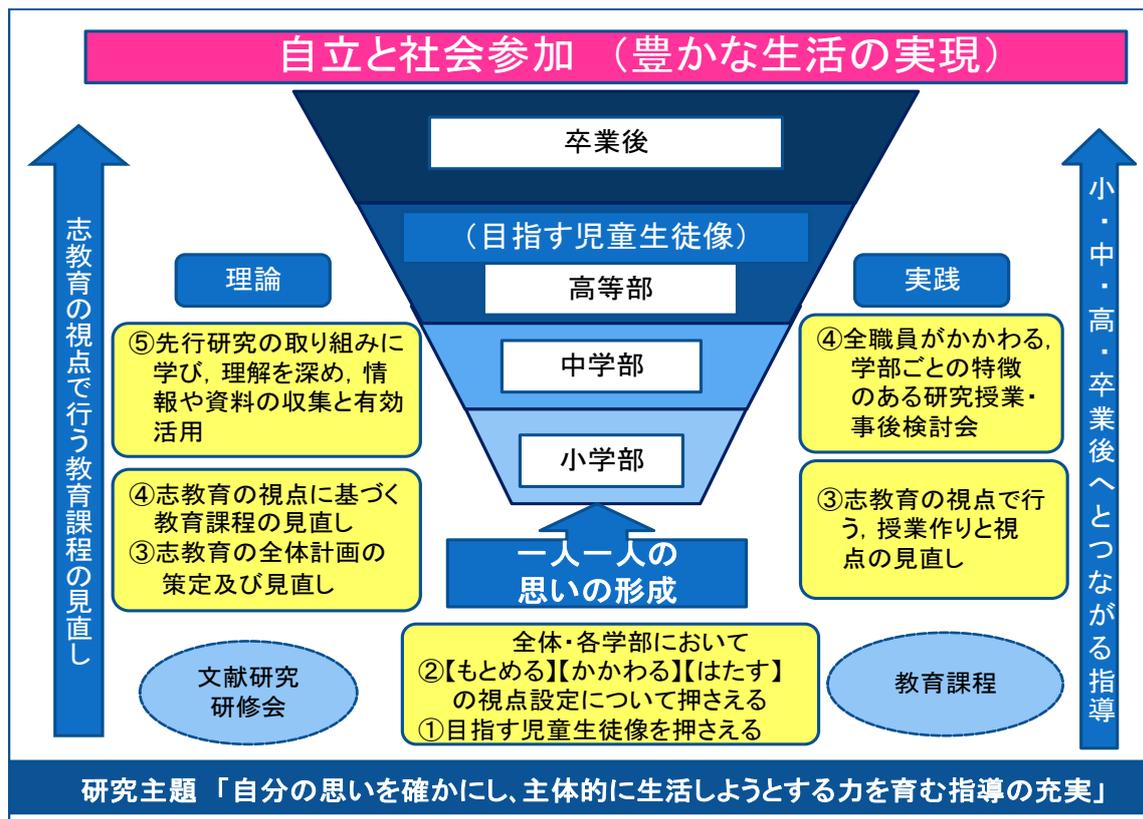


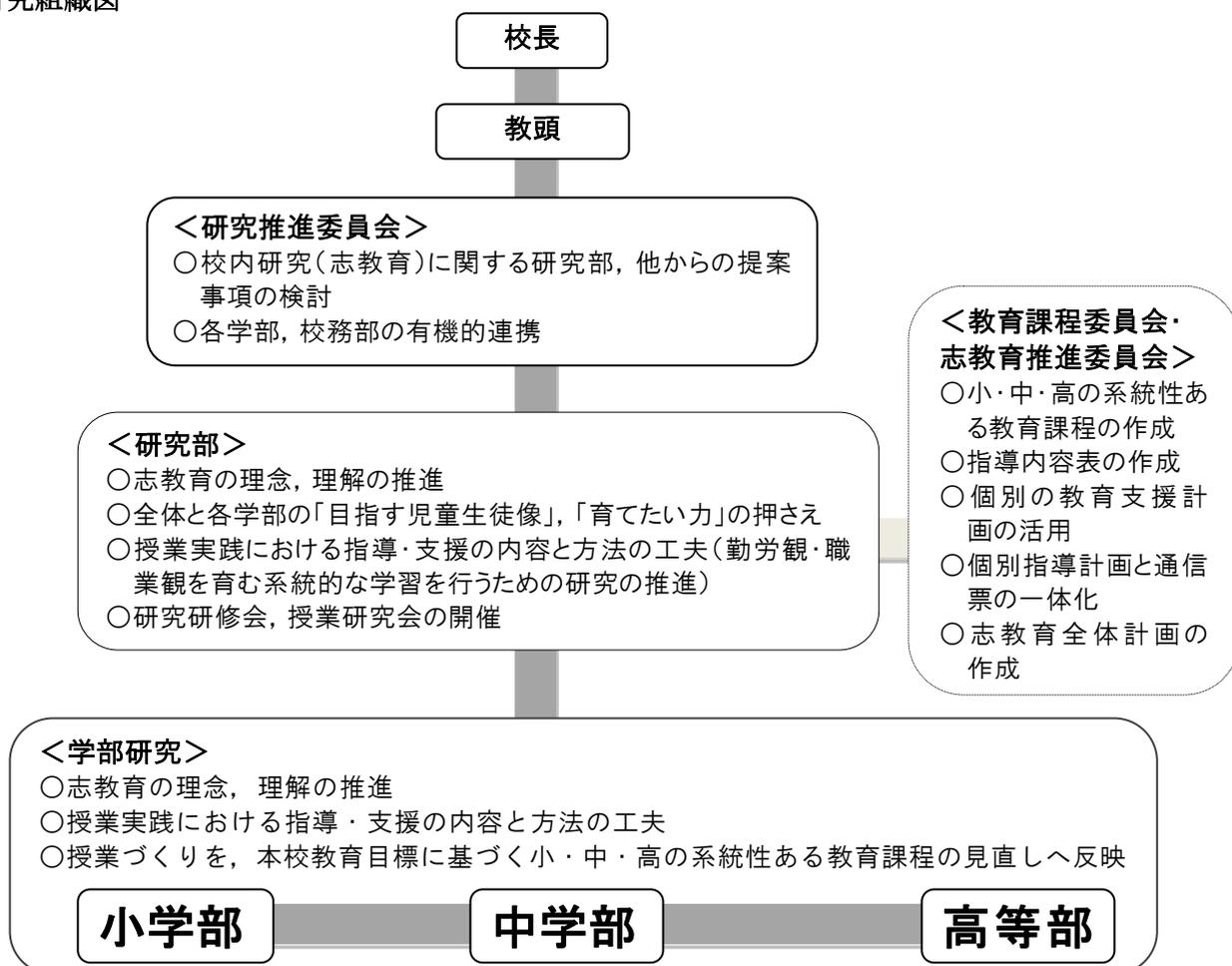
図1 研究仮説のイメージ図

1 年 次	<p>キャリア教育に関する理解と系統性に関する課題の洗い出し</p> <p>◎研究テーマ、研究目標、研究計画の検討</p> <p>◎キャリア教育の視点で作成する学部研究テーマの設定</p> <p>◎キャリア教育に関する研修</p> <p>◎重点教科・領域の設定及びその教科・領域における「育てたい力」との関連の確認</p> <p>◎学部公開授業研究会(小学部)</p>	<p>成果と課題</p> <p>1 キャリア教育の理念、理解の推進ができた。</p> <p>・キャリア教育やキャリア発達について、文言の理解にとどまっていたものを、自分たちの言葉で理解を深めていくことが必要。</p> <p>2 全体と各学部の「目指す児童生徒像」,「育てたい力」を押さえた。</p> <p>・本校における「目指す児童生徒像」の系統性や「育てたい力」を整理していく必要がある。</p> <p>3 授業実践における指導・支援の内容と方法の工夫ができた。</p> <p>・事後検討だけでなく、小集団で授業づくりを検討し合う体制が必要。</p>
2 年 次	<p>志教育に関する理解と志教育の視点で行う授業づくり</p> <p>◎授業実践における指導・支援の内容と方法の工夫</p> <p>◎授業づくりを通じた系統性のある教育課程の見直し</p> <p>◎志教育の理念理解の推進</p> <p>◎学部公開授業研究会(中学部)</p>	<p>成果と課題</p> <p>1 【もとめる】【かかわる】【はたす】の三つの視点での授業づくりにより子供たちは「できた」という達成感を味わうことができた。</p> <p>【もとめる】課題をつかむこと</p> <p>【かかわる】課題達成に向けた活動の中で育まれる人や物との関わりを広げること</p> <p>【はたす】課題達成に必要な意欲を持続させ課題達成の達成感を十分に味わうこと</p> <p>2 三つの視点を授業改善のPDCAサイクルとして活用できた。</p> <p>・各学部の領域・教科の題材配列,小中高一貫した教育課程の編成についても志教育を意識した見直しが必要。</p>
3 年 次	<p>実践の深まりと検証</p> <p>◎授業づくりを基にした,小・中・高の系統性ある教育課程への反映(授業改善・年間指導計画の見直し)</p> <p>◎三つの視点の他教科への反映</p> <p>◎学校公開及び研究発表(開校30周年記念行事)による,地域への発信</p>	<p>成果と課題</p> <p>1 一単位時間,一単位ごとの授業づくりが進み,教育課程の改善を行うことができた。</p> <p>・二次に作成した教育課程の見直しを,系統性を意識して行った。</p> <p>2 三つの視点を新たな教科にも反映させ成果をあげることができた。</p> <p>・小学部では遊びの指導の成果を,体育の授業づくりに生かすことができた。</p> <p>3 創立30周年記念公開を行い,地域への発信を行うことができた。</p>

3 全体研究のイメージ図



4 研究組織図

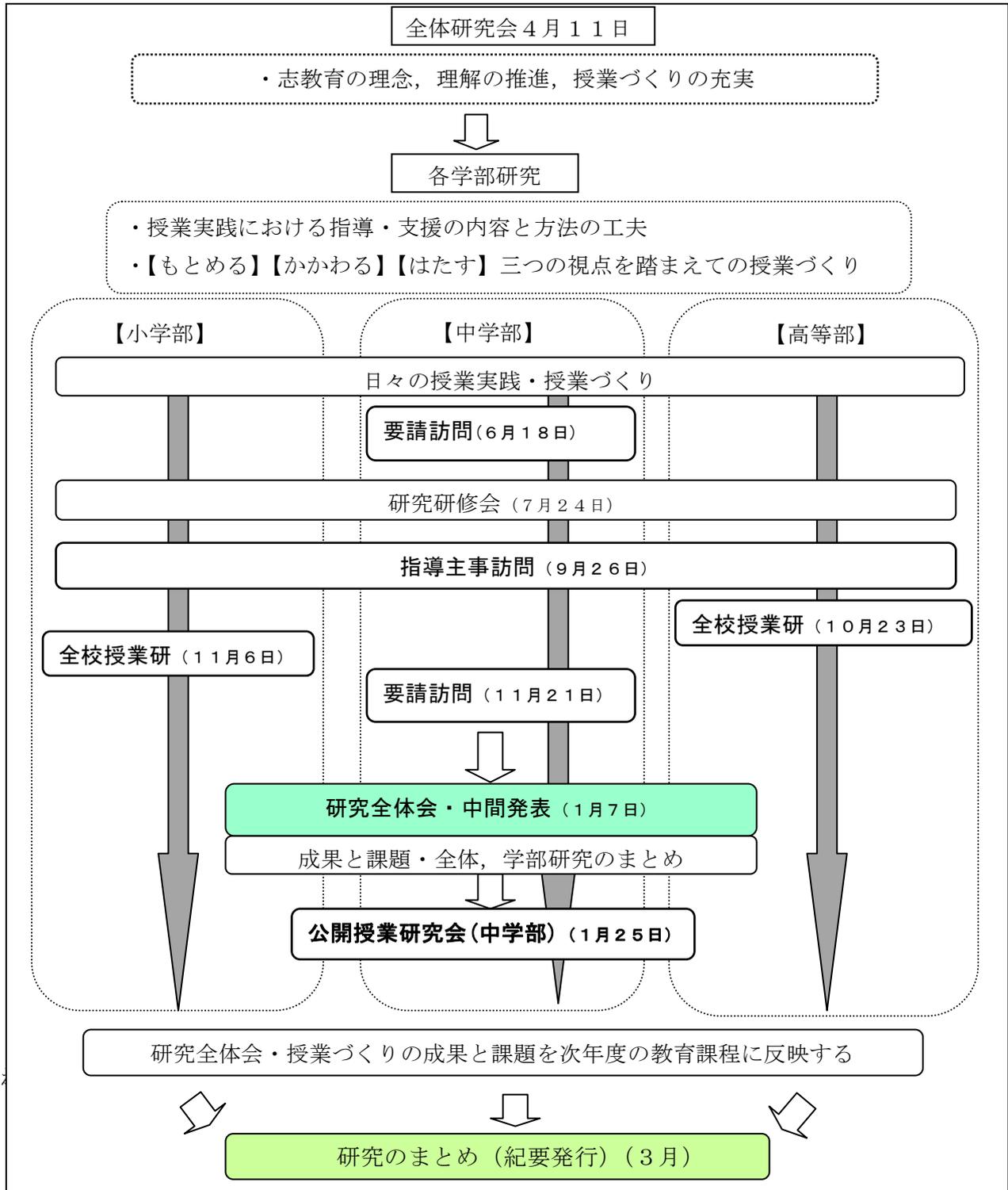


VI 研究の実際

1 二年次の研究の経過

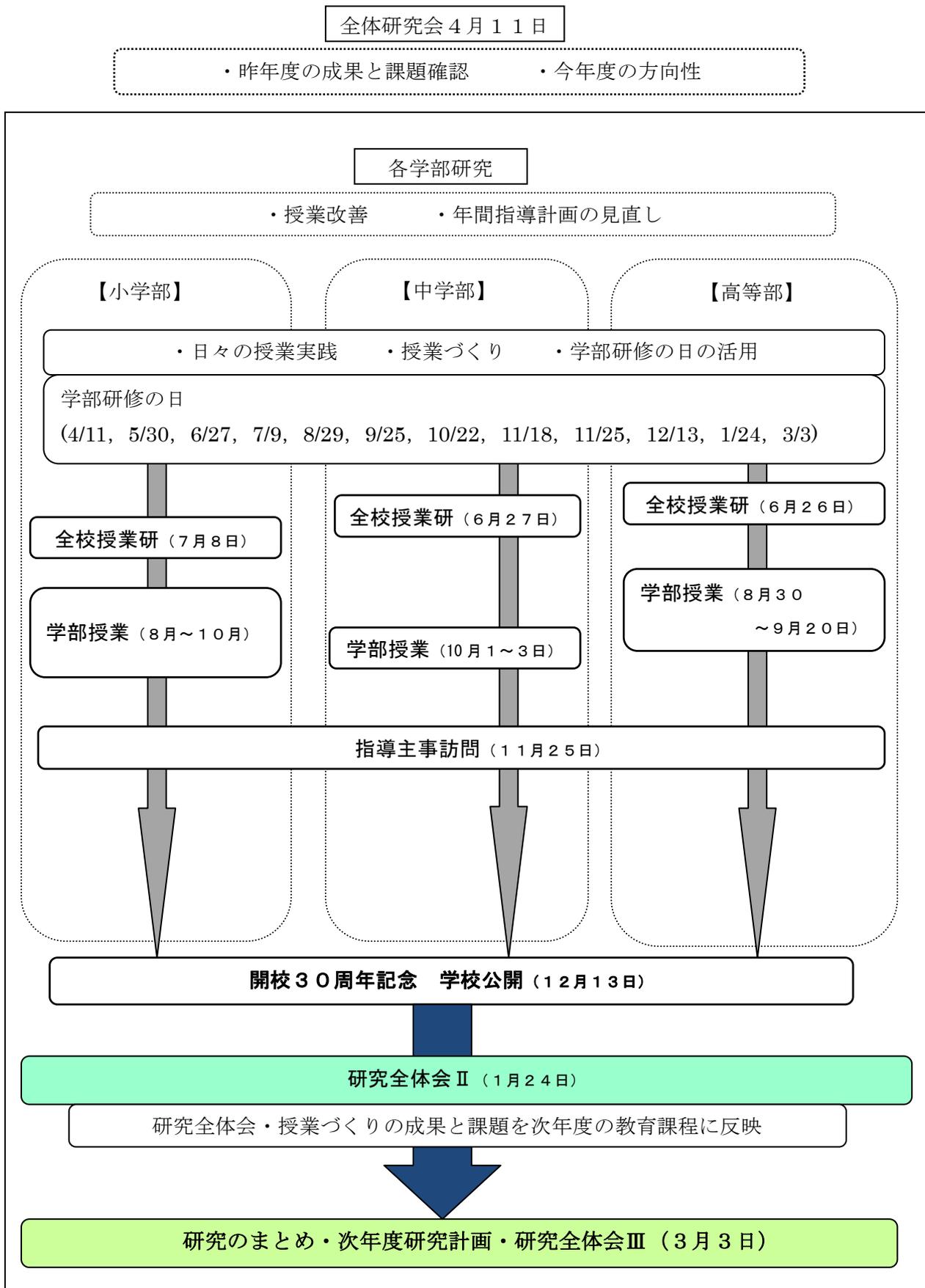
一年次の研究の成果と課題を踏まえて、志教育の三つの視点で授業づくりを行い、主題に迫るため、以下の流れで取り組みを進めた。

- 1) 授業実践における指導・支援の内容と方法の工夫
- 2) 志教育の理念，理解の推進
- 3) 授業づくりを通して系統性ある教育課程の見直し



2 三年次の研究の経過

1, 2年次の研究の成果と課題を踏まえて、主題に迫るため、以下の流れで取り組む。



2 研究の実践

1) 各学部の研究計画

(1) 二年次の各学部の研究計画

学部	小学部	中学部		高等部
		作業学習	自立活動	
研究テーマ	自らの興味・関心を広げ、進んで取り組む児童の育成を目指した授業づくり	自分の役割を最後までやり通す生徒の育成を目指した授業づくり	重度・重複障害のある生徒が、自分の意思で身体を動かそうとする力を育む指導の充実	将来の夢や希望を持ち、実現に向けて努力しようとする生徒の育成を目指した授業づくり
サブテーマ	人や物とかかわる活動の積み重ねを通して	自ら進んで活動するための支援の工夫を通して	「個別の指導プログラム」を主とした自立活動の授業づくりを通して	作業学習における支援の工夫を通して
テーマ設定の理由	<p>①身のまわりの人や物とかかわり、その経験を積み重ねることにより、生活する力を育成することが必要である。</p> <p>②そのために児童の実態把握を適切に行い、発達段階に応じてできる状況づくりをすることが重要となる。</p> <p>③人や物とかかわる経験の意図的な積み重ねを通して、日常生活の中で成功経験の少ない児童が、楽しみを次につなげる経験や成功体験を積んでいくことは、活動への意欲になる。</p>	<p>①小学部段階で積み上げてきた様々な基礎的スキルを土台に、果たすべきことに前向きに取り組もうとする態度を育成したい。</p> <p>②友達とともに活動する過程において自他の理解を図りながら、役割を果たすことや認められること、友達とともに活動することの喜びを味わえるようにしたい。</p> <p>③自らのやりたいことを確実にしながら作業を選択し、それを自分の役割としてとらえ、その役割を最後までやり通す経験を積み重ねるならば、自分の役割により積極的にかかわるようになるのではないかな。</p>	<p>中学部の重度・重複障害のある生徒の実態には次のことが挙げられる。</p> <p>①健康に学校生活を送るために、様々な配慮を要する。</p> <p>②自分の意思で身体の動きをコントロールすることが難しい。</p> <p>③身体に筋緊張が見られる。</p> <p>④周りの人とコミュニケーションをとることが難しい。</p> <p>これらの実態を踏まえ、生徒の主体的に活動する力を「自分の意思で身体を動かす力」と考え、個別の指導計画を基にした「個別の指導プログラム」を作成し、これを主とした自立活動の授業づくりを行うことで、テーマに迫れるのではないかな。</p>	<p>①学習内容や課題について十分に理解した上で活動に臨む経験の積み重ねが必要ではないかな。</p> <p>②自己理解を深めるとともに、それをもとにした主体的な選択や決定を行う場面の経験を積ませることが、将来の夢や希望を持つことや選択していかうとする態度の育成につながるのではないかな。</p> <p>③平成23年度から作業班を再編し、より生産性の高い商品や、実社会に通用するサービスを提供できるようにすることで働くことの意義への理解が深まるのではないかな。</p>
対象領域	遊びの指導 生活単元学習	作業学習	自立活動	作業学習
授業づくりの視点	<p>【もとめる】 興味・関心を持って活動に取り組もうとする意欲を引き出す工夫</p> <p>【かかわる】 教師や友達とのかかわりを楽しめるようにする工夫</p> <p>【はたす】 「できる」体験を積み重ね、達成感を持てるようにする工夫</p>	<p>【もとめる】 自分のやりたいことを選択し、進んで取り組む力を育てる工夫</p> <p>【かかわる】 友達とのかかわりを楽しむための支援の工夫</p> <p>【はたす】 自分の役割を果たそうとする態度・意欲を引き出す工夫</p>	<p>【もとめる】 自己表現・自己表出すること 興味・関心を広げること</p> <p>【かかわる】 人や物とのかかわりを広げること</p> <p>【はたす】 達成感や達成感を味わうこと</p>	<p>【もとめる】 学習への意欲を引き出し、自己評価や課題設定のための気づきを促す工夫</p> <p>【かかわる】 目上の人とのかかわりに関する課題設定の工夫</p> <p>【はたす】 集団の中で自分役割を自覚し、その責任を果たそうとする態度を育てる工夫</p>
研究推進の方策	授業参観シートの活用 ビデオ検討会の実施	授業参観シートの活用 模擬授業検討会の実施	個別の指導プログラムに基づく授業実践 外部専門家（PT, OT）からの助言	相互授業参観 教育課程の共通理解 (作業学習の位置づけ)
授業研究	9/26 (水) 指導主事訪問 11/6 (火) 全校授業研究	6/18 (月) 指導主事要請訪問①(作業) 9/26 (水) 指導主事訪問(作業・自立) 11/21 (水) 指導主事要請訪問②(作業・自立) 12/3(月)宮城教育大学菅井教授との授業検討会(自立) 1/25 (金) 公開研究会(作業・自立)		9/26 (水) 指導主事訪問 10/23 (火) 全校授業研究

(2) 三年次の各学部の研究計画

学部	小学部	中学部	高等部
研究テーマ	自らの興味・関心を広げ、進んで取り組む児童の育成を目指した授業づくり	自分の役割を最後までやり通す生徒の育成を目指した授業づくり	将来の夢や希望を持ち、実現に向けて努力しようとする生徒の育成を目指した授業づくり
サブテーマ	人や物とかかわる活動の積み重ねを通して	自ら進んで活動するための支援の工夫を通して	作業学習における支援の工夫を通して
テーマ設定の理由	<p>①身のまわりの人や物とかかわり、その経験を積み重ねることにより、生活する力を育成することが必要である。</p> <p>②そのために児童の実態把握を適切に行い、発達段階に応じてできる状況づくりをすることが重要となる。</p> <p>③人や物とかかわる経験の意図的な積み重ねを通して、日常生活の中で成功経験の少ない児童が、楽しみを次につなげる経験や成功体験を積んでいくことは、活動への意欲になる。</p>	<p>①小学部段階で積み上げてきた様々な基礎的スキルを上台に、果たすべき事に前向きに取り組もうとする態度を育成したい。</p> <p>②友達とともに活動する過程において自他の理解を図りながら、役割を果たすことや認められること、友達とともに活動することの喜びを味わえるようにしたい。</p> <p>③自らのやりたいことを確かにしながら作業を選択し、それを自分の役割としてとらえ、その役割を最後までやり通す経験を積み重ねるならば、自分の役割により積極的にかかわるようになるのではないかな。</p>	<p>①学習内容や課題について十分に理解した上で活動に臨む経験の積み重ねが必要ではないかな。</p> <p>②自己理解を深めるとともに、それをもとにした主体的な選択や決定を行う場面の経験を積ませることが、将来の夢や希望を持つことや選択していこうとする態度の育成につながっていくのではないかな。</p> <p>③平成23年度から作業班を再編し、より生産性の高い商品や、実社会に通用するサービスを提供できるようにすることで働くことの意義への理解が深まるのではないかな。</p>
対象領域	遊びの指導 体育	作業学習	作業学習
授業づくりの視点	<p>【もとめる】 興味・関心を持って活動に取り組もうとする意欲を引き出す工夫</p> <p>【かかわる】 教師や友達とのかかわりを楽しめるようにする工夫</p> <p>【はたす】 「できる」体験を積み重ね、達成感を持てるようにする工夫</p>	<p>【もとめる】 自分のやりたいことを選択し、進んで取り組む力を育てる工夫</p> <p>【かかわる】 友達とのかかわりを楽しむための支援の工夫</p> <p>【はたす】 自分の役割を果たそうとする態度・意欲を引き出す工夫</p>	<p>【もとめる】 学習への意欲を引き出し、自己評価や課題設定のための気づきを促す工夫</p> <p>【かかわる】 目上の人とのかかわりに関する課題設定の工夫</p> <p>【はたす】 集団の中で自分役割を自覚し、その責任を果たそうとする態度を育てる工夫</p>
研究推進の方策	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくりの視点を生かした授業づくり 授業参観シートの活用 授業振り返りシートの活用 「ムーブメント教育・療法プログラムアセスメント」による実態把握(体育) 年間指導計画の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 三つの視点を生かした授業づくり 個別支援シートと作業学習における段階表の活用 作業学習・学習展開基本モデルによる授業づくり 教材・教具発表会による支援の共有と検討 授業参観シートの活用 年間指導計画の運用と見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業づくりの視点」を生かした授業づくり 相互授業参観・ワークショップ型検討会(お話会)の実施 授業参観シートの活用 年間指導計画の見直し
授業研究等	7/8(月)全校授業研 8月～10月 学部授業 11/25(月)指導主事訪問 12/13(金)学校公開	6/27(木)全校授業研 6/27(木)中、高合同事後検討会 11/25(月)指導主事訪問 12/13(金)学校公開	6/26(水)全校授業研 8/30(金)～9/20(金)学部授業 11/25(月)指導主事訪問 12/13(金)学校公開

(3) 授業実践における指導・支援の内容と方法の工夫（三年次の新たな取り組みから）

①三つの視点の他教科への反映（小学部体育科）

小学部の研究において、昨年度取り組んだ遊びの指導の研究成果を踏まえ、体育の授業に反映させながら授業作りを行った。遊びの指導の主な特徴である、自然発生的に体を動かしたり、遊具で遊んだり、人とのやりとりを学ぶ活動から、体を総合的に動かしたり、調整力を促したりする意図的な運動へとつながる体育の授業を【もとめる】【かかわる】【はたす】の三つの視点を生かして、年間指導計画の見直しから始めた。

その結果、三つの視点を具体的に焦点化して取り組むことで、授業改善のポイントが明確となり、よりよい授業づくりに結び付けることができた。教師が変化を加え日々の授業を繰り返すことで、子供たちは意欲的に学習活動に取り組み、身のまわりの人や物との関わりを積み重ね、達成感、成就感を味わい、次の学習につながっていくことが明らかとなった。

（詳しくは、小学部の研究のまとめを参照）

②中学部、高等部の合同事後検討会

中学部、高等部の全校授業研究会において、合同で事後検討会を設定し「授業づくりの三つの視点」について協議し、授業づくりに生かすことをねらって行った。

また、作業学習の系統性、中学部、高等部の指導の系統性(教師の指導の手立て、配慮、支援)についても協議し、学部間の連携を図ることとした。

その結果、【もとめる】【かかわる】【はたす】の共通した軸があるため、論点がぶれず、ワークショップごとに活発な話し合いが行われ、ねらいや指導の重点の違いなど、学部ごとの話し合いでは出されなかった新たな支援に気付くこともできた。各ワークショップのまとめは以下の通りである。

	木工分科会	園芸・農芸分科会	工芸・手工芸分科会	陶芸・サービス分科会
中学部	木工班	園芸班	工芸	陶芸班
	○自分の役割の意識化 ・一人のできる工夫 ▲目標設定 ・数・文字の認識ができない生徒への配慮	○色別視覚支援 ▲自然な関わりを増やす。	○称賛が意欲につながっていた。 ▲自立活動や個別の目標とのリンク	○個に応じた目標設定 ○手順カードの活用 ▲字が読めない生徒への支援
高等部	木工班	農芸班	手工芸	サービス班
	○生徒同士の関わり ▲ワークシートの改善	○仕上がりにタイマーが有効 ▲EM作業の難しさ ・利用者の声 ・モチベーション	○関わりが苦手な生徒への配慮・支援の工夫 ▲基礎作り ・製品作りで意欲を持たせる。	○報告 ○仲間へのやさしさ ▲課題意識の持たせ方 ▲役割を果たせる手立て ・写真カードなど
課題	・がんばりカード・ワークシートの改善	・中高の作業製品を利用し合う。	・目標設定 ・中等部の量的な目標から高等部の質的な目標へ	・関わりについて ・高等部のマニュアルがあるとよい。 (やりとりボードや個に応じた手立て)

中学部・高等部全校授業研事後検討会まとめ

2) 志教育の理念, 理解の推進

(1) 全体研修会

授業づくりに生かすために, 基本となる事柄について, 全体で研修会を行った。

	期日	研修内容	講師等
1	2012 4/11	キャリア教育と志教育の視点による授業づくりについて ・各種教育の重点の「みやぎの志教育」の内容確認 ・学校教育目標と志教育全体計画の関連の確認	校内研究全体会
2	2012 6/17	志教育について～特別支援教育におけるポイント～ ・宮城県教育振興基本計画と「志教育」 ・学校教育の方針と重点における「キャリア教育」と「志教育」の関係 ・特別支援教育における「志教育」	宮城県教育庁 特別支援教育室室長補佐 栗林正見 先生
3	2012 7/26	志教育の推進について ・志教育推進までの経緯（「宮城県教育振興基本計画」より） ・志教育の概要（「みやぎの志教育プラン」より） ・志教育の実践（「みやぎの志教育推進 授業や活動のヒント集 1」より）	宮城県特教育庁 義務教育課主幹 早川知宏 先生
4	2012 9/12	自立活動をめぐって～授業の捉え直し～ ・自立活動の意義 ・自立観の変遷とこれからの自立活動 社会適応・個体内発達モデルから社会参加モデルへ	宮城教育大学教授 菅井裕行 先生
5	2013 4/11	志教育の視点による授業づくりについて ・二年次の研究成果の共有	校内研究全体会

(2) 研修会参加と伝達講習会

研究推進に関連する各種研修会に参加し, 伝達講習会で情報を共有した。(抜粋)

	事業名	テーマ	キーワード
1	宮城県教育委員会指定 志教育支援事業	(推進地区指定) 「若柳地区志教育小中交流会・発表会」	志教育
2	秋田県立ゆり養護学校 研究会	「豊かな生活を送るために」 ～活動する喜びや働く喜びが実感できる授業を目指して～	授業づくり 働く喜び
3	宮城県立金成支援学校 自主公開研究会	「児童生徒個々のねらいを踏まえた授業づくり」 ～授業づくりの三つの視点を踏まえた実践を通して～	授業づくり 三つの視点
4	宮城県立船岡支援学校 自主公開研究会	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための自立活動の工夫～外部専門家, 教師間のアドバイスを生かした指導の実践を目指して～	自立活動 外部専門家
5	宮城県立利府支援学校 自主公開研究会	「生徒一人一人の目標到達を目指した授業づくり」	授業づくり
6	東京都立中野特別支援 学校公開授業研究会	「一人一人に応じた授業の充実」 授業づくりの視点: 児童・生徒が自ら分かって働ける授業	授業づくり 自ら働く
7	東京都立田無特別支援 学校公開研究会	「自立と社会参加を目指した学習指導の充実」 ～学習指導計画の作成と授業実践を通して～	自立と社会参加 学習指導の充実
8	横浜国立大学附属支援 学校公開セミナー 2012	自立と社会参加をめざした教科中心教育(Ⅱ) 学部間連携で考える 動きづくり・とらえかた・コミュニケーション	自立と社会参加 学部間連携
9	知的障害児教育研究協 議会研究協議会	かかわる・つながる・カリキュラム(最終年) -系統性・発展性のある指導計画と授業づくり-	系統性・発展性 授業づくり
10	3回キャリア教育推進 者研究協議会	「特別支援教育におけるキャリア教育の充実を図るための 研修パッケージ開発」	キャリア教育

(3) 志教育に関連する文献の研究

- ・宮城県教育振興基本計画 ・みやぎの志教育プラン
- ・みやぎの志教育推進 授業や活動のヒント集 1
- ・「夢や志を育む教育」大阪府教育委員会 平成22年3月
- ・学力も人間力もぐんぐん伸びる「志教育」の秘密

3) 授業づくりを通して系統性ある教育課程の見直し

(1) 志教育の視点に基づく小・中・高の系統性ある教育課程の整理 (教育課程委員会)

本校では、志教育の全体計画の作成並びに各学部の授業実践の積み重ねを通して、教育課程委員会の中で、各指導の形態について、それぞれ指導の検討、各教科、領域等の具体的指導内容等の観点から、各学部の教育課程の見直しに取り組んでいる。その抜粋は以下の通りである。

	全体	小学部	中学部
領域・教科を合わせた	<p>【ねらい】 児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動を適切に指導する。</p> <p>【指導内容】 ①基本的な生活習慣の形成を図る内容 (はたす) 衣服の着替え、靴の履き替え、排せつ、手洗い、歯みがき、身だしなみ、食事、整理整頓、清掃、その他発展課題) ②生活集団への適応力を養う内容 (かかわる) あいさつ、礼儀、進退、言葉遣い、けじめのある生活、係活動、その他発展課題) ③健康・安全、性に関する内容 健康な生活、廊下の歩き方、交通安全、交通機関の利用、男女のマナー、その他発展課題)</p>	<p>【指導方針】 ①児童一人一人の課題を明確にして指導計画を作成する ②連絡ノートや個別面談等の機会を利用して学校と家庭の連絡を密にし、効果的な指導ができるように配慮する。 ③毎日の学校生活の流れの中で、同じような繰り返し、反復して指導することにより、無理なく学習の定着が図れるようにする。</p> <p>【具体的指導内容・主な単元】 ①朝の活動 登校、荷物整理、着替え、靴の履き替え、排せつ、係活動、朝の会、 ②ほかほかタイム リズム体操(1~4)、朝の運動(5、6)、身体の緩め(重複) ③給食 支度、食事、片付け、歯みがき ④帰りの活動 清掃、排泄、着替え、荷物整理、帰りの会、下校 ⑤健康・安全、性に関する内容</p>	<p>【指導方針】 ①学校生活の流れの中で繰り返し取って行動できるよう配慮する。 ②月に1回合同朝の会を設定し、生々見直しを持たせる。 ③係活動等を通して生徒の自主性を</p> <p>【具体的指導内容・主な単元】 ①朝の活動 登校、あいさつ、荷物整理、着替え、係活動、朝の会、朝の運動、うがい ②給食 手洗い・支度、食事、片付け、歯みがき ③帰りの活動 清掃、排泄、着替え、荷物整理、係 ④健康・安全、性に関する内容 病気予防、性、食、肥満予防</p>
	<p>【ねらい】 遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかかわり合いを促す。</p> <p>【指導内容】 ①低学年、中学年では遊びそのものを存分に楽しませる指導 (もどめる) ②高学年では、集団の中での社会性やかかわりの力を育てる指導内容 (かかわる)</p>	<p>【指導方針】 ①遊びをできる限り制限することなく、安全に遊べる場や遊具を設定し、積極的に遊ぶことができるようにする。 ②教師と児童、児童同士の関わりをうながす場を設定し、遊具等を工夫するようにする。 ③自ら遊びに取り組むことが難しい児童には、遊びをうながし、遊びに誘い、いろいろな遊びを経験させ、遊びの楽しさを味わわせるようにする。</p> <p>【具体的指導内容・主な単元】 ①自由遊び 校庭での遊び、プレールームでの遊び ②課題遊び 水遊び、感触遊び、乗り物遊び、ゲーム遊び、リズム遊び、劇遊び、「作って遊ぼう」「みんなで遊ぼう」等 ○低学年：紙、絵の具、粉などの素材に触れる感触遊びや水遊び、遊具遊びあるいは歌遊びを中心に行う ○中学年、高学年：加えて簡単なルールのある遊び、楽器を使ったリズム遊びなど</p>	
	<p>【ねらい】 生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な態度及び習慣を養い、もって心身の調和的な発達を基盤を培うことをねらいとする。</p> <p>【指導内容】 (もどめる・かかわる・はたす) ①一人一人の発達課題に即した運動 (粗大運動、巧緻運動) ②児童生徒の自発的サインの把握 ③他動的な運動 (関節可動域の維持・拡大の運動) ④小集団による音楽療法的な活動 ⑤感覚遊び (諸感覚への刺激)</p>	<p>【指導方針】 ①一人一人の児童に対して「できる状況作り」を行い、持っている力を最大限発揮できるように配慮する。</p> <p>【具体的指導内容・主な単元】 ①共通題材 身体遊びのび ボールでバランス ゆれて、まわって、こがって、みて、きいて、かんじて ②個別の課題 課題にチャレンジ</p>	<p>【指導方針】 ①生徒の興味・関心を中心に学習内容を構成や時数に十分な配慮をしながら進める。また、生徒の実態に合わせて</p> <p>【具体的指導内容・主な単元】 ①Aグループ リフレッシュ体操 造形活動をしよじよう 身体で感じよう 感謝の気どん ②Bグループ リフレッシュ体操 個別課題に沿って</p>
	<p>【ねらい】 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。</p>		<p>【指導方針】 ①生徒の興味・関心・意欲を大切にすることをねらう。また他校生と交流</p> <p>【具体的指導内容・主な単元】 ①わくわく教室 (縦割りグループにドベンチャー等の活動) ②蛇田中学校交流学習 ③ディサービス訪問</p>
総合的な学習の時間			

Ⅶ 3年間のまとめ

1 研究の成果

本校の教育課題である「児童生徒一人一人の将来を見据えた自立と社会参加につながる教育の実践」を実現するため「自分の思いを確かにし、主体的に生活しようとする力を育む指導の充実」の研究主題を設定した。また、一年次の研究の結果から、副題を「【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点を踏まえた授業づくりを通して」と改め、二年間の実践研究に取り組み次のような成果が得られた。

1 志教育の【もとめる】【かかわる】【はたす】の三つの視点を取り入れ、授業づくりを行うことで、適切な支援が実現し、子供たちは「できた」という達成感を味わうことができた。

これは

- ① 児童生徒自身一人一人が一単位の授業や単位の中での果たすべき課題をつかむことを【もとめる】と位置づけ、その支援の工夫に努めたこと。
- ② 課題達成に向けた活動の中で育まれる人や物との関わりを【かかわる】と位置づけ、その支援の工夫に努めたこと。
- ③ 課題達成に必要な意欲を持続させ課題達成の成就感を十分に味わわせることを【はたす】と位置づけ、その支援の工夫に努めたこと。

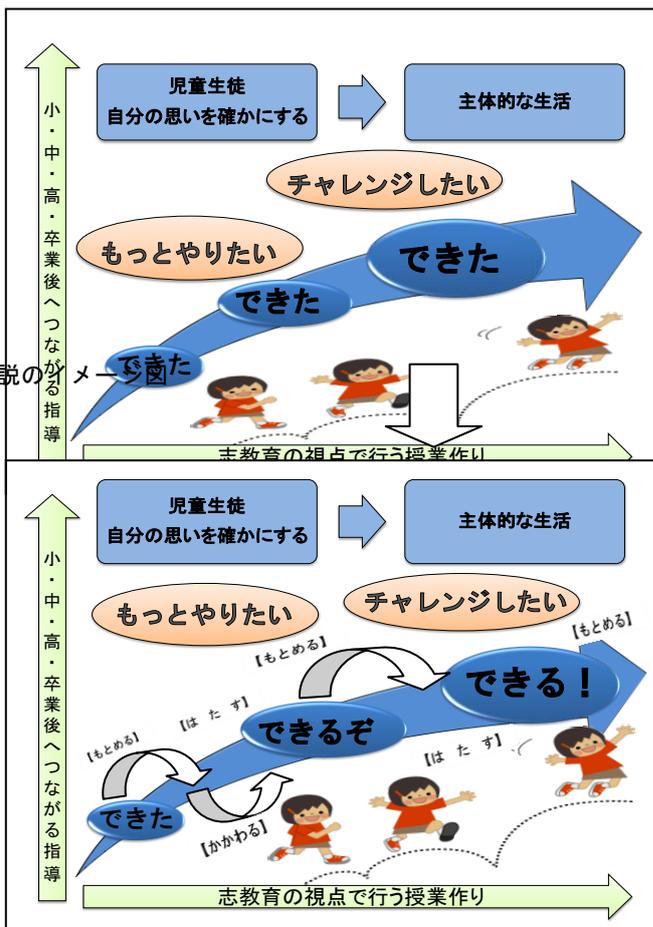


図1 研究仮説のメカニズム

によるといえる。そして、児童生徒の中で「できた」という達成感の積み上げの中で、単に「できた」に止まることなく、「できるぞ」というさらなる自信の深化につながってきた。また、「できるぞ」という見直しの上に成り立つ自信、そして活動の後に得られる次の達成感、その先の活動に対する意欲と集中につながっていったと考える。こうした、児童生徒が「できた」「できるぞ」という一連の達成感や自信がもてる授業改善のスパイラルの中で、やがて「できるぞ」から「できる!」という活動全体を通じた自己肯定感、自己有用感につながっていったと考える(図2)。

2 【もとめる】【かかわる】【はたす】を授業改善の視点とすることで、授業改善の方向性がぶれず、支援の方法を工夫する上での教職員間の話し合いの共通した軸となり、学部を越えての授業研究会や校内研修会においても共通の視点で議論することができた。

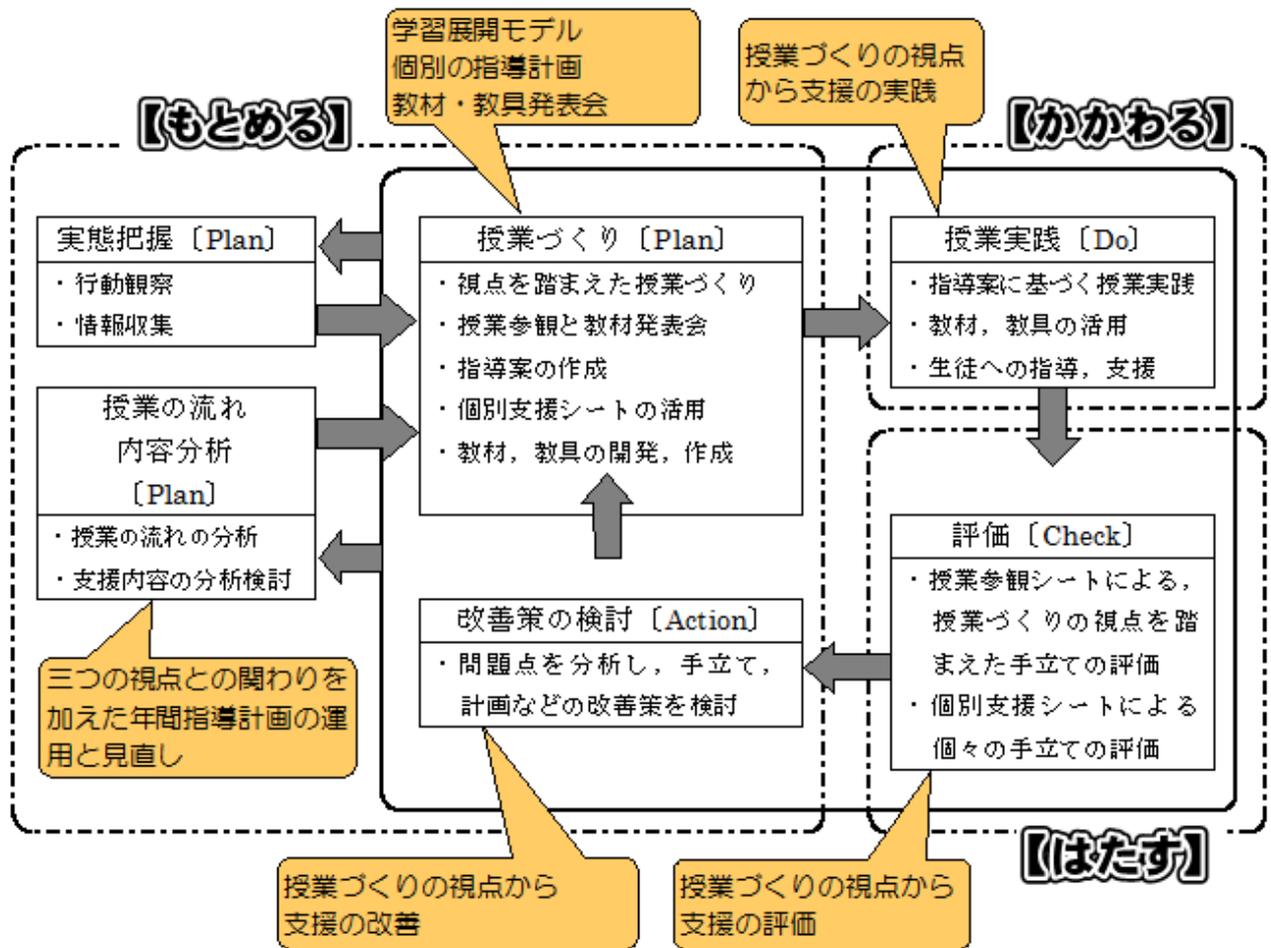
また、研究の過程や成果を、校内の

図2 「できるぞ」「できる!」という意欲につながった

教育課程委員会と連携して、教育課程の見直し、改善の一資料として生かすことができた。

これは本校の志教育と目指す教育課程像が一体化し、志教育の【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点と、本校志教育全体計画の各学部を目指す児童生徒像とが関連づけられているためと思われる。

また、①授業づくり(ACTION) (PLAN) を子どもに【もとめる】こと、②授業実践 (DO) を子どもとどう【かかわる】か、③評価(CHECK)を指導の成果【はたす】として、授業改善のPDCAサイクルと対比させることで、常に【もとめる】【かかわる】【はたす】を意識しながら日々の授業改善に取り組むことができたためと思われる。



2 今後の課題

3年間の共同研究の取り組みにより、一単位時間、一單元ごとの授業改善が進み、教育課程の改善も行われ、日々「自分の思いを確かにし、主体的に生活しようとする力を育む指導」に近づく授業実践ができた。しかし、研究対象とした指導の形態は限られており、全ての指導の形態においてもさらに実践を積み重ねていきたい。また、今年度完成した本校版の指導内容表に基づく教育課程の整備と個別の指導計画に基づく「児童生徒一人一人の将来を見据えた自立と社会参加につながる教育の実践」をさらに推進していきたい。

自らの興味・関心を広げ、進んで取り組む児童の育成を目指した授業づくり ～人や物と関わる活動の積み重ねを通して～

I テーマ設定の理由

本校小学部の児童の実態として、下記の①～②のことが挙げられる。

- ①障害の種類の多様化と重度化が見られる。知的障害と肢体不自由やてんかん等の疾病や自閉症または自閉的傾向を併せ有する児童が多く、社会生活年齢が0～3歳台の発達段階に分布している児童が8割を占める。
- ②経験不足等のため、興味・関心の幅が狭く、受動的である。更に、興味・関心の持続する時間が短い。

以上の実態と全体テーマ「自分の思いを確かにし、主体的に生活しようとする力を育む指導の充実」を踏まえ、小学部では、

- ①身のまわりの人や物と関わり、その経験を積み重ねることにより、生活する力を育成することが必要である。
- ②そのために児童の実態把握を適切に行い、発達段階に応じてできる状況づくりをすることが重要となる。
- ③人や物と関わる経験の意図的な積み重ねを通して、日常生活の中で成功経験の少ない児童が、楽しみを次につなげる経験や成功体験を積んでいくことは、活動への意欲になる。

と考え、学部研究テーマを「自らの興味・関心を広げ、進んで取り組む児童の育成を目指した授業づくり」とした。また、副題を「人や物と関わる活動の積み重ねを通して」とし、1年次、2年次は「遊びの指導」と「生活単元学習」、3年次は「遊びの指導」と「体育」の指導を通してテーマに迫ることにした。「生活単元学習」から「体育」へ移行した理由は、「遊びの指導」の発展としての「体育」と捉え、「遊びの指導」から「体育」の指導へと教育課程によりよく反映されるからである。

II 研究目標

研究の背景を受け、小学部の研究では以下の3点を目標とする。

- 小学部の遊びの指導における授業づくりとその効果の検証
- 小学部の体育における授業づくりとその効果の検証
- 現行の「遊びの指導」と「体育」における教育課程の課題と次年度への改善点の吟味

表1 授業研究会、授業実践の期日・授業名

期 日	実 施 学 級 ・ 授 業 名 等
7月1日（月）～7月17日（水） ＜授業実践＞	1年～4年（合同）遊びの指導 全7時間 題材名「みんなでリズム遊び」
7月8日（月）＜全校授業研究会＞	5年～6年（合同）体育 全18時間 題材名「あるこう はしろう」

Ⅲ 研究の内容と方法（平成25年度）

1 研究のイメージ図

小学部研究テーマ
自らの興味・関心を広げ、進んで取り組む児童の育成を目指した授業づくり
～人や物と関わる活動の積み重ねを通して～



【小学部の「遊びの指導」及び「体育」】
「遊びの指導」遊びそのものを楽しむことを通して児童の人や物との関わる力を伸ばし、興味・関心の幅を広げる。
「体育」 1～4年で身についた「遊びの指導」の発展としての体育を経験し、進んで楽しく身体を動かす。

授業改善 ○【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点から支援を工夫 ○授業振り返りシートの活用 ○授業参観シートの活用	年間指導計画の見直し ○【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点を踏まえた見直し
---	--



目指す児童像

【もとめる】 人や物へ幅広く 興味・関心を持つ児童 ・興味・関心を持って活動に取り組もうとする姿	【かかわる】 教師や友達との活動に 進んで取り組む児童 ・友達や教師と関わりを持つ姿 ・身近な人に自分の気持ちを伝える力	【はたす】 自分のことを 自分でする児童 ・食事、着替え、排せつなど一人のできることを増やしていく姿。
---	--	--

元気な身体をつくる児童



〈教師の願い〉

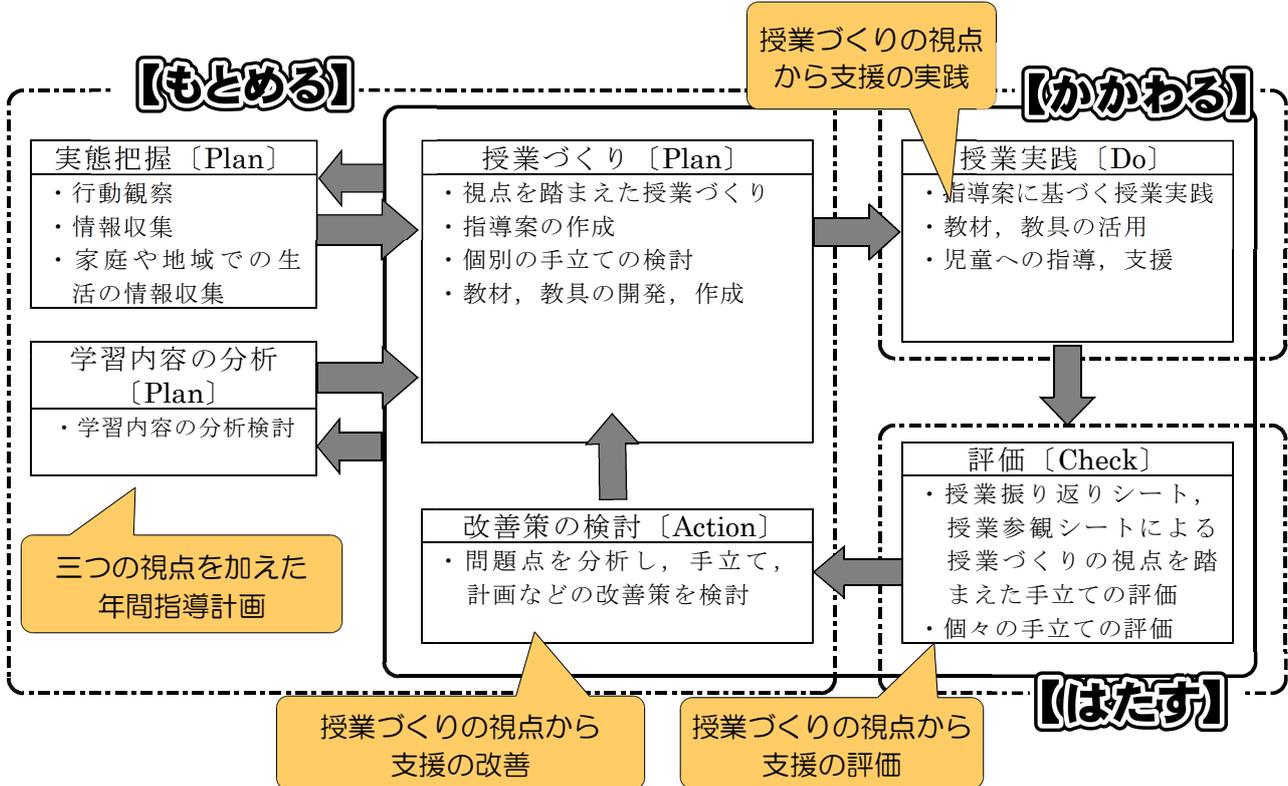
- ・遊びそのものを楽しむことを通して、興味・関心や意欲を引き出し、教師や友達と関わりながら、自ら遊びに向かおうとする意欲を育てたい。
- ・基本的な運動や遊びなどを通して、進んで体を動かす経験を積み重ね、体を総合的に動かす力を身につけさせたい。



〔小学部児童の実態〕

- ①障害の多様化と重度化が見られる。知的障害と肢体不自由やてんかん等の疾病や自閉症または自閉的傾向を併せ有する児童が多く、社会生活年齢が0～3歳代の発達段階に分布している児童が8割を占める。
- ②経験不足等のため、興味・関心の幅が狭く、受動的である。更に、興味・関心の持続する時間が短い。

2 授業づくりにおける教師の【もとめる】【かかわる】【はたす】



3 授業改善

1) 三つの視点を生かした授業づくり

授業づくりの視点【もとめる】【かかわる】【はたす】との関連性を押さえた授業づくりを展開できるようにする。

授業づくりの視点

視点【もとめる】	興味・関心を持って活動に取り組もうとする意欲を引き出す工夫
視点【かかわる】	教師や友達との関わりを楽しめるようにする工夫
視点【はたす】	「できる」体験を積み重ね、達成感をもてるようにする工夫

2) 授業参観シートの活用

授業検討会において、検討する視点を全員で共有し、効果的な話し合いを進めるために、授業参観シートを活用する。授業づくりの視点から、授業参観の視点を設定する。

3) 授業振り返りシートの活用

指導期間中、授業振り返りシート（後述）を活用しながら、抽出児の変容を追い、授業改善に生かす。

4) 「ムーブメント教育・療法プログラムアセスメント」による実態把握（体育）

4月の段階でMEPA-Rによる実態把握を行う。運動・感覚領域の発達の段階を把握し、体育の授業に生かす。

4 年間指導計画の見直し ～ 【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点による見直し

「体育」と「遊びの指導」の年間指導計画を、【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点で見直すことで、児童の思いが、次の学習でさらに発展していくような構成や内容になるよう教育課程を改善していく。

IV 授業実践

1 授業改善

1) 授業づくりの視点を生かした授業づくり

授業づくりの三つの視点から支援を工夫し、授業実践を重ねながら授業づくりを行ってきた。以下に「遊びの指導」と「体育」の指導における主な支援の工夫をまとめた。この支援を基本に個に応じたより具体的な支援を考え、個々のねらいの達成に向けて取り組んだ。尚、「体育」の支援の工夫については、7月8日（月）に行われた全校授業研究会の授業で設定した支援の工夫である。

<遊び>

<体育>

視点【もとめる】 ～興味・関心を持って活動に取り組もうとする意欲を引き出す工夫～

興味・関心の拡大

・自由に遊びに向かうことができる場の設定を工夫した。児童の興味・関心の動向を観察し、その記録の累積から個々の興味の傾向を把握する。新たな興味が高まった遊びを中心に場を変化させ、更なる興味・関心の拡大をねらう。

興味・関心の拡大

・準備運動は、児童が乗りやすいテンポの曲で行う。音楽に合わせて体を動かすことの楽しさを味わうことをねらって、自由な動きを尊重するようにする。その後しっかり伸ばしたり、曲げたりを意識させるようにする。

場面設定の工夫

・多様な遊びを構造的に設定し、自分の興味のある遊びをとらえやすくする工夫をして、自発的に遊びに向かえるようにする。

学習意欲の喚起

・体育館までの移動は、学級の友達と棒につかまり、汽車に見立て、楽しみながら行うようにする。BGMも効果的に活用する。

活動の見通し・切り替え

・学習の流れを一定にし、繰り返し活動することで、見通しを持って取り組めるようにする。また、活動の流れを途切れさせないように、音楽を活用しながら、学習活動の切り替えを示す。

活動の見通し・切り替え

・学習の流れを一定にし、繰り返し活動することで、見通しを持って取り組めるようにする。また、仲間の運動の様子を見させ、次に自分が何をするのか把握できるようにする。

活動量の確保

・導入時から遊びの要素を取り入れ、学習時間いっぱい、児童が楽しめる活動内容を組み立てる。思う存分遊び込めるように、児童ができる遊び、挑戦したくなる遊びを用意し、待ち時間がないように遊びの材料を十分に用意する。

活動量の確保

・導入時から運動の要素を取り入れ、学習時間いっぱい、児童が集中できる活動内容を組み立てる。児童ができる動き、挑戦したくなる動きを用意し、運動の種類を十分に用意する。

視点【かかわる】 ～友達や教師との関わりを楽しめるようにする工夫～

関わりの段階の把握

・他者との関わり方がどの段階にあるのか、関わり表（学習内容表を基に作成）から把握し、目標や支援、働き掛けの内容を教師間で共通理解し、教師側からの働き掛けを一貫したものにす

発達の段階の把握

・運動・感覚、言語、社会性がどの段階にあるのか、MEP A-Rをから把握し、目標や支援、働き掛けの内容を教師間で共通理解し、教師側からの働き掛けを一貫したものにす

反応の出やすい場や機会の設定

・教師と一緒に活動したり、要求して手伝ってもらったりすることでより楽しめる場面を設定する。

人やもの、音に合わせる動きの設定、関わりの広がり

・教師の合図（太鼓の音）、号令に合わせて身体を動かす。身体が止まったことを意識できるようにするために、鈴を持たせる。

・友達と一緒に棒を握って、歩いたり、走ったりすることで、協調性を養う。棒の握り方を工夫したり、教師と一緒に持ったり、実態に合わせて支援することにより、「棒を持ったまま歩いたり、走ったりする」、「友達の動きやペースに合わせて歩いたり、走ったりする」の目標を達成できるようにする。

関わりの広がり

・児童同士の触れ合いを広げるために、複数で活動することで楽しみが大きくなる内容を工夫する。

・いくつかの学年や学級を一緒にすることにより、児童同士の関わり、児童と教師の関わりをを広げる。

児童の思いの言語化

- ・人や物，場所を媒介とした関わりを積み重ねることで，安心感を持って活動できるようにする。
- ・教師と触れ合いながら取り組める活動を設定し，「楽しいね。」など思いを共有したり言語化したりする。

視点【はたす】～「できる」体験を積み重ね，達成感をもてるようにする工夫～

達成感の強化・振り返り ・学びの意味付け

- ・振り返りの場面で「楽しかったね。」と児童の思いを共有したり言語化したりする。
- ・「できた」という喜びを味わうことができるように称賛したり，拍手でたたえる場面を設定する。

達成感の強化

- ・大きなプレイバルーンを友達や教師と一緒に楽しむことで達成感を味わせる。みんなで協力し，楽しさを共有する。
- ・プレイバルーンの上下運動に慣れてきたところで風船を加え，視覚的にもより楽しさや充実感が得られるようにする。

※「遊びの指導」において，視点【もとめる】，視点【かかわる】の工夫は，視点【はたす】の工夫と重なる部分がある。

2) 授業参観シートの活用

本時の授業づくりの視点をまとめた授業参観シートを作成，活用しながら授業を参観するようにした。本時の授業づくりの視点を明確にし，共有することで研究授業の事後検討会において有効な話し合いを目指した。授業参観シートの活用によって，以下のような成果が見られた。

小学部テーマ

「自らの興味・関心を広げ、進んで取り組む児童

の育成を目指した授業作り

～人や物とかかわる活動の積み重ねを通して～

視点【もとめる】 興味・関心をもって活動に取り組もうとする意欲を引き出す工夫

- ① - a 音楽遊び→移動→自由遊び→移動という流れで繰り返し取り組み、見通しをもって活動に取り組めるようにする。

・音楽が有効だった。音楽によって行動することができていた。

- ① - b 音楽を活動の切り替えに活用し、活動の流れを途切れさせるような説明や指示的な言葉掛けを少なくする。

音楽が次の指示の役割を果たしていた。

- ② - a 学習時間いっぱい、遊びの活動を確保するために、移動にも乗り物（アンパンマン号、ジェットコースター号）を用いて遊びの要素を取り入れる。

移動だけでなく、遊びの要素がよりよかった。

- ② - b 待ち時間を少なくして活動量を確保するために、多くの遊具を用意する。

・遊具の置卸がよかった。
②. 活動量の確保は、多くの遊具だけでは足りないのは活動場所の広さも必要では。

- ③ 遊びのコーナーに、これまでの遊びで児童が好んだ遊具（段ボールすべり台、エアトランポリン）を入れる

・エアトウが大好きな様子が見られた。
③. アンパンマン号も遊具としてあげればよかった。
興味・関心が高まったのでは。

視点【かかわる】 教師や友達とのかかわりを楽しむ工夫

- ① 遊具での活動を介して、「もっと揺らして。」「一緒にすべろう。」といった反応や要求が出ることを予想される遊具を設置する。

- 教師の引き出しが有効だった。

- ② 教師と触れ合いながら取り組める活動を設定し、「楽しいね。」など思いを共有したり言語化したりする。

- ③ 児童同士の触れ合いが自然に生まれるように、「シーソー」や「ボールプール」を設置する。

③. 遊具が多かったため、逆にかかわりやすくなったのでは。

視点【はたす】 できる体験を積み重ねて、達成感をもてるようにする工夫

・遊びにむこうことではたすようになったのでは。

○その他（自由記述）

〔○成果と●課題〕

○授業の成果と課題を、参観シートを基に付せんに記入し、事後検討会に提出する形を取ったことで、話し合いのポイントが明確になり、多様な意見が活発に交換された。

○授業の課題が明確になり、具体的な改善点へとつなげることができた。

●意見を反映させるためには、題材の半ばで研究授業を行い、同じ題材の授業で改善を検証できるようにしたい。

3) 授業振り返りシートの活用

研究授業では毎時間、授業づくりの三つの視点の振り返りを行った。授業後、教師間で抽出児の変容を確認しながら達成度を話し合い、PDC Aサイクル（授業づくり→授業実践→評価→改善策の検討）で授業を実践した。その結果、以下のような成果が見られた。

例 授業振り返りシート1

授業振り返りシート		抽出児童:	
月	日()	単元・授業名: 「あるこう はしろう」	記録者:
ねらい ・集合、整列、行進などの集団行動に慣れる。 ・歩く、走るなどの基本的な運動に慣れる。			
項目	達成度(成功度)	評価の根拠(票)/改善点(事)	
視点1 興味・関心をもって活動に取り組もうとする意欲を引き出す工夫 (もどめる)			
①体育館までの移動は、学校の友達と林に捕まり、汽車に見立て、楽しみながら行うようにする。BGMも効果的に活用する。	1 2 ③ 4 5	・途中で手を離してしまうことがあり、言葉掛けが必要。 ・音楽に合わせて歩いてる様子が見られる。	
②準備運動は、児童が乗りやすいテンポの曲で行う。しっかりと伸ばしたり、曲がたりを意識させるが、音楽に合わせて体を動かすことの楽しさを味わってほしいので、自由な動きを尊重するようにする。	1 2 ③ 4 5	・機嫌はまだできないが、自由に手足を動かす様子が見られた。	
視点2 教師や友達とのかわりを楽しむ工夫 (かかわる)			
①友達と一緒に林を囲って、歩いて、走ったりすることで、協調性を養いたい。DとCチームの児童は、林の割り方を工夫したり、教師と一緒に持ってやったりして、「林を持ったまま歩いて、走ったりする」の目標を達成できるようにする。	1 2 3 ④ 5	・教師が両端を支えることで、手を話さず「歩いて、走ったり」ができるようになった。 ・仲間に合わせては、芽生えが見えてきた。	
視点3 できる体験を積み重ねて、達成感をもてるようにする工夫 (はたす)			
①→a大きなブレイルーンを友達や教師と一緒に楽しむことで達成感を味わわせ。みんなで協力し、楽しさを分かち合うようにする。	1 2 3 ④ 5	・パルーンの上下に合わせて、身体を自分で上下していた。	
①→bブレイルーンの上下運動に慣れたところで風船を加え、視覚的にも楽しさや充実感が得られるようにする。	1 2 3 ④ 5	・風船をよく見ていた。笑顔などのいい表情が見られた。	

※達成度
5: 期待以上に達成された
4: 達成された
3: どちらとも言いえない
2: 達成されていない
1: 全く達成されていない

〔○成果と●課題〕

- 授業者で共通理解を図りながら児童のよりよい変容を積み重ねることができた。
- 改善策を授業者で検討することにより、次の授業に即時反映することができた。
- 児童の変容が明確になり、グラフ化することができた。
- 授業の録画ビデオを見ながら振り返りを行うと、より客観的なデータを集めることができた。
- 個々の題材の目標の見直しや検討を行うという観点から、題材の半ばあたりで話し合うとことが必要であり、より丁寧な振り返りとなる。

例 授業振り返りシート2

授業振り返りシート		抽出児童:													
まとめ		題材名: 「あるこう はしろう」													
ねらい		・いろいろな曲に合わせて動きを楽しむ。													
項目	日時	2/4	5/7	1/4	2/1	2/4	2/8	2/9	3/1	6/4	1/0	1/7	2/4	7/2	8
		(金)	(火)	(火)	(火)	(金)	(火)	(水)	(金)	(火)	(月)	(月)	(月)	(火)	(火)
視点1 (もどめる)															
体育館への移動の工夫		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
準備運動の工夫		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
視点2 (かかわる)															
人に合わせる力を育てる工夫		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
視点3 (はたす)															
達成感の強化		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※達成度
6: 期待以上に達成された
4: 達成された
3: どちらとも言いえない
2: 達成されていない
1: 全く達成されていない

4)「ムーブメント教育・療法プログラムアセスメント」による実態把握（体育）

4月の段階でMEP A-Rによる実態把握を行った。運動・感覚領域の「姿勢」、「移動」、「技巧」の部分でそれぞれクリアできていない課題を把握し、身体を総合的に動かす調整力を身につけるために、普段の生活で経験した事のない動きを意図的に組み入れて行くことができた。年度末にもう一度行い変容を見る。

2 年間指導計画の見直し ～ 【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点による見直し

「体育」と「遊びの指導」の年間指導計画を、【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点で見直した。各単元における単元設定の理由を明記し、また、目標と活動内容に三つの視点から見た重点の目安を設定した。これらによって各単元の年間における位置づけをはっきりとし、見直しをもった指導へとつなげていく。

(2) 単元学習計画 (18時間扱い)

単元名		歩こう走ろう		時数 18			
単元設定の理由		<p>「歩こう走ろう」は学習指導要領【体育】の内容、3段階の(1)歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動に基づき、年間計画に位置付けており、個別の実態を加味して、姿勢や動きを変えるなどしていろいろな方法で行うことをねらいとしている。</p> <p>音楽や教師の号令に合わせて「歩く」、「走る」、「スキップ」をしながら体育館をリズムカルに周回することで身体を総合的に動かす力の向上を図ることができる。また、道具を用いて身体を動かす基準を作る。グループに分かれ棒につかまりながら、仲間と速さを合わせて動きを変えながら移動したり、プレイバルーンを使って全員で上げたり下げたり回ったりするなど、道具や仲間を意識しながら自分の身体を調整する力を養うことができると考えた。</p> <p>音楽や号令による合図、仲間とつかまる棒やプレイバルーンなどの道具は、苦手なことではなく、児童が一生懸命やる気を持って使っていける教材であると考え。身体を上手に使う力、姿勢を維持したりする力、身体意識の発達を願い、本単元を設定した。</p> <p>○歩く、走る、はう、跳ぶなどの動作を通して、自分の身体意識を高め、基本的な運動技能を身につける。</p> <p>○教師や友達と一緒に、集合、整列、行進などの集団行動に慣れる。</p> <p>○歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動を姿勢や動きを変えるなどして行う。</p>					
目 標							
月	小単元名	時数	学習内容	【もとめる】	【かかわる】	【はたす】	備 考
4・5・6	いろいろな動きをしよう	3	・歩く、走る、はう、跳ぶなどの基本的な動きに教師と一緒に取り組む。	◎	◎	○	
	主な活動内容		<p>体育館への移動</p> <p>・学級ごとに一列に棒に捕まり、体育館に移動する。(写真A)</p> <p>準備体操</p> <p>・「手のひらを太陽に」の曲に合わせて、準備体操をする。</p> <p>リトミック</p> <p>・曲に合わせて、歩いたり、走ったりスキップしたりする。</p> <p>棒を持って歩こう、走ろう</p> <p>・太鼓のリズムに合わせて、歩いたり、走ったりする。</p> <p>①普通の速さ歩く</p> <p>②手を頭上に伸ばして歩く(写真B)</p> <p>③ゆっくり歩く</p> <p>④走る</p> <p>⑤マットを越える</p> <p>プレイバルーンをする。</p> <p>①上げたり下げたり(写真C)</p> <p>②くるくる回る</p> <p>③風船を弾ませる</p>	◎	◎	○	  
	歩こう走ろう (本時 15 / 15)	15					目標と内容から重点の目安を設定

V 研究の結果

授業づくりの視点を生かした支援、授業振り返りシート、授業参観シート、MEP A-Rの結果による授業改善などを通して、「体育」と「遊びの指導」の授業実践を行った。授業づくりの視点から、それぞれの授業で個々の児童の実態に応じて支援を改善しながら実践してきた。その支援による児童の変容を以下にまとめる。

1 授業の事例と児童の変容

1) 体育 5～6年 単元名 「歩こう走ろう」(4月～6月)

「歩こう走ろう」は学習指導要領【体育】の内容、3段階の「(1) 歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動を姿勢や動きを変えるなどしていろいろな方法で行う。」に基づき、年間計画に位置付けて指導している。個別の実態を加味して、いろいろな歩き方をすることや走ったり、跳んだりする楽しさを味わうことをねらいとしている。

音楽や教師の号令に合わせて「歩く」、「走る」、「スキップ」をしながら体育館をリズムカルに周回することで身体を総合的に動かす力の向上を図ることができる。また、道具を用いて身体を動かす基準を作る。グループに分かれ棒につかまりながら、仲間と速さを合わせて動きを変えながら移動したり、プレイバルーンを使って全員で上げたり下げたり回ったりするなど、道具や仲間を意識しながら自分の身体を調整する力を養うことができると考えた。

音楽や号令による合図、仲間とつかまる棒やプレイバルーンなどの道具は、苦手なことではなく、児童が一生懸命やる気を持って使っていただける教材であると考えた。身体を上手にを使って動かす力、姿勢を維持したりする力、身体意識の発達を願い、本単元を設定した。



〔○成果と●課題〕

視点【もとめる】

① (興味関心の拡大)

○【言葉掛けと動きの一致】

- ・準備体操の、「ぐるぐる」「キック、キック」など動きをイメージしやすかった。
- ・動きの構成が意図されていて良かった。

○準備体操の曲も実態に合いのびのびと楽しく体を動かすことができていた。

② (場面設定の工夫)

○【電車ごっこ+曲】は見通しが持てて効果的。

○【道具の工夫】がなされていて良かった。

- ・棒…つかまることで一列になることができていた。移動・整列が整然としていた。

○棒を握って友達と一緒に移動したりすることで、集団行動に取り組むことができた。

○汽車に見立てての移動は楽しみながら出来ていて、とてもよかった。

○興味・期待・見通し・棒・BGM・「いちに、いちに」効果的。

③ (学習の見通し、切り替え)

○「ぐるぐる」等の擬音語は音(リズム)もよく、子供たちに合っていた。動きを引き出すきっかけになっていた。

○【道具の工夫】がなされていて良かった。

鈴…足首に付けることで活動に一体感が出た。鈴の音が止むと体の動きも止まるという意識が子供にあった。足に鈴をつけたのは子供たちも新鮮な感覚で楽しんでいたのではないかと。

●鈴は良い手立てなので、“止まる”を意識した場面があってもよかったかと思う。

視点【かかわる】

① (発達の段階の工夫)

●MEPA-Rの結果を踏まえた準備運動を取り入れたことを記述すべきであった。

② (人やもの、音に合わせる動きの設定、関わりの広がり)

○実態差に応じたグループ分けができていた。

○太鼓のリズムの速さでスピードの調整を意識できていた。(言葉掛け速く、遅くもあわせて。)

○棒を一緒に持つことでペースを合わせる、棒を離してしまった友達を待つ等、他者を意識す

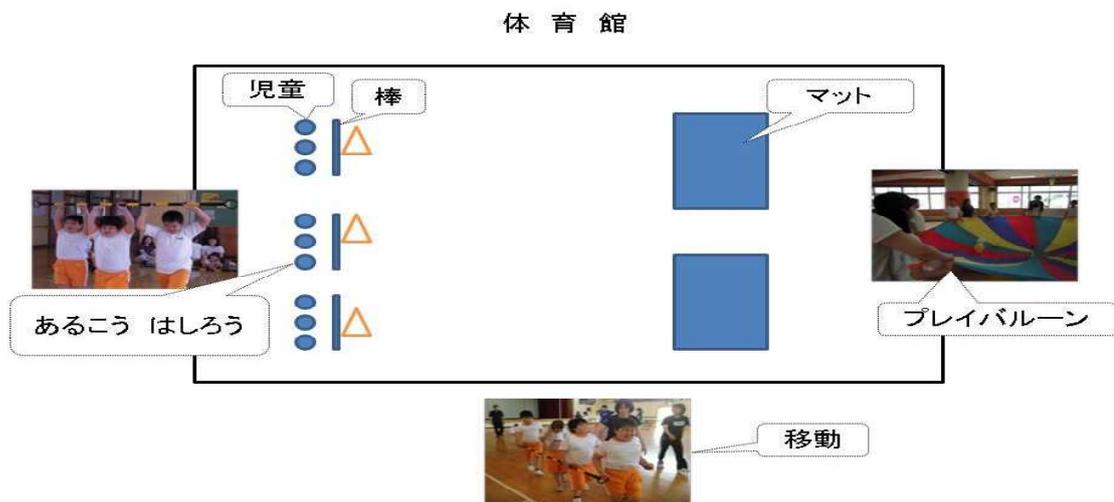
る関わりが生まれていた。

- 棒を持たない児童も、学年関係無くグルーピングすることで持てるようになった。
- 道具で基準をつくったことは、意図的な動きをさせることに有効で、小学部段階ではたいへん適切なものであり、中学部段階へと発展させられるようである。
- 棒を持ちながら2～3人グループでスムーズに後ろ向きに歩いている姿を見て、「繰り返し」の指導の大切さを感じた。
- 言葉の掛け方と子供たちの動きが一致していた。
- 後ろ歩きは難しい動きだと思うが、上手くできていた。教師とのラポートがとれていたからだろう。
- 三人組で行き来することを優先したところ、集中できたし上手に動いていた。
- 実態差に応じた指導の工夫をどうするのか。
- 表情から頑張っている様子は伝わってきたが、もっと自分から楽しめるような工夫があるといいのではないか。
- 「そうっと」のところは、教師も上下の動きを大きくすれば、子どもも動きを合わせ大きくしたのではないか。

視点【はたす】①（達成感の強化）

- 【プレイバルーン：満足感→達成感】
- 一人一人やることを十分理解して取り組んでいた。みんな自信を滲ませるいい表情をしていた。
- ほとんどの子供が棒を離さずに動けたことに驚きと成長を感じた。自分の役割を果たしていたのだと思う。
- 足の鈴が鳴らないようにという手立てが分かりやすかった。「止まる」という言葉の概念が動きと結びつき、「止まる＝音がしない」と児童にも教師にも分かりやすく、達成感につながっていた。
- 手を挙げて床だけでなくマットなどを素足で歩かせることで、付加をかけ成功することで楽しさを味わうことができた。
- 一人でなく友達と一緒にできることで達成感を味わうことができた。
- プレイバルーンの風船、とても楽しいのですが、一つにした方が「みんなでかかっている」という感じが強まるのでは。
- バルーンをどの子供もつかんで、活動することができて楽しそうであった。バルーンの中に入れるチャンスがあっても良かったか。
- 準備体操として、今後取り入れていってはどうか。継続することで友達を意識することができるのではないか。
- できたことを生かして、もっと楽しめるような活動を工夫すると、達成感につながるのではないか。
- 【待ち時間が長かったのではないか。十分な運動量があったのだろうか。】
- ・児童にとって、運動量はあったと思う。
- ・中学部・高等部の実態別グループでの学習を参考にしたい。

場の設定



抽出児 A の実態

言葉の理解	運動機能	興味・関心	本題材に関する実態
・内言語はっており、依頼の発語が出つつある。	・走る、跳ぶなどの基本的な運動ができる。 ・万歳の姿勢で肘が曲がる	・興味・関心が高く、何でもやってみようとする。	・ある程度、仲間の動きや教師の号令、合図に合わせて動くことができる。

授業振り返りシート 2 児童の変容 (抽出児 A)

※達成度
 5: 期待以上に達成された
 4: 達成された
 3: どちらとも言えない
 2: 達成されていない
 1: 全く達成されていない

振り返りシート内容 (要約):

- 日時:** 4/26 (金) から 5/8 (火) まで
- 活動1 (もとの):** 体育室への移動の工夫、準備運動の工夫
- 活動2 (かかわる):** 人に合わせることができる工夫
- 活動3 (はずす):** 達成感の強化

観察者: [署名]

手話を離してしまい、仲間に合わせて歩くまで行かなかった。

繰り返し学習したこととBGMを追加したことで、仲間と一緒に移動できるようになってきた。

教師の「イチ、ニ」の号令にも合わせ仲間と一緒にスムーズに移動できるようになった。

準備運動のBGMをゆっくりのテンポの曲に変更したところ、教師の見本に合わせている様子が見られた。

マットなどの障害物を3人でスムーズに超えることができた。

3人一組で歩く運動を行ったが、動きにぎこちなさが見られた。

同じ仲間と棒を持ちながら繰り返し歩くことで、仲間に合わせて移動できるようになってきた。

BGMに合わせて、自分でプレイバールーンを上下に動かす姿が見られるようになった。

授業が始まった当初は、身体の動きにぎこちなさが見られたが、児童の習熟度を見ながら活動の流れや用具の使い方に変更や工夫を加えていったところ、徐々に仲間の動きや教師の合図、音楽に動きやタイミングを合わせることができるようになり、身体をスムーズに動かすことができるようになった。楽しさや充実感の強化を期待して、授業の後半にプレイバールーンを使ったパラシュート遊びを行ったが、上下するパラシュートに合わせて意欲的に両手を上下する姿が見られた。

2)遊びの指導 1～4年 単元名「みんなでリズム遊び」(7月)

「みんなでリズム遊び」は、音楽に合わせて身体を動かす内容で構成し、教科等を合わせた【遊びの指導】として年間計画に位置付けている。

音楽に合わせて身体を動かすことは、毎朝の「ぼかぼかタイム」で慣れ親しんだ活動であり、好きな児童が多い。曲に合わせて歩く、走る、止まるといった大きな動きや、教師の模倣をして手や足などの身体部位を動かす活動を促したい。また、児童の好きな曲を用いることで音楽への期待感を高め、手をつないだり道具を使用したりといった遊びの経験を広げることができると考えた。

本題材は、5・6年生の【音楽】や【体育】へと発展する学習であり、音楽に合わせた身体活動を通して、教師や友達とのかかわりを促し、音楽で遊ぶことの楽しさを味わわせたいと考え、本題材を設定した。



授業づくりの三つの視点

視点【もとめる】 興味・関心を持って活動に取り組もうとする意欲を引き出す工夫

- ・学習の流れを一定にし、繰り返し活動することで、見通しを持って取り組めるようにする。
また、活動の流れを途切れさせないように、音楽を活用しながら、学習活動の切り替えを示す。
(活動の見通し・切り替え)

視点【かかわる】 教師や友達との関わりを楽しむ工夫

- ・児童同士の触れ合いを広げるために、複数で活動することで楽しみが大きくなる内容を工夫する。
- ・いくつかの学年や学級を一緒にすることにより、児童同士の関わり、児童と教師の関わりを広げる。
(関わりの広がり)

視点【はたす】 できる体験を積み重ねて、達成感を持つようにする工夫

- ・振り返りの場面で「楽しかったね。」と児童の思いを共有したり言語化したりする。
- ・「できた」という喜びを味わうことができるように称賛したり、拍手でたたえる場面を設定する。
(達成感の強化・振り返り)

〔○成果と●課題〕

視点【もとめる】

・(活動の見通し・切り替え)

○いろいろな曲があり、児童の実態に合った学習内容だった。

- ・1～4年生にとって理解しやすい内容だった。
- ・模倣の簡単な曲から難しい曲があり、意欲的に活動できた。

○第1次、第2次、第3次という計画が子供たちに合っていた。

- ・第1次で繰り返し取り組むことで曲に慣れていき、活動できた。

- ・第2次で新しい曲を増やしたことにより、変化が生じ、興味関心の幅を広げることができた。
- ・新しい曲も第1次の繰り返しがあったため、子ども達も対応できた。
- 視覚的な支援があるとより見通しを持って遊びに向かえた。
- 段階を踏んで課題遊びから自ら遊ぶように発展させていきたい。
- ・自立活動との関連を考える必要がある。

視点【かかわる】

・(関わりの広がり)

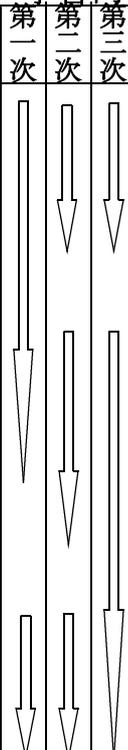
- わらべ歌で集団での関わりが持てた。
- 道具を使った支援で児童の実態に応じたか関わりができた。
 - ・フラフープを使用したことによって、教師や友達とのかかわりがとれた。
 - ・お手玉を使うことで、模倣を促すことができた。
- 意図的な子供同士の関わりの設定があってもよかった。
 - ・道具を渡したり曲のスイッチを押す係など

視点【はたす】

・(達成感の強化・振り返り)

- 第1次で繰り返し取り組むことで曲に慣れて少しずつできるようになり、達成感を味わうことができた。
 - ・続きをしたいというサインを出す子どもや、笑顔で取り組む子供もがいた。
- ほかほかタイムで行っている「とんぼ」で音がやんだら止まるという活動を経験しているため、曲が「さんぽ」に変わってもそれが遊びとして分かり、取り組めた。
- 個に応じた視点が必要だった。
 - ・「どのように音楽遊びを楽しんだから達成感が生じたのか。」という個別の視点が重要だった。

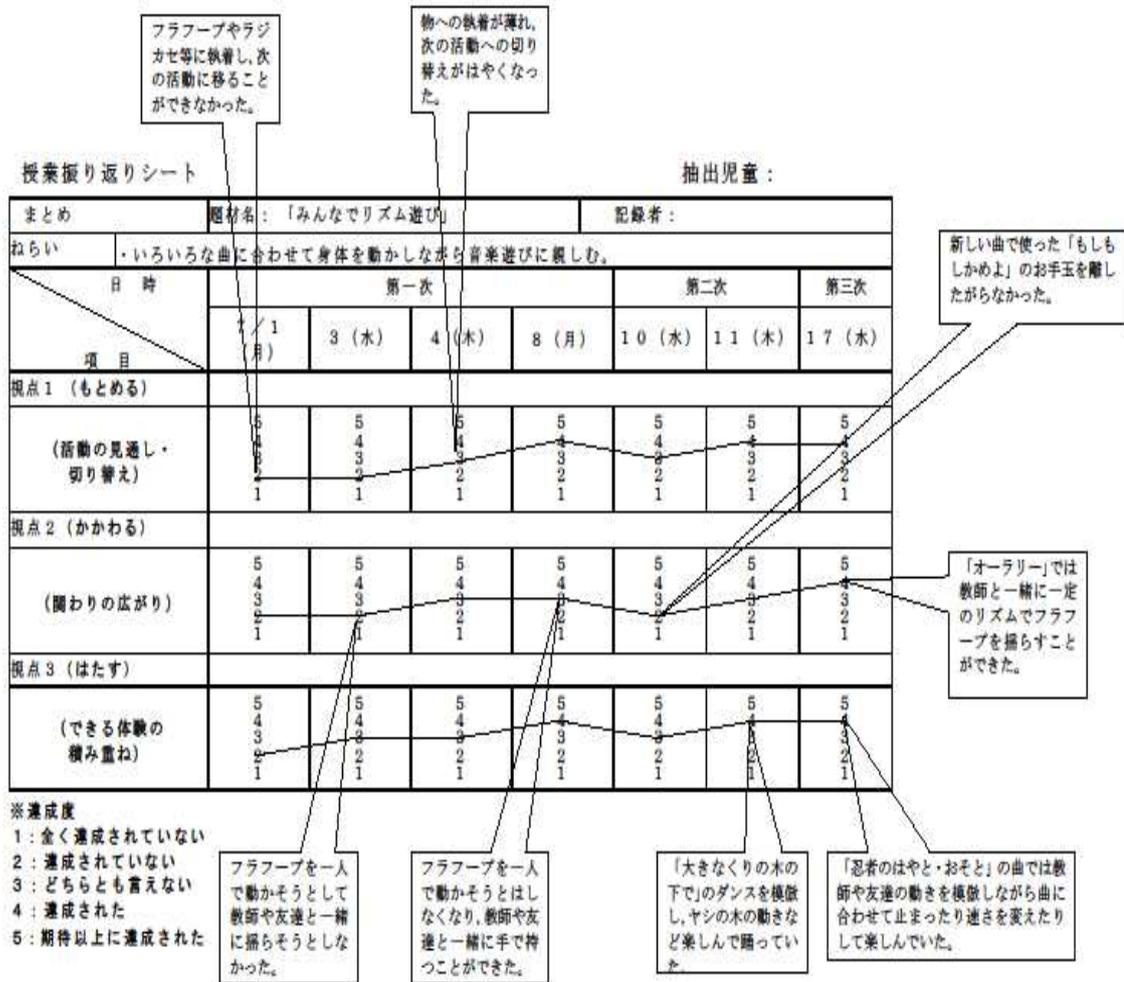
学習内容

第一 次	第二 次	第三 次	学習内容	備 考
			1 はじめのあいさつ T1や当番の児童に注目し、合わせて挨拶する。	<p>第一次（4時間扱い）は、人や道具と関わりながら同じ曲を繰り返し行うことにより、やり方が分かり、見通しを持って進んで活動できるようにする。</p>  <p>第二次（2時間扱い）・第三次（1時間扱い）は、曲を増やして変化を付け、音楽に対する興味・関心の拡大を図り、できる体験を積み重ねるようにする。</p>
			2 さんぽ 歌に合わせて歩き、タンブリンが鳴ったら止まる。	
			3 オーラ・リー 教師や友達とフープを握り、曲に合わせて揺らす。	
			4 ひらいたひらいた 全員で手をつないで大きな輪を作り、曲に合わせて前進したり後退したりする。	
			5 大きな栗の木の下で 歌に合わせて教師のまねをしながら踊る。	
			6 忍者のはやと・おそと 曲が速くなったら走り、遅くなったらゆっくり歩く。	
			7 もしもしかめよ 曲に合わせてお手玉を頭や肩に乗せてすべり落とす。	
			8 幸せなら手をたたこう 曲に合わせてボディパーカッションをする。	
			9 ミッキー・マウスマーチ 歌に合わせて歩き、曲が終わったらフープの中に入る。	
			10 星に願いを 床に寝ころび曲を聴きながらリラックスする。	
			11 感想発表 代表児童が、楽しかった活動のカードを選び発表する。	
			12 おわりのあいさつ T1や当番の児童に注目し、合わせて挨拶する。	

抽出児Bの実態

言葉の理解	運動機能	興味・関心	本題材に関する実態
・内言語はっており、発語もないが、身振りで意思を表現する。	・走る、跳ぶなどの基本的な運動ができる。	・興味・関心が高く、何でもやってみようとするが、活動の切り替えが難しい。	・音楽が好きで、リズムや身体表現を模倣できる。

授業振り返りシート2 児童の変容（抽出児B）



音楽遊びが好きで、様々なことに興味・関心を持っている児童であるが、フラフープやラジカセに固執してしまい次の活動に移れないことがあった。活動を続けて行く中で徐々に切り替えができるようになり、曲のリズムに合わせて動くなど音楽遊びを楽しむ様子が見られるようになった。同じ活動を繰り返す事で見通しが持てるようになり、ダンスの動きを模倣したり、教師と一緒にフラフープを揺らしたりすることができた。

VI 研究のまとめ

三つの視点から支援を考え、個々の児童に応じた支援を工夫して実践してきたことで、それぞれの視点で求める児童の姿へと、少しずつ近づくことができた。特に場面設定の工夫や児童の思いの言語化等は効果が高かった。できることを増やし積み重ねていくことにより、児童は自ら進んで遊びや運動に向かい、遊具や素材、用具に興味や関心を持ちながら、教師や友達との関わり、また、運動を楽しむ姿が見られるようになった。

1 授業改善について

授業づくりの視点ごとに各授業で支援をまとめたことで、担任間での共通理解が図かれ、授業づくりの方向性がぶれることがなく、よりよい授業づくりにつながったと言える。

授業振り返りシートは、PDCAサイクルで授業改善を進める上で大変効果的であり、毎日の指導の積み重ね、児童の変容の把握に大変役に立った。児童の「やってみよう」とする小さな姿を見逃さず、観察をきめ細やかにすることで、自ら遊びや運動に向かう姿を育むことができた。児童の変容のグラフを見ると、各視点で向上が見られることから支援が効果的であったと言える。

授業参観シートについては、研究授業の事後検討会で使用したが、多様な意見を集約することができ活発な話し合いへ結び付けるのに効果的であった。特に課題が明確になり、具体的な改善点へとつなげることができた。

2 年間指導計画の見直しについて

年間指導計画の中に単元設定の理由を入れたことで、見直しをもって遊びの指導や体育の指導にあたることができた。さらに、【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点を加えるために、年間を通して活動を見直したことは、単元における各視点の取り組みの重点を目安として把握することにつながった。

小学部の研究では、「自らの興味・関心を広げ、進んで取り組む児童の育成を目指した授業づくり」取り組んできた。授業づくりの視点を基に「遊びの指導」、「体育」で授業研究を行った。昨年度取り組んだ遊びの指導の成果を踏まえ、体育の授業に反映させながら授業作りを行うことができた。遊びの指導は自然発生的に、体を動かしたり、遊具で遊んだり、人とのやりとりを学ぶものであるが、小学部の体育は、自然発生的な遊びから体を総合的に動かす調整力を促すための意図的な運動へとつながる発展であると捉え実践してきた。児童の発達段階を踏まえたつながりのある年間指導計画ができつつある。

今回設定した授業づくりの三つの視点から、児童のよりよい変容を引き出すことができ小学部のテーマに迫ることができたと言える。また、三つの視点を具体的に焦点化して取り組むことで、授業改善のポイントが明確となり、よりよい授業づくりに結び付けることができた。【もとめる】【かかわる】【はたす】が互いに絡み合いながら児童の力を高めていった。特に、三つの視点は、「教師が授業を構成する上での支援の要素」ということを意識して取り組んだことで、意図した支援が効果的であったかを検証することができた。更に「三つの視点」を踏まえた授業づくりの中で、効果的な支援の手立てを確実に記録に残すことができた。1年次、2年次に取り組んだ「生活単元学習」についても同じことが言える。「生活単元学習」における三つの視点を別紙にのせる。(別紙1)

今回の「遊びの指導」と「体育」を通して、児童の発達段階を踏まえながら日々の授業を行い、変化を加えながら授業を繰り返すことが、身のまわりの人や物との関わりの積み重ねにつながる事が明らかとなった。また、適切に実態把握(MEPAR)をし、授業づくりの視点を基に

しながら、授業実践を行い、授業を振り返り、授業改善をしながら実践をしていくことが人や物との意図的な積み重ねを構築していく基盤であることが分かった。

VII 今後の課題

- 授業づくりの三つの視点について、題材によって様々な要素を加えながら授業の展開してきた。更に、教師が三つの視点を意識しながら、個別の指導計画との関連を考え、児童一人一人の変容を、「個別の指導計画」の中に反映させていくことが大切である。
- 年間指導計画について、作成した「遊びの指導」、「体育」の計画を活用し、改善を加えながら計画の見直しを図る必要がある。来年度に向けて、実態に応じた指導計画を更に吟味していくことで、「遊びの指導」、「体育」のねらいを達成すること、児童の思いを拓げること、この二つの視点をより深められるようにしていきたい。

別紙1

○ 三つの視点を生かした授業づくり（生活単元学習）

授業づくりの三つの視点から支援を工夫し、1年次、2年次授業づくりを行った。以下に生活単元学習における主な支援の工夫をまとめた。

視点【もとめる】 ～興味・関心を持って活動に取り組もうとする意欲を引き出す工夫～

興味・関心の拡大

<調理の授業>

- ・野菜パンケーキ作りへの意欲を高めるために、導入で歌を歌ったり、栽培の様子の写真を見せたりする。
- ・お世話になった人の写真を見せ、作った野菜パンケーキを届けることを伝える。

<宿泊学習、振り返り>

- ・児童が「頑張ったな。」と振り返られる場面のスライドを選定して上映することや、演技で用いた曲を活用するなどして想起を促して、振り返り活動への意欲を引き出す。

意欲の高まり

<調理の授業>

- ・調理の過程で、少ない支援で一人でできたときは、その都度称賛する。

<カレンダー作り>

- ・展開の後半部分では、夏をイメージする表現活動として、学習発表会で踊った「アパンマンのサンサン体操」を、みんなで楽しく踊る場面を設定する。
- ・導入では、テーマソング「マルマル5年生」を歌って学習への意欲を高める。

選択肢の提示の工夫

<宿泊学習、振り返り>

- ・選択肢に用いる写真には、頑張っていることが分かる場面のもので用意して、「自分が何をしたのか、何を頑張ったのか」が写真の選択そのものでも汲み取れるように工夫する。
（選択肢の提示の工夫：一人で演奏、グループで、全体で、歌っている、セリフを言っている、衣装を着ている等）

視点【かかわる】 ～教師や友達との関わりを楽しめるようにする工夫～

周囲とのかかわり

<調理の授業>

- ・周りの人に喜んでもらうことでかかわり合いを広げるために、自分たちで作ったパンケーキを、お世話になった先生方や友達にごちそうする場面を設定する。

<宿泊学習、振り返り>

- ・友達の活動の様子や発表の様子を見て、自分も発表しようと思ったり、共感したりする気持ちを引き出す。

かかわりの広がり

<調理の授業>

- ・周りの人に喜んでもらうことでかかわり合いを広げるために、自分たちで作ったパンケーキを、お世話になった先生方や友達にごちそうする場面を設定する。

<宿泊学習, 振り返り>

- ・友達の活動の様子や発表の様子を見て、自分も発表しようと思ったり、共感したりする気持ちを引き出す。

<カレンダー作り>

- ・グループごとに、机を向かい合わせやL字型にした場を設定する。また、「〇〇ちゃん、上手だよ。」など友達の活動の様子に気付けるような言葉掛けをする。

視点【はたす】 ~「できる」体験を積み重ね、達成感を持てるようにする工夫~

達成感の強化

<調理の授業> <宿泊学習, 振り返り>

- ・振り返りの場面で、一人でできたことを称賛し、思いを言語化する。
- ・発表しやすい環境を整えることによって、頑張ったことを言葉や身振り、実演等を通して発表しようとする意欲を引き出す。

<カレンダー作り>

- ・制作手順が分かる「手順カード」や制作個数の達成度が分かる「できたよボード」など視覚的にとらえることのできる教材・教具を提示する。

できる体験の積み重ね

<調理の授業>

- ・調理の場面では、一人でできたという思いを持たせるために、作業工程の動線を工夫し、手順を示す写真カードや使いやすい補助具を用意する。
- ・集中して作業に取り組みさせるために、児童の得意な動きや、分かりやすい作業を取りり入れたグループ編成をする。

<宿泊学習, 振り返り>

- ・七ツ森宿泊学習の振り返りの方法を繰り返し、頑張った写真を選んではったり、その時の気持ちを描いたりして、自分が頑張ったことが実感できるカードを完成させることができる。

<カレンダー作り>

- ・「握る」「はる」「塗る」「ちぎる」の動きを中心としたグループを編成し、分業してカレンダー作りに取り組めるように作業工程を工夫する。

自分の役割を最後までやり通す生徒の育成を目指した授業づくり ～自ら進んで作業に取り組む支援の工夫を通して～

I テーマ設定の理由

本校中学部の生徒の実態として、下記の①から③のことが挙げられる。

- ①与えられた役割を行うことができるが、進んで役割を行ったり、自分の役割を理解して行ったりという意識が低い。
- ②仲間と一緒に行動することができるが、自ら周囲に働き掛けたり、力を合わせて取り組もうとしたりすることが少ない。
- ③見通しをもつて、継続的に役割を行おうとする態度が十分に育っていない。

以上の実態と全体テーマ「自分の思いを確かにし、主体的に生活しようとする力を育む指導の充実」を踏まえ、中学部では、

- ①小学部段階で積み上げてきた様々な基礎的スキルを土台に、果たすべきことに前向きに取り組もうとする態度を育成したい。
- ②友達とともに活動する過程において自他の理解を図りながら、役割を果たすことや認められること、友達とともに活動することの喜びを味わえるようにしたい。
- ③自らのやりたいことを確かにしながら作業を選択し、それを自分の役割としてとらえ、その役割を最後までやり通す経験を積み重ねることで、自分の役割により積極的に関わられるようにしたい。

と考え、学部研究テーマを「自分の役割を最後までやり通す生徒の育成を目指した授業づくり」とした。

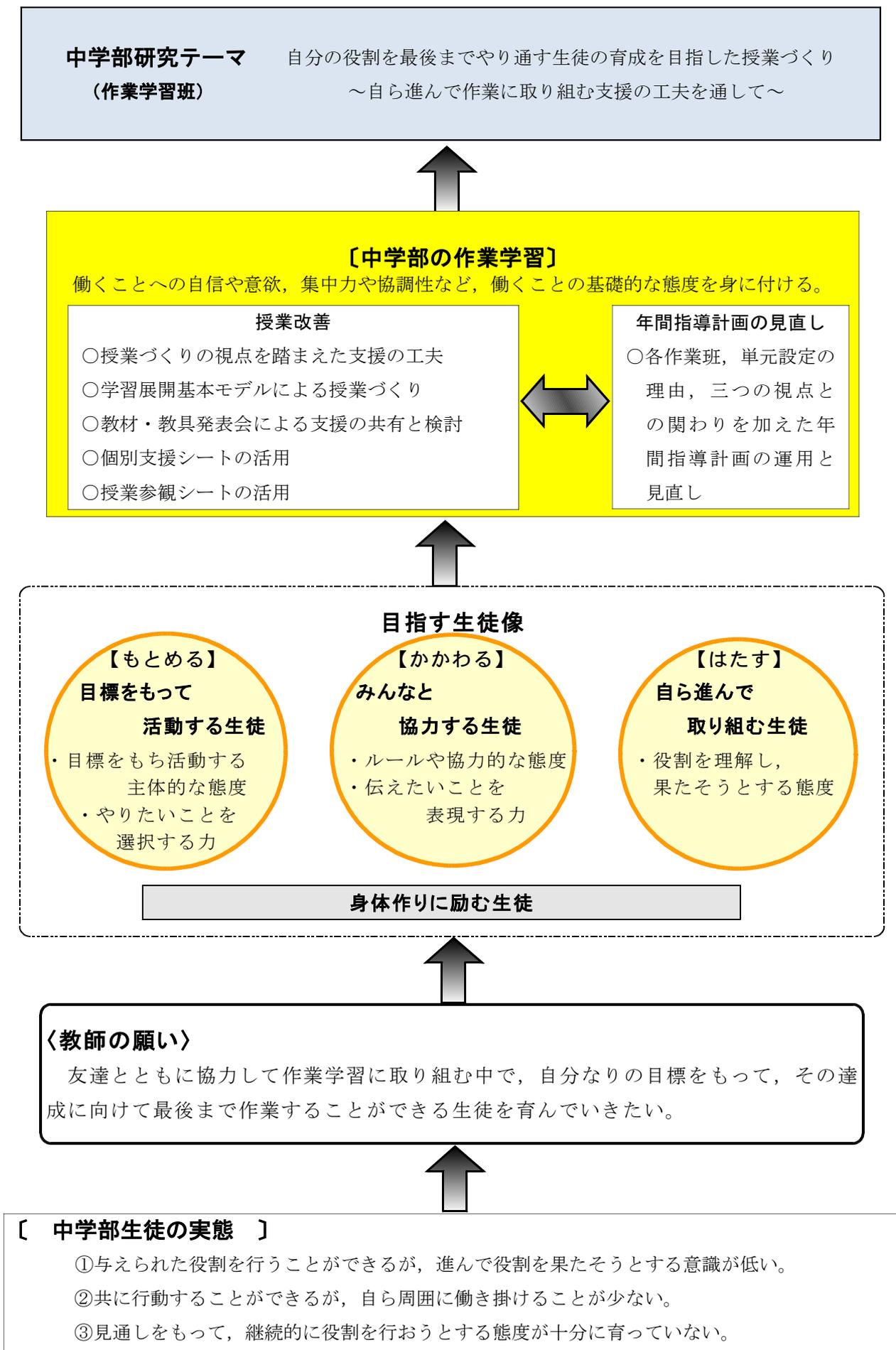
また、今年度は、副題を「自ら進んで作業に取り組む支援の工夫を通して」とし、中学部の中心的な指導の形態である作業学習の指導を通して、テーマに迫ることとした。

II 研究目標

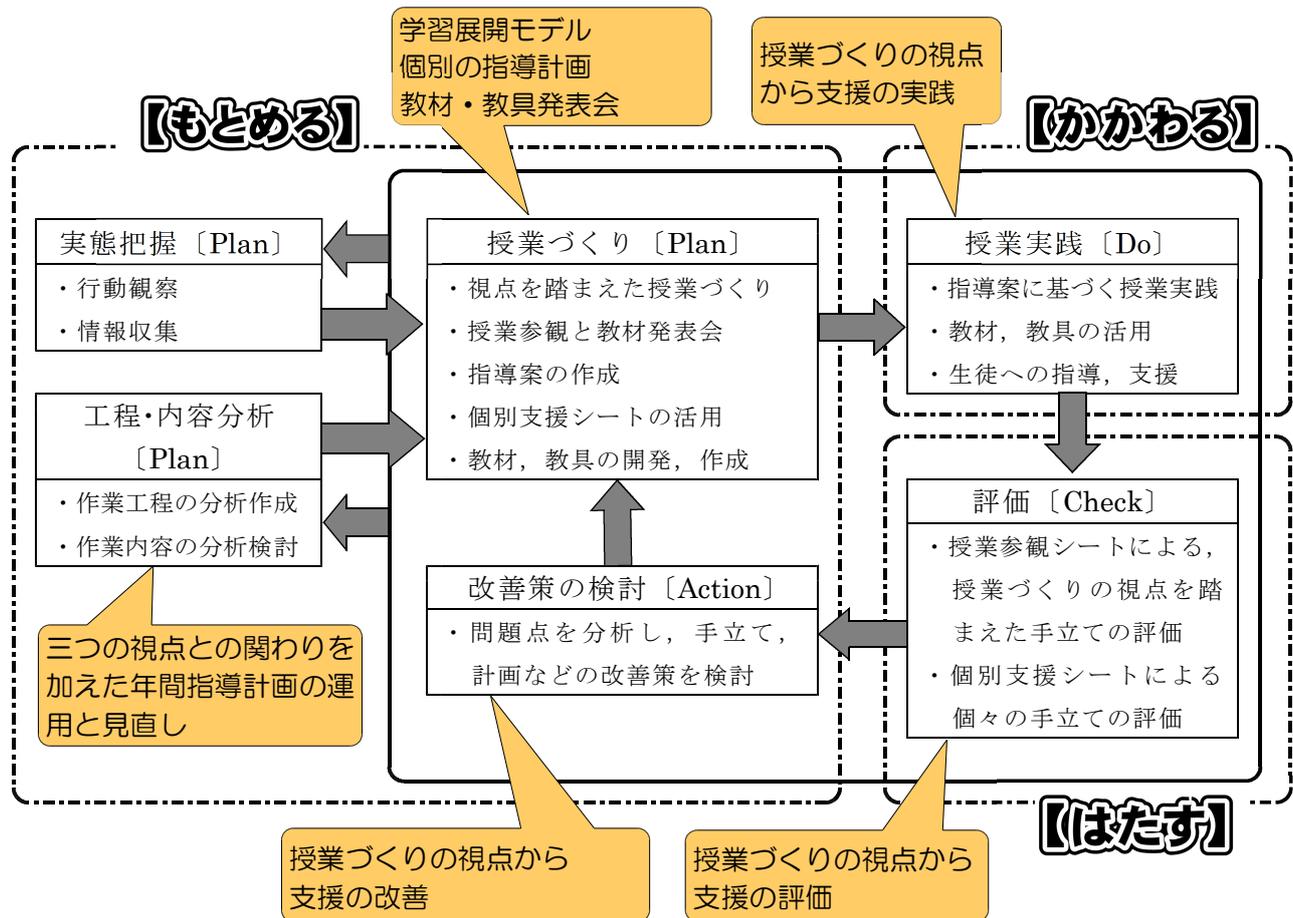
作業学習において、生徒自らが進んで作業に取り組む支援の工夫を通して、自分の役割を最後までやり通す生徒を育むための指導の在り方を探る。

Ⅲ 研究の内容と方法(平成25年度)

1 研究のイメージ図



2 授業づくりにおける教師の【もとめる】【かかわる】【はたす】



3 授業改善

1) 三つの視点を生かした授業づくり

中学部作業学習の授業において、どの作業班も【もとめる】【かかわる】【はたす】の授業づくりの視点を踏まえた支援を工夫した授業を展開する。

〈授業づくりの視点〉

視点【もとめる】	自分のやりたいことを選択し、進んで取り組む力を育てる支援の工夫
視点【かかわる】	教師や友達、道具に自分から関わろうとするための支援の工夫
視点【はたす】	自分の役割を果たそうとする態度・意欲を引き出す支援の工夫

2) 個別支援シートと作業学習における段階表の活用

個々の生徒の単元のねらいの達成に向けて、【もとめる】【かかわる】【はたす】の授業づくりの視点を踏まえた支援を工夫する。また、作業学習における段階表を活用して生徒の姿を把握することで、その変容を捉えられるようにする。

3) 作業学習・学習展開基本モデルによる授業づくり

中学部作業学習の学習展開基本モデル〈目標設定～作業活動～振り返り〉を作成し、どの作業班においても視点を意識した授業を展開できるようにする。

4) 教材・教具発表会による支援の共有と検討

各自が製作した教材・教具を学部内で発表し合う教材・教具発表会を行う。これにより作業班ごとの授業づくりから、学部全体での授業づくりを目指していく。

5) 授業参観シートの活用

授業検討会において、検討する視点を全員で共有し、効果的な話し合いを進めるために、授業参観シートを活用する。授業づくりの視点から、授業参観の視点を設定する。

4 年間指導計画の運用と見直し ～ 三つの視点との関わりを加えた年間指導計画

作業学習の年間指導計画に各作業種、単元設定の理由、【もとめる】【かかわる】【はたす】の三つの視点との関わりを加えた年間指導計画の運用をしていき、次年度への計画を見直していく。生徒の思いが、次の学習でさらに発展していくような構成や内容といった、志教育の視点から捉えた教育課程の見直しへ反映する。

IV 今年度の実践

1 授業改善

1) 三つの視点を生かした授業づくり ～ 三つの視点から考えた支援の観点別整理

昨年度、授業実践の成果として、三つの視点から考えた支援の工夫を、それぞれ観点ごとにまとめることができた。今年度は、この支援を基に、個に応じたより具体的な支援を考え授業実践を重ねることで、視点の広がりや定着を目指してきた。以下に、三つの視点から考えた支援の観点別整理と、それを生かして考えた、個に応じた具体的な支援による生徒の変容を実践事例としてまとめた。

視点【もとめる】 ～自分のやりたいことを選択し、進んで取り組む力を育てる支援の工夫～

興味・関心の拡大

様々な経験を通して、興味・関心の拡大を図る。

- ・自分に合った仕事を見つけることができるように、すべての作業工程を体験する場面を設定する。
- ・生徒の興味・関心を広げられるように、生徒の得意、または好きな作業を生かした作業工程を考えたり、適性を考慮しながら自分で仕事を選択したりする機会を作る。

自己選択

分かりやすい選択方法や選択肢を工夫して、自ら選択できるようにする。

- ・自分の経験を手掛かりにして仕事を選択できるように、すべての作業工程を経験する場面を設定する。
- ・作業内容を理解して選択したり、取り組んだりすることができるように、写真カードや具体物の提示など、視覚的な支援を工夫する。
- ・選択する経験を積み重ねることができるように、製作過程での材料や道具の選択なども含め、様々な場面で自己選択する機会を設定する。

目標設定

より具体的な姿や製作個数など、個々の実態に応じた設定場面を工夫する。

- ・自己目標をしっかりと捉えることができるように、具体的な姿や製作個数の提示など、個々の生徒が意識できるような目標設定を工夫する。
- ・個々の実態に応じて、適切な目標を自力で設定したり、教師と一緒に設定したりすることができるように、「頑張りチェックシート」を工夫する。

事例 木工班～7月 単元名「桜の枝ではし置きを作ろう」

視点【もとめる】 自己目標をしっかりと捉えることができるように、具体的な姿や製作個数の提示など、個々の生徒が意識できるような目標設定を工夫する。

Aさんの姿〈課題〉	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容〈課題〉
<ul style="list-style-type: none"> 目標設定する際に、前回までの達成個数よりも極端に少なかったり、多かったりする個数を設定していた。 〈数字の大小が理解できないために、数字で達成個数を振り返っても、妥当な目標個数を設定できないためと考えた。〉 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標個数を把握できるように、目標を数字ではなく丸印で表し、シールを貼ることで達成個数を表すような「頑張りチェックシート」を活用する。 ○自分で目標設定できるように、「頑張りチェックシート」のシールの数を手掛かりに、前回よりも多くするか、少なくするかで目標を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆教師と一緒に数えながら達成個数を確認することで、全体個数を意識するようになってきた。 〈これまでの達成個数を基に、より適切な目標を設定できるようにしていきたい。〉

視点【かかわる】

～教師や友達、道具に自分から関わろうとするための支援の工夫～

周りの人との関わり

作業工程の中での自然なかかわりを、意図的に設定する。

- ・個と全体の関わりを意識できるように、工程表を活用して自分の役割を確認したり、みんなで声を合わせてあいさつや目標を唱和したりなどする。
- ・作業での関わりを深められるように、製品パーツの受け渡しや道具の貸し借りなど作業工程の中での周りの人との自然な関わり、やりとりができる場面を設定する。

用具・材料との関わり

様々な用具・材料と触れ合う機会を作ることで、それらとの関係を拡大する。

- ・道具の名前を覚え、その扱いに慣れることができるように、道具や材料の呼び方を統一したり、扱い方の約束を分かりやすい言葉で決めたりする。
- ・様々な用具を扱いながら製作できるように、個に応じた補助具を工夫する。

活動の認め合い

自分の活動を認められる喜びを味わえるような場の設定をする。

- ・自分や友達の頑張りに気付き、認められる喜びを味わうことができるように、グループごとに頑張りを称賛する場面を多くもち、拍手をしてたたえる習慣を身に付けられるようにする。

事例 園芸班～9月 単元名「花や野菜を育てよう」

視点【かかわる】 作業での関わりを深められるように、製品パーツの受け渡しや道具の貸し借りなど作業工程の中での周りの人との自然な関わり、やりとりができる場面を設定する。

Bさんの姿〈課題〉	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容〈課題〉
<ul style="list-style-type: none"> 自分から関わろうとすることは少ないが、教師が言葉掛けをすると、関わろうとする姿が見られた。 〈作業中の関わりの機会がない、一緒に活動している友達への意識が低い、どのように関わりをもったらよいか分からないためと考えた。〉 	<ul style="list-style-type: none"> ○苗ポット作りの作業工程の中に、土を入れた器を友達に受け渡す工程を取り入れ、友達と二人で分担して作業に取り組むようにする。 ○教師のモデルを見ながら、友達に言葉掛けをして受け渡すことで、友達と一緒に苗ポットを作っているという意識がもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分から関わろうとすることは多くはないが、受け渡しをする時に「はい」と言葉掛けしながら友達に器を受け渡すようになってきた。 〈作業の中で設定した必要な関わりの場面で、常に自分から「はい」と言葉掛けをして、関わりをもとうとする。〉

視点【はたす】 ～自分の役割を果たそうとする態度・意欲を引き出す支援の工夫～

自己有用感

集団の中でできる体験を積み重ねて、自信を高める工夫をする。

- ・自分の果たす役割が製品に生かされていると感じることができるよう、作業工程表を活用して確認する。
- ・「できた」という経験を重ねられるように、目標達成の喜びを味わったり、頑張りを称賛されたりする場面を多く設定する。

自力で役割をはたす

教師の支援をできるだけ少なくして、自力で役割をはたすことができる工夫をする。

- ・自力で役割を果たしているという思いをもたせることができるように、個に応じた補助具や、視覚的な支援を生かした教材・教具を工夫する。
- ・自力での解決につながるように、手順の統一や十分な活動経験など、作業スキルを身に付けるまでの十分な活動時間を確保する。

振り返り

できたという思いをもつことができるような、振り返りの方法を工夫する。

- ・目標を達成できたという思いをもつことができるように、具体物、シールなど、生徒が分かる評価方法で教師と一緒に自己評価する。

事例 工芸班～9月 単元名「紙すきはがきを作ろう I・うちわを作ろう」

視点【はたす】 自力で役割を果たしているという思いをもたせることができるように、個に応じた補助具や、視覚的な支援を生かした教材・教具を工夫する。

Cさんの姿〈課題〉	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容〈課題〉
<p>・一つ一つの作業工程で、教師のやり方を見たり、言葉掛けを聞いたりしながら紙すき作業に取り組んでいた。</p> <p>〈作業手順が身に付いていないために作業に自信がもてず、教師の言葉掛けなどを待ってしまうためと考えた。〉</p>	<p>○作業内容を一人で確認できるように、細かく手順を分けた写真カードを手元に置き、自分でページをめくるようにする。</p> <p>○作業手順が分からなくなった時には、写真カードを見るように言葉掛けする。</p>	<p>☆手順を大まかに覚えて、カードを見ないでできることが増えてきた。不安な時にも写真カードを自分で見て確認して、作り続けられるようになってきた。</p> <p>〈新しい作業工程の際にも、写真カードを自分で見て、確認しながら作業をすることができるようにしたい。〉</p>

2) 個別支援シートと作業学習における段階表の活用

〈個別支援シート〉

個々の生徒の単元のねらいの達成に向けて、三つの視点から考えた支援の観点別整理を基に、個に応じた支援を工夫してきた。その際、[生徒の姿〈課題〉→課題解決に向けた支援→支援による生徒の変容〈今後の課題〉]のように、PDCAサイクルで個々の生徒への支援を考え、改善できるようにした。

個別支援シートを活用することで、三つの視点からの支援改善が明確になり、支援の方向性がぶれることなく、ねらいの達成に向けて支援を改善することができた。個別支援シートは、作業学習における生徒の実態を把握して6月に作成し、その後、個々の生徒に応じて改善してきた。

個別支援シートの記入例

個別支援シート (生徒氏名：○○○○ 作業班：木工班)

(記入者： □□□□)

単元の個別のねらい

- 前回までの達成数や目標数を見て、妥当な目標を設定し作業に取り組む。
- 相手を意識して「お願いします」や「ありがとうございます」を伝え、材料や道具の受け渡しをする。
- 目標個数だけでなく、製品の仕上がりや丁寧さを意識して、時間いっぱい作業に取り組む。

視点【もとめる】

生徒の姿〈課題〉	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容〈今後の課題〉
<p>・目標設定する際に、前回までの達成個数よりも極端に少なかったり、多かったりする個数を設定していた。 〈数字の大小が理解できないために、数字で達成個数を振り返っても、妥当な目標個数を設定できないためと考えた。〉</p>	<p>○目標個数を把握できるように、目標を数字ではなく丸印で表し、シールをはることで達成個数を表すような「頑張りチェックシート」を活用する。 ○自分で目標設定できるように、「頑張りチェックシート」のシールの数を手掛かりに、前回よりも多くするか、少なくするかで目標を立てる。</p>	<p>☆教師と一緒に数えながら達成個数を確認することで、全体個数を意識するようになってきた。 〈これまでの達成個数を基に、より適切な目標設定を設定できるようにしていきたい。〉</p>

視点【かかわる】

生徒の姿〈課題〉	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容〈今後の課題〉
<p>・できあがった材料を教師や他の生徒に手渡す際、何も言わずに渡してしまう。 〈言葉を掛けることへの意識が低いことや、発声に時間がかかり、相手が本生徒の言葉を待たずに次の活動に移ってしまうなどの課題が</p>	<p>○材料や道具を手渡す際に、「何て言って渡すの？」などの言葉掛けを行ったり、言葉を掛けられることで嬉しい気持ちになることなどを伝えたりすることで相手を意識できるようにする。 ○言葉を掛けられる相手に対</p>	<p>・教師が「お願いします。」と言って渡すように言葉がけを行ったり、一緒に言いながら渡すようにすることで一人でも言うことができた。〈相手の顔を見ない、また、相手が受け取る態勢になる前に製品を置いてきてしまふので、相手が準備できる</p>

〈作業学習における段階表〉

様々な支援の有効性を捉えるの一つとして、昨年度、前述（中-4～中-6）の「三つの視点から考えた支援の観点別整理」を基に、作業学習における段階表を作成し、その変容をまとめた。今年度は、新たに中学部に入学してきた1年生を対象に、作業学習における段階表によって、支援をした生徒の変容を捉えた。

どの視点における重点項目を見ても、できるようになった生徒が増加している項目があり、よりよい変容を捉えることができた。なお、この段階表は、支援を受けた生徒の変容を見るためのものであり、各視点の段階を網羅しているものではない。

視点	重点項目	段 階	結果(人)		生徒の変容の様子例
			6月	12月	
もとめる	興味・関心の拡大	1.作業室に進んで移動し入室する。	5	6	○自分か進んで作業室へ入室し、エプロンをフックに掛けたり、外したりすることが、一人でできるようになった。
		2.様々な材料や道具を扱おうとする。	4	4	
		3.自分の得意な作業に取り組む。	6	6	
		4.新しい作業内容にも、進んで取り組もうとする。	2	2	
	自己選択	1.二つの選択肢から、教師の言葉掛けを手掛かりに選ぶ。	5	5	○目標の数を自分で指差しして選べるようになった。
		2.二つの選択肢から、視覚的な支援を手掛かりに一人で選ぶ。	2	2	
		3.二つ以上の選択肢から、視覚的な支援を手掛かりに選択する。	1	2	
		4.これまでの経験を手掛かりに、一人で選択する。	2	2	
	目標設定	1.教師と一緒に目標を設定する。	4	4	○目標の数を自分で指差しして選べるようになった。
		2.いくつかの選択肢の中から、教師と一緒に目標を選ぶ。	2	3	
		3.いくつかの選択肢の中から、一人で目標を選ぶ。	0	2	
		4.これまでの取り組みの結果から、目標を設定する。	1	1	
かかわる	周りの人とのかわり	1.作業室で、友達と一緒に活動する。	8	8	○友達と分担して、一緒に作業に取り組むことができるようになった。
		2.友達の活動の様子に目を向ける。	3	3	
		3.製品や道具の受け渡しをする。	2	3	
		4.友達と協力しながら、製品作りに取り組む。	0	3	
	用具・材料とのかわり	1.教師が準備した用具・材料を扱おうとする。	6	7	○友達に分まで道具を準備して受け渡ししたり、相手が使いつわるのを待って道具を使ったりできるようになった。
		2.用具・材料を一人で準備する。	1	3	
		3.補助具を活用しながら、教師と一緒に用具・材料を扱う。	1	4	
		4.補助具を活用しながら、一人で用具・材料を扱う。	1	1	
	活動の認め合い	1.自分の頑張りへの称賛を受け入れる。	7	7	○きれいに仕上がる嬉しそうな表情を見せたり、失敗したことに自分で気付いたりするようになった。
		2.友達の頑張ったことを拍手でたたえる。	0	0	
		3.自分の頑張ったことに気付き、伝えようとする。	2	3	
		4.友達の頑張ったことに気付き、伝えようとする。	1	1	
はたす	自己有用感	1.できる活動に、進んで取り組もうとする。	3	4	○きれいに仕上がる嬉しそうな表情を見せたり、失敗したことに自分で気付いたりするようになった。
		2.目標を達成することで、喜びを味わう。	3	4	
		3.自分の役割を果たそうとして、作業に取り組む。	1	3	
		4.自分のはたす役割が、製品に生かされていることを理解する。	0	1	
	自力で役割をはたす	1.教師と一緒に役割をはたす。	6	6	○振り返りの際に花丸を付けると、目を向けて教師と一緒に拍手することが多くなった。
		2.手順ごとに支援を受けながら役割をはたす。(補助具の活用)	3	4	
		3.少ない支援で役割をはたす。(補助具の活用)	2	3	
		4.一人で役割をはたす。(補助具の活用)	1	3	
	振り返り	1.教師と一緒に、できたことを確かめる。	5	6	○振り返りの際に花丸を付けると、目を向けて教師と一緒に拍手することが多くなった。
		2.教師の称賛を受け、自分の頑張りを感じる。	3	4	
		3.活動の中で頑張ったことや上手くいったことに気付く。	3	4	
		4.振り返りをもとに、次の活動へ生かそうとする。	0	2	

3) 作業学習・学習展開基本モデルによる授業づくり

中学部作業学習の学習展開基本モデルを作成し、どの作業班においても視点を意識した授業を展開できるようにした。
 〈目標設定～作業活動～振り返り〉を基本的な学習展開とし、
 その中で授業づくりの視点から個に応じた支援を工夫してきた。
 以下に学習展開の基本モデルと主な支援をまとめた。

～ポイント～

- ☀ 明確な目標意識や課題意識
- ☀ 自力で作業できる教材・教具
- ☀ できたと感じる場面
- ☀ 目標達成を感じる振り返り

〈学習展開基本モデル〉

〔生徒の活動〕

〔教師の支援〕



〔導入〕

- 1 準備をする。
出席ボードに自分の写真カードをはり、エプロンを着けて自分の席に座る。
- 2 あいさつをする。
班長の号令で、始めのあいさつをする。
- 3 今日の活動内容を知り、目標を決める。
活動内容を知り、教師と相談しながら具体的に「がんばること」を決め、「がんばりカード」に書く。

〔展開〕

- 4 道具や材料を準備する。
所定の場所から、作業に必要な道具を持ってくる。
- 5 製品を作る。
仕事を分担して、製品作りに取り組む。

- 6 片付け、掃除をする。
手順に従い清掃し、確認する。

〔終結〕

- 7 本時の評価、発表をする。
目標達成や活動の様子を振り返り、発表し合う。

☀出席ボード

【もとめる】

作業内容を表す写真カードを表示した出席ボードのところへ、自分の写真カードを貼り、エプロンを着けて学習の準備をするように促す。

☀みんなであいさつ

【かかわる】

班長の号令を意識して、みんなで合わせてあいさつするように言葉掛けや指差しをする。

☀自分の役割の位置づけ

【はたす】

作業工程全体の中で、自分の役割がどの部分に関わるのかを確認する機会を設定する。

☀分かりやすい目標決め

【もとめる】

絵・写真カードや具体物などを活用して、個々の生徒が意識できる自己目標の設定場面を工夫する。

☀道具との関わり

【かかわる】

道具や材料の呼び方を統一したり、扱い方の約束を分かりやすい言葉で決めたりする。

☀やりたい仕事を見つける

【もとめる】

生徒のできる動きや得意な作業を生かした作業内容を設定する。

☀様々な選択

【もとめる】

製作過程で材料や道具などを選ぶ機会を意図的に設定する。視覚的、抽象的な支援など、個に応じた選択の仕方を工夫する。

☀作業での関わり

【かかわる】

製品パーツの受け渡しや道具の貸し借りなど、作業工程中での自然な関わり、やりとりができる場面を設定する。

☀自力でできる

【はたす】

個に応じた補助具や、視覚的な支援を生かした教材・教具を工夫する。

☀きちんと清掃

【はたす】

毎回同じ手順で清掃をし、教師とともにチェックして評価する。

☀できたという気持ち

【はたす】

具体物、シールなど、生徒が分かる評価方法で教師と一緒に自己評価する。

☀頑張る喜び

【かかわる】

グループごとに頑張りを称賛する場面を多くもったり、拍手をしてたたえる習慣を身に付けられるようにしたりする。

ここまで頑張ろう

目標設定

これならできるぞ!

自力でできる
教材・教具

できたと
感じる場面

できた!次も頑張ろう

できたを実感
する振り返り

目標達成~ヤッター

4)教材・教具発表会による支援の共有と検討

各作業班の担当のみで授業づくりをするのではなく、効果的な支援を共有しながら学部全体で作り上げていくことを目指して教材・教具発表会を行った。

教材・教具発表会は、各自が製作した教材・教具を通して、生徒への支援のポイントを共有することができ、新たな支援を授業に取り入れることにつながった。これらの活動により、作業班ごとに取り組んでいる日常の授業づくりが学部全体へと広がり、よりよい支援を学部全体で共有することができた。



教材・教具発表会の様子

教材・教具発表会にかかわった教師18名に対し、発表会が授業改善につながる手立てとなったかについてアンケートを実施した。以下のような結果となり、「よくつながった・ややつながった」を合わせると全員の教師がプラスの評価をしていた。このことから、授業改善を行う上での手立てとして、教材・教具発表会は効果的であったと言える。

教材・教具発表会についてのアンケート(対象：教材・教具発表会参加教師18人)

1 教材・教具発表会による授業づくりは、授業改善につながる手立てとなりましたか？

よく	やや	あまり	まったく
つながった	つながった	つながらなかった	つながらなかった
9人	9人	0人	0人

〔○成果と●課題〕

- 新たな視点から考えられた教材・教具を知る機会となり、授業の改善に生かすことができた。改善点を洗い出すことができ、支援の改善につながった。
- 教材・教具の共有をきっかけに、授業の流れや個々の支援についてなど、広がりをもった話し合いができた。
- 授業参観する際に、教材・教具の意図が捉えやすくなり、より深く個々への支援を見ることができた。
- 教材・教具について話し合う中で、個々の生徒への支援の方向性を見出すことができたが、限られた生徒についての話し合いとなった。

5)授業参観シートの活用

本時の授業づくりの視点をまとめた授業参観シートを作成、活用しながら授業を参観するようにした。本時の授業づくりの視点を明確にし、共有することで研究授業の事後検討会において有効な話し合いを目指した。実際の話し合いでは、授業参観シートのメモを基に成果と課題で色分けした付箋に意見を記入して進めた。授業参観シートの活用によって、以下のような成果が見られた。

〔○成果と●課題〕

- 授業を参観する視点が明確になったことで、話し合いの際にポイントを絞った多様な意見交換が活発に行われた。
- 三つの視点から授業参観シートを作成したことで、それぞれの視点ごとの成果や課題が明確になり、その後の授業改善に生かすことができた。
- 個々の意見を出し合う中で、研究テーマと関連した話し合いとなることもあったが、授業参観シートの活用によって、研究テーマへ迫るための意見を明確にすることはできなかった。

授業参観シートの記入例

作業学習「桜の枝ではし置きを作ろう」授業参観シート

中学部テーマ

自分の役割を最後までやり通す生徒の育成を目指した授業づくり
～自ら進んで作業に取り組む支援の工夫を通して～

※授業づくりの視点による支援の工夫により、研究テーマに迫っていたか。

視点【もとめる】自分のやりたいことを選択し、進んで取り組む力を育てる支援の工夫

【もとめる①】作業室に入室したら、工程表に自分の顔写真カードを貼り、自分のエプロンを付けることで、自分の役割を意識し、作業学習が始まるという心の準備ができるようにする。

作業写真を見ながら、自分の写真カードをはっていた。自分のすべき作業内容を理解していた。

視点【かかわる】教師や友達、道具に自分から関わろうとするための支援の工夫

【かかわる①】各班の代表の生徒1名が、できあがった材料を次の工程のグループの教師に運ぶ場面を設定し、適切な言葉を掛けて渡すことができるように支援をする。

運ぶ場面では、相手のタイミングを見て渡すように、支援をしていた。生徒もその支援を受けて渡していた。
生徒同士の関わりを、より深めていきたい。

【かかわる②】不足した材料を補充してもらおう等、作業を続けるために教師の支援が必要な場面を設定し、自ら支援を求めるのを待ったり、適切な言葉を引き出す支援をしたりする。

2 年間指導計画の見直し ～ 【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点を加えた見直し

作業学習の年間指導計画を、【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点で見直した。中学部の作業学習における各作業班設定の理由や単元設定の理由を明記。また、三つの視点から単元の目標を設定し、さらに目標と活動内容に三つの視点から見た重点の目安を設定した。これらによって、各単元の年間における位置付けをはっきりとし、見通しをもった指導へとつなげることができた。

各作業班の設定理由について

園芸班では将来の就労や施設での作業労働につながる協調性などの仕事に対する基礎的な態度を学ぶことはもちろん、家庭においても一定の作業をこなしていく意識を高めることを目指している。特に一学期の学習では最も基本となる「作業内容を分担して見通しをもち、集中して取り組むと共に、他者と協調して活動を行う。」をポイントに取り組む。

園芸作業は健康的で安全性も高く、生徒の愛情が植物に伝わる貴重な作業である。作業種目も内容の容易なものから複雑なものまであり、生徒の能力特性に応じた作業内容を準備することができる。植物を育てることで草花を慈しみ、環境美化を意識する態度を高めることもできるのではないかと考える。

月	単元名	時数	単元設定の理由		反省 評価
			○目標 ・学習内容	3つの視点	
	手作りポットで花の苗を育てよう	14	本単元「手作りポットで花の苗を育てようⅠ・Ⅱ・Ⅲ」では、牛乳パックを切ったり、底に穴を開けたりして、苗ポットを作り花の苗を育て、販売する学習を行う。苗を作り温室での水やりを繰り返して花の苗を育て、さらには、校内販売や発注された注文を納品する活動を行う。みんなで協力して育てた花の苗を販売することで働く意欲や働くことに自信をもち、さらには、自分にできることを生かしながら、自ら進んで生活や学習に取り組む姿勢を育てていくことにつながると考え、本単元を設定した。		
4 5 6 7	Ⅰ (ひまわり・朝顔の苗作り)		自分たちで花の苗ポットを作り育てることで、園芸作業の仕事の基礎を理解する。 ◎自分の担当する仕事を選び、仕事の手順に見通しをもって取り組む。【もとめる】 ○共同で作業に取り組みながら、友達や教師とともに活動する楽しさを味わう。 【かかわる】 ○自分の役割に集中して、最後まで丁寧に行う。【はたす】	【もとめる】 ◎ 【かかわる】 ○ 【はたす】 ○	手順カードなどの視覚的な支援を手掛かりにしながら、作業手順に見通しをも
10 11	ポタンの苗作り				
1 4	Ⅲ (マリーゴールド)		・花の写真や絵を見て、育てる花を決める。 ・牛乳パックを切って苗ポットを作る。 ・苗の水やりなどのお世話をする。 ・苗ポットを飾ったり、販売のためのポスターやチラシを作ったりする。 ・学習参観日のバザーで、苗の販売をする。 ・何個売れたか、どのぐらいの売り上げがあったかを知り、頑張ったことを発表し合う。	◎ ○ ○ ○ ○ ◎ ○ ◎ ○ ◎ ○ ○ ○ ◎ ○ ○ ○ ◎	に対して少しずつ自信を高めてきたことで、作業への意欲的な取り組みも見られるようになってきた。

単元設定の理由

単元の目標と三つの視点の関わり

主な活動内容

目標と活動内容から重点の目安を設定

V 3年間のまとめ

三つの視点から個々の生徒に応じた支援を工夫して実践してきたことは、それぞれの視点で求める生徒の姿へと少しずつ近づけることができた。その積み重ねにより、進んで活動する姿勢、その中で、できた喜びを味わう、そして、自分の役割を最後までやり通すという姿につながっている場面が多く見られた。

1 研究の成果

1) 授業改善について

授業づくりの三つの視点ごとに支援をまとめたことは、P D C Aサイクルで授業改善を進める上で、各視点を深めながら授業づくりに取り組むことができた。また、三つの視点から支援を考えてきたことによって、視点ごとに支援を共有することができ、実践を重ねていっても授業づくりの方向性がぶれることなく全体で深めながら授業改善に取り組むことができた。

その中で個別支援シートを活用しながら、個々の生徒の単元のねらいの達成に向けて取り組んできたことも、個に応じた具体的な支援を〔生徒の姿〈課題〉→課題解決に向けた支援→支援による生徒の変容〈今後の課題〉〕のP D C Aサイクルで考え、改善することにつながっていた。

そのことは、「作業学習における段階表の作成（中-8）」における生徒の変容から捉えることができる。昨年度、中学部全生徒38名を対象にした調査では、36項目中31項目で、できるようになった生徒が増加する結果であった。今年度は、新たに入学してきた1年生、8名を対象として同様の調査を行ったところ、36項目中21項目で、できるようになった生徒が増加する結果であった。新たな対象で行った調査によっても、各視点の全ての重点項目で増加する結果であった。また、三つの視点を生かした授業づくりの事例（中-5～中-6）においても、「三つの視点から考えた支援の観点別整理」を生かして考えた個に応じた支援によって、生徒のよりよい変容を捉えることができた。これらのことから、三つの視点を生かした授業づくりの支援、個別支援シートの活用について、その有効性を確認することができた。

作業学習の学習展開基本モデルを作成し、それを基本に各作業班で実態に応じて学習展開を工夫してきた。【目標設定～作業中の「できた」の繰り返し～目標に対する振り返り】を大切に授業づくりをしたことで、「できた」を多く体験することができ達成感を味わうことにつながっていた。さらに、生徒自身による目標設定や作業内容への見通しをもつ力の高まりによって、「できるぞ!」という活動への意欲を育むこともできた。そのことは、個々の生徒の自己有用感を高め、自分の役割に、より積極的に向かおうとする態度を育んできた。

教材・教具発表会や研究授業では、各自が製作した教材を発表し合ったり、各作業班の授業を互いに参観したりしたことで、授業づくりや支援の良いところを共有したり、よりよい支援となるようにアドバイスし合ったりなど、よりよい支援、教材へと互いに改善することができた。各作業班での授業づくりから、学部全体での授業づくりへとつながっていた。また、その際にも、授業づくりの視点を基に作成した授業参観シートを活用して話し合ってきた。支援の視点が明確になっていることで、常に一つの方向を向きながら支援を深めることができた。

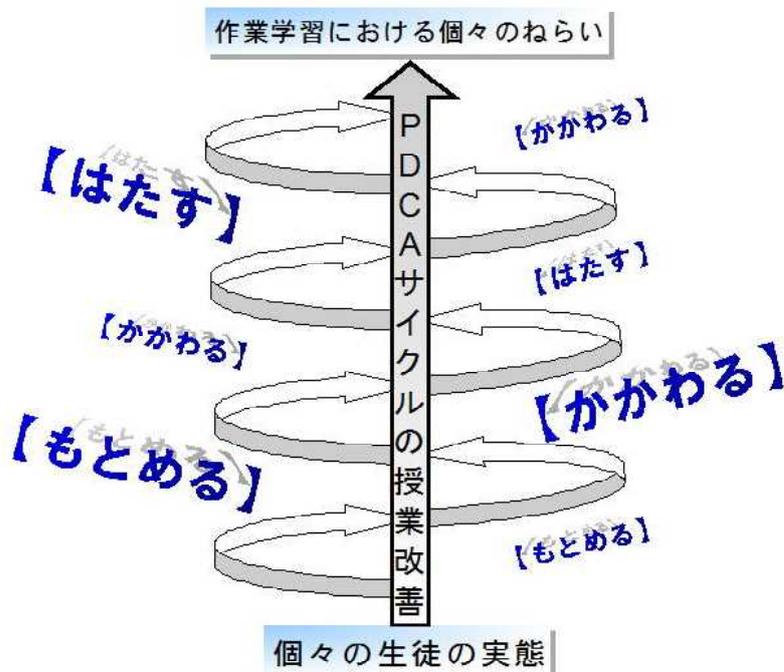
2) 年間指導計画の見直しについて

年間指導計画の中に作業種設定の理由、単元設定の理由を入れたことで、見通しをもって作業学習の指導にあたることができた。また、【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点から年間を通して活動を捉えたことも、単元における各視点の取り組みの重点を目安として把握することにつながった。昨年度作成した年間指導計画を基に今年度進めてきたが、生徒の実態等により、活動内容が変更される単元もあった。

中学部の研究では、「自分の役割を最後までやり通す生徒の育成を目指した授業づくり」

をテーマに取り組んできた。授業づくりを中心に据えた今回の研究において、「授業づくりにおける教師の【もどめる】【かかわる】【はたす】(中-3)」の流れを大切にしながら、その中で三つの視点を生かした授業づくりに取り組んできた。

授業づくりの基本となる適切な実態把握と作業工程・内容の分析によって、個々の生徒に応じた作業内容と支援を工夫することができたことは、生徒の作業への意欲的な姿へとつなげることができた。また、個別支援シートを活用しながら、さらに手立ての妥当性を見直し改善していくことを重ねたことで、確実に個々のねらいの達成に近づいていた。そのことは、生徒の自分の役割を果たそうとする姿となって表れていた。また、三つの視点から個々の力を高めることは、【もどめる】【かかわる】【はたす】に関わる力を偏りなく高めることができ、さらに、互いに絡み合いながら生徒の力となって表れ、作業学習の個々のねらいの達成につながっていた。PDCAサイクルによる年間を通じた授業改善は、前述のような生徒の変容から、中学部のテーマに迫ることができたと考える。



2 今後の課題

- 個別支援シートの活用によって、個別の指導計画とのつながりを考えた取り組みを意識してきた。今回は、ねらいと支援を関連することに留まっていたので、より個別の指導計画に沿った指導ができるようなシステム作りが必要である。
- 年間指導計画について、昨年度作成した計画を活用し、改善を加えながらその都度計画を見直してきた。来年度に向けて、実態に応じた指導計画を更に吟味していくことで、作業学習のねらいを達成すること、生徒の思いを広げること、この二つの視点をより深められるようにしていきたい。



工芸班作業製品「手作りはがき」



木工班作業製品「SAKURA はし置き」

将来の夢や希望をもち、実現に向けて努力しようとする生徒の育成を目指した授業づくり
～作業学習における支援の工夫を通して～

I テーマ設定の理由

高等部の生徒たちは、学校教育の最終段階に差し掛かっており、自らの進路先や将来の生活を念頭に置きながら学校生活を送る時期である。また、自分を知り自分の進路や生き方についての選択肢を理解し、自分で自分のことや将来について決めていくことが求められる。

そこで、全体テーマ「自分の思いを確かにし、主体的に生活しようとする力を育む指導の充実」を踏まえ高等部では、

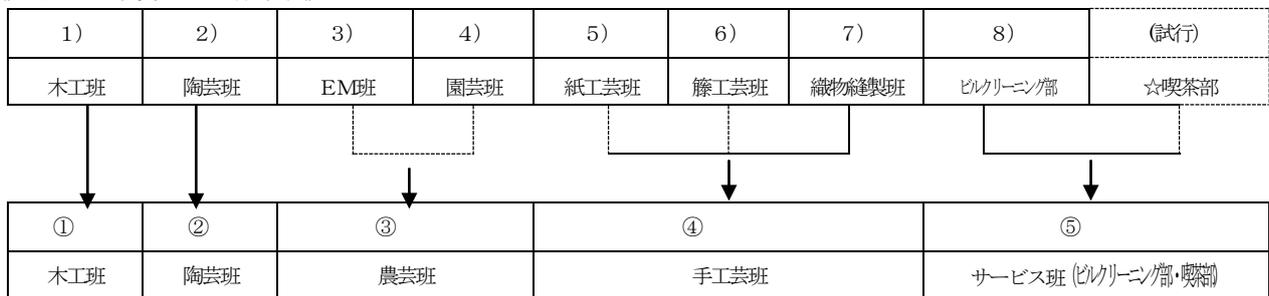
- ① 学習内容や課題について十分に理解した上で、目標をもって活動に臨む経験の積み重ねが必要ではないか。
- ② 自己理解を深めると共に、それを基にした社会生活につながる他者との関わり方の経験をより多く積むことが必要ではないか。
- ③ 主体的な選択や決定を行う場面の経験を積ませることが、集団や組織の中での自分の役割への自覚と責任を果たす態度を培い、将来の夢や希望をもつことや選択していかこうとする態度の育成につながっていくのではないか。

と考え、学部研究テーマを「将来の夢や希望をもち、実現に向けて努力しようとする生徒の育成を目指した授業づくり」とした。

さらに、高等部の作業学習は、生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習することをねらいとしている。

本校の作業学習においても技量面の向上を目指すだけではなく、作業学習を通して「仕事は何のためにするのか？」等、働くことの意義についてより理解を深めさせていきたいと考え、平成22年度から作業班の再編が図られた。平成22年度にはまず、コミュニケーション能力の向上と接客業につながる「喫茶部」が試行された。さらに、各作業班が独自の作業を進めるだけではなく、互いの作業班との関連をもたせることや、より良い製品の提供が「売る側の喜び」や「受け取る側の喜び」につながることを実感したり、味わったりすることもできるような作業種を考慮し、班編成が以下の通り、考えられた。また、生徒の班編成について能力別としていたところを生徒個々の実態やねらいに応じて所属する班を決定することとした。

《平成22年度までの作業班》



《平成23年度再編の作業班》

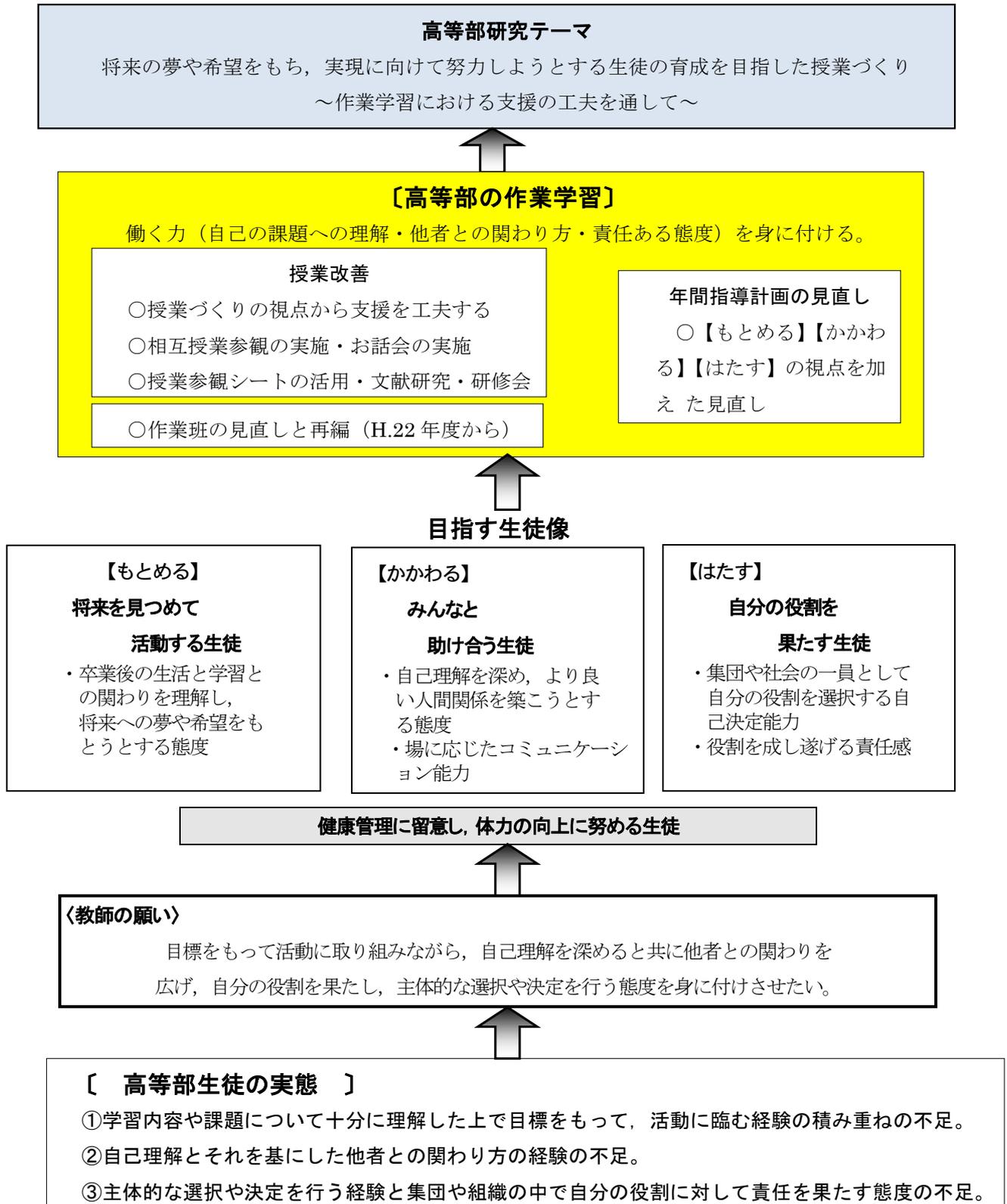
以上のことから、作業学習を研究対象授業とし、副題を「作業学習における支援の工夫を通して」とし、全作業班で授業づくりにおける共通の視点をもち学習内容や方法を模索しながら、テーマに迫ることとした。

II 研究目標

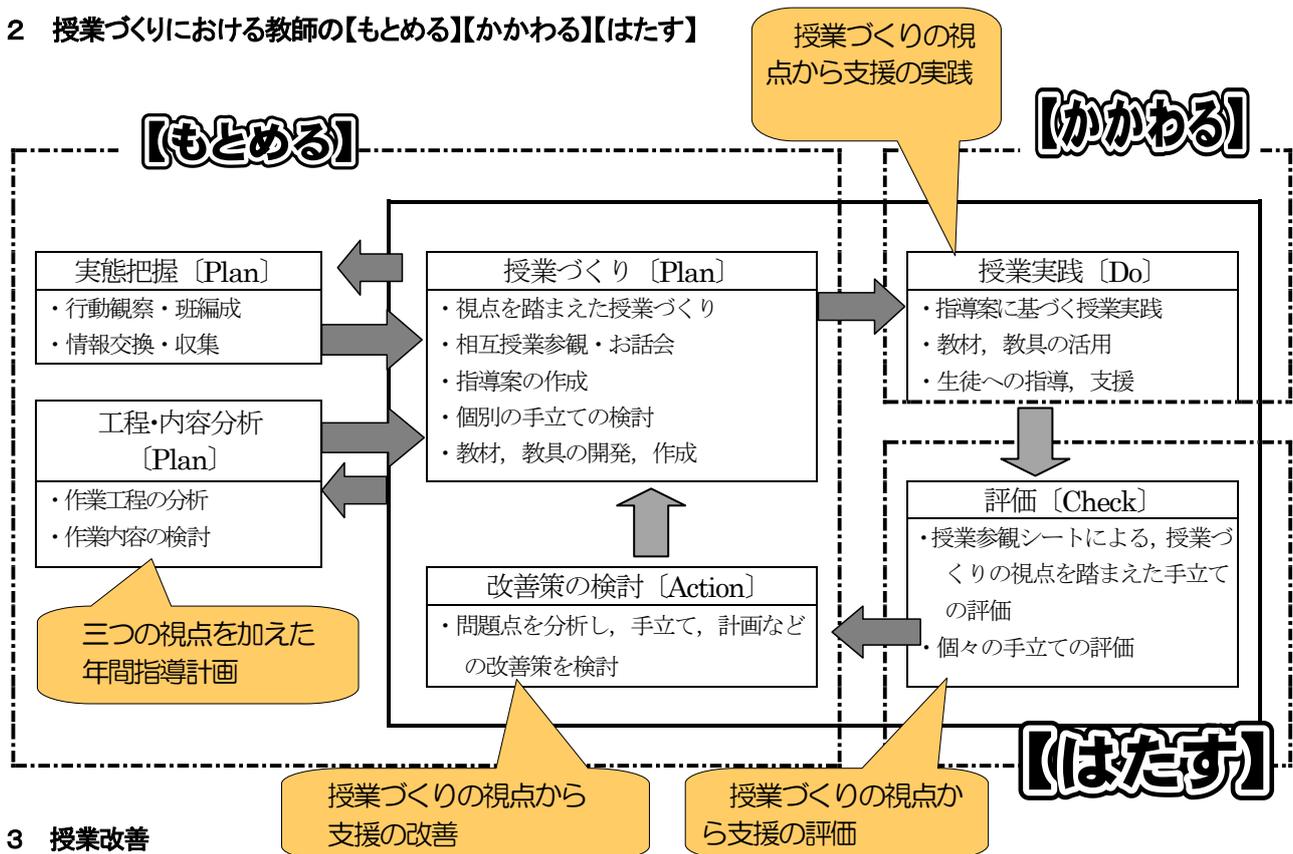
- 1) 高等部の作業学習の授業づくりにおける支援の工夫とその検証
- 2) 全作業班ごとの年間指導計画の見直し

III 研究の内容と方法

1 研究のイメージ図



2 授業づくりにおける教師の【もとめる】【かかわる】【はたす】



3 授業改善

1) 三つの視点を生かした授業づくりと指導段階表の活用

三つの視点に基づく指導段階表を作成することにより、どの作業班においても、【もとめる】【かかわる】【はたす】の授業づくりの視点を踏まえた支を工夫した授業を展開できるようにする。

【授業づくりの視点】

視点【もとめる】	学習への意欲を引き出し、自己評価や課題設定のための気づきを促す工夫
視点【かかわる】	目上の人との関わりに関する課題設定の工夫
視点【はたす】	集団の中で自分の役割を自覚し、その責任を果たそうとする態度を育てる工夫

2) 授業参観シートの活用

授業検討会において、検討する視点を全員で共有し、効果的な話し合いを進めるために、授業参観シートを活用する。授業づくりの視点から、授業参観の視点を設定する

3) 「やりとりマニュアル」の作製

6月に行われた校内授業研究事後検討会の中で、教師・生徒間、または生徒・生徒間の報告・連絡・相談といった‘やりとり’の指導の仕方に大きな差があるのではないかと、という反省が出た。そこで、各作業班に共通した「やりとりマニュアル」（仮称）を作製し各作業班で指導するにあたっての教員間の共通理解を図った。

4 年間指導計画の見直し

【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点を加えた見直し

作業学習の年間指導計画を、【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点を加えながら見直すことで、志教育の視点から捉えた教育課程の見直しへ反映させる。

IV 研究の実際

1 授業改善

1) 三つの視点を生かした授業づくりと指導段階表の活用

授業づくりの三つの視点から支援を工夫し、視点に基づく指導段階表を作成し授業実践を重ね、授業づくりを行ってきた。この支援を基本に、個に応じた具体的な支援を考え、個々のねらいの達成に向けて取り組んだ。

視点【もとめる】～学習への意欲を引き出し、自己評価や課題設定のための気づきを促す工夫～

作業内容の理解

作業内容への見通しをもたせることで意欲を喚起する。

- ・作業日誌や作業工程表、役割分担表などを用いて打合せを行い、作業への見通しをもてるようにする。
- ・技能の向上のための見本となる写真や書籍、実物の提示による視覚的支援を行い、学習への意欲を引き出す。

自己評価と課題設定

適切な自己評価から自分で課題を設定できるように工夫する。

- ・反省会で自己評価をしたり、作業に見通しをもたせるようにしたりすることで、次の具体的な課題設定につなげるようにする。
- ・個に応じた作業日誌を使って、日々の記録を累積したり、本時の反省が次時に生かせるようにしたりする。その際、必要に応じて教師とのやりとりをし、自らを振り返り、次の課題を教師とともに確認する。
- ・客観的な評価と適切な課題設定のために、課題を数値（回数や個数）で具体化したり、ビデオ撮影による振り返りをしたりする。

視点【かかわる】～目上の人との関わりに関する課題設定の工夫～

適切な報告・連絡・相談

相手に応じたコミュニケーションを意識できるようにする。

- ・作業をする中で難しいことがあった場合、自分から「教えてください」と頼むようにする。また作業終了時には「終わりました」と報告して、点検を受けるなど適切な話し方を身に付けられるようにする。
- ・自己判断ではなく、教師（上司）の判断を仰ぐ約束事をルールとして徹底する。
- ・グループのリーダーや仕事の依頼主を設定したり、教師を上司に見立てたりして、目上の人との関わりを実践する場面を設定する。

他者との関わりをもつ役割分担

作業工程の中で他者と関わりをもつ場面を設定する。

- 次の作業工程の人へ依頼するという、かかわりの場面を意図的に設定し、将来的に人と関わる力の育成を図る。
- 作業工程の中で他者と関わりが生まれるように役割分担の工夫をする。

活動の認め合い

協同して作業にあたり、達成感や技能の上達の喜びを共有する。

- 作業の反省会では、よかった点について賞賛する。改善が必要なことについては、教師が示範したり、特に上手にできている生徒がみんなの前でゆったりと具体的にやり方を伝える。
- 自分の活動を認められる喜びを味わいながら、周りの人への意識を高められるように、生徒の頑張りを賞賛する場面を設定し、仲間と一緒に作業する楽しさに気づくようにする。

視点【はたす】～集団の中で自分の役割を自覚し、その責任を果たそうとする態度を育てる工夫～

自分でできる工夫

自分でできる環境を整え、進んで行動できるようにする。

- 生徒の実態に応じて作業の手順を細分化する、補助具を用いて円滑に作業が進められるようにするといった「自分でできる」ための工夫をする。
- 作業工程や役割分担をマニュアル化したり掲示したりして、生徒自身が常に自分で確認できるようにする。

品質の向上

製品の仕上がりやよいサービスを意識できるようにする。

- 授業の最後に反省会を実施し、生徒全員で製品を確認する。
- リーダーを中心に手順を守って丁寧に作業し、仕上げの点検まで行う。リーダーからの申し出や必要に応じて、教師が上司としての立場で助言を行う。

《作業学習における段階表を用いた生徒の変容》

5つの作業班の支援の方法は作業内容により多様である。そこで、全作業班で共通した三つの授業づくりの視点を作成し、さらに生徒の実態に応じた指導が展開できるように視点に基づいた段階表も作成した。段階表に基づき、生徒一人一人について実態把握を行い、授業を展開し、変容を捉えることにより指導の重点事項も明確にすることができた。どの視点における重点項目を見ても、「できるようになった生徒」がほとんどの項目で増加している。教師の支援に共通理解が定着したことも顕著である。また、生徒ひとり一人について前期と後期での変化を見ることにより、生徒個々への支援、さらに作業班としての支援の在り方を教師側が見直すことにもつながった。

なお、この段階表は、支援による生徒の変容を見るためのものであり、各視点の段階を網羅しているものではない。

<指導段階表>

視点	重点項目	段階	結果(人)		生徒の変容の様子例
			6月	10月	
もとめる	作業内容の理解	1. 打ち合わせで作業内容を確認して、取り組もうとする。	37	55	○自分自身の作業内容を理解した上で取り組む態度が身に付き意欲的に取り組む生徒が増えた。 ○反省点を次時の課題として取り組むことができるようになり目標も自分で設定できる生徒が増えている。
		2. 自分の作業内容を理解して作業に取り組む。	35	59	
		3. さまざまな支援を受けて意欲的に取り組む。	47	48	
		4. 自分で作業の目標を設定する。	27	43	
	自己評価と課題設定	1. 教師と一緒に日誌を記入する。	39	39	
		2. 自分で日誌を記入する。	29	39	
		3. 自己評価が適切に行うことができる。	18	37	
		4. 自分の反省から次時の課題を明確にする。	14	29	
かかわる	適切な報告・連絡・相談	1. 適切な言葉で教師とやりとりができる。	31	39	○教師に対して適切な言葉遣いで話すことができる生徒が増えた。 ○生徒間のやりとりの場面も増え、特に先輩への話し方に改善が見られる。 ○繰り返し協同作業を組み込むことで協力性や他者を認め合う様子が見えるようになってきた。
		2. 「終わりました」の報告・「教えてください」の相談を自分からする。	28	51	
		3. 自分で判断せず、教師の指示を仰ぐ。	24	44	
		4. ルールを守って作業に取り組む。	36	50	
	他者との関わりをもつ役割分担	1. 次の作業工程の人へ依頼する。	10	30	
		2. 他の人と作業工程を分担し、自分の担当部分に取り組む。	28	52	
		3. 友達と協力して作業に取り組む。	26	35	
	活動の認め合い	1. 自分の取り組みへの称賛を受け入れる。	51	62	
		2. 友達の取り組みを拍手でたたえる。	35	49	
3. 自分の頑張ったことに気付き、伝える。		33	47		
はたす	自分でできる工夫	1. 自分でできる作業に進んで取り組もうとする。	33	52	○I-padや写真カード、センチンスカード等の視覚支援が有効であった。 ○教師と共に作業に取り組んでいた生徒が手本の提示や完成品を元に自分で取り組めるようになってきている。 ○点数化やタイムタイマーなどの積極的な活用により製品の質を意識した取り組みができる生徒も増えた。 ○お客様を意識した作業を徹底できた。
		2. 自分の役割を果たそうとして、作業に取り組む。	33	51	
		3. 教師と一緒に役割を果たす。	43	41	
		4. 手順ごとに支援を受けながら作業に取り組む。(補助具の活用)	41	43	
		5. 少ない支援で作業に取り組む。(補助具の活用)	33	44	
		6. 一人で作業に取り組む。(補助具の活用)	22	43	
	品質の向上	1. 見本と比べて同じように作る。	33	43	
		2. 製品の仕上がりを意識して取り組む。(手本の活用・教師の助言)	26	55	
		3. リーダーを中心とした作業を行い、製品や仕上げの点検を行う。	12	17	
		4. 購入してくださるお客様のことを考えて製品作りに取り組む。	15	37	

2) 相互授業参観の実施と授業参観シートの活用

お互いがどのような授業を行っているのかを見合って助言し合い互いを高めていこうと各作業班を交代で参観できるように日程を調整し、相互授業参観を行った。その際に、【もとめる・かかわる・はたす】の3つの視点をまとめた授業参観シートを作成して、3つの視点にポイントを絞って授業を参観できるようにした。

授業づくりの視点を明確にし共有することで、それぞれの作業班内で、授業改善に向けて有効な話し合いをすることができた。

〔○成果と●課題〕

- 視点が あることにより、授業者側の意図が読み取りやすくなり、具体的な改善策を考えることができた。
- 授業を参観する視点を共有することにより焦点を絞った話がしやすくなった。
- 授業づくりの視点を明確にし、具体的な支援について意見が交換できたが、全体の研究テーマに迫る部分までには至っていない。



←相互授業参観後の話し合いの様子

〔授業参観シートの一例〕

全校授業研究会 高等部「作業学習」授業参観シート

高等部の研究テーマは

将来の夢や希望を持ち、実現に向けて努力しようとする生徒の育成を目指した授業づくり
 ～作業学習における支援の工夫を通して～

↑ 授業づくりの視点による支援の工夫により、研究テーマに迫っていたか、成果と課題を検証する。

視点【もとめる】 学習への意欲を引き出し、自己評価や課題設定のための気づきを促す工夫

- 全体・目標が明確、それを意識して取り組んでいた。
- 個別に対応した場の設定がよかった。
- 個に応じてワークシートや教材教具の工夫により、意欲向上につなげていた。
- 生徒によっては、自分で確認しながら、教師に報告するという方法もあり。

視点【かかわる】 目上の人とのかかわりに関する課題設定の工夫

- 教師に対する報告の姿勢も身につけており、上司(目上の人)とのかかわりについては成果がみられた。
- 今後、対生徒のかかわり方への支援の工夫が必要とある。
- 自分や、この作業が全体にどうつながっているのかを意識させる必要がある。

視点【はたす】 集団の中で自分の役割を自覚し、その責任を果たそうとする態度を育てる工夫

- 前回できなかったことや、今回の目標として掲げたことに向けて努力しようとする姿が見られた。
- 生徒自身が、自分の製品や作業内容の振り返りができたとのチェックポイントと評価基準を示す工夫が必要。

その他(自由記述)

今回の授業について
 高等部の作業全般について(ねらい、班の編制、学習の流れ、中学部との連続性・・・等)

・健康・安全面への配慮

3) やりとりマニュアルの作製

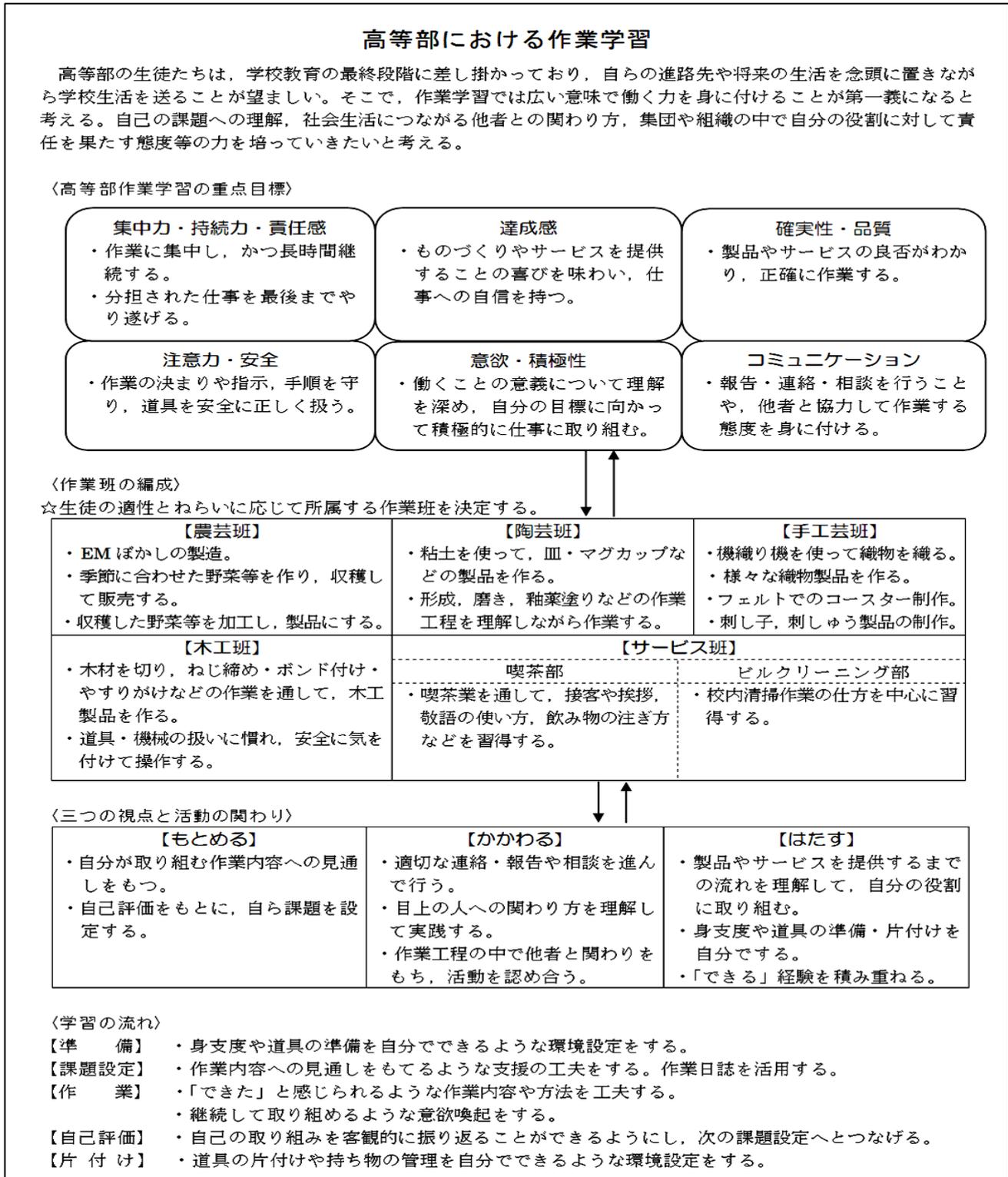
6月に行われた校内授業研究事後検討会の中で、教師-生徒間、または生徒-生徒間の報告・連絡・相談といった‘やりとり’の指導の仕方にばらつきがあるのではないかと、という反省が出た。そこで、各作業班に共通した「やりとりマニュアル」を作成し、各作業班で指導するにあたっての教員間の共通理解を図った(次ページ参照)。その結果、「やりとりマニュアルを活用して、報連相の指導にあたって視覚支援を工夫した」との評価を得られた。一方、「指示を受けたとき「分かりました」と返事をしておきながら実は分かっていない生徒がいるが、その際の指導を各班でどうしているのか」などの指摘もあった。今後各班からの意見を集約してよりよい「やりとりマニュアル」を作成することができると考えている。

2 年間指導計画の見直し

1) 高等部作業学習の重点目標の再確認

年間指導計画を見直すに当たって、まず、高等部として作業学習で身に付けさせたいことを「作業学習の重点目標」として確認した。現時点で目標として意識していることと、高等部としての「求める生徒像」の育成に必要なことの二項目について、教員の意識調査を行い、その結果を授業づくりの実践と照らし合わせることで、現時点の目標として六つの重点目標を設定することができた。

作業学習の重点目標



2) 【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点での年間指導計画の見直し

かつての年間指導計画は、全作業班共通で通年の単元名「働く力をつけよう」とし、生徒の実態に応じて作業班ごとに指導計画を立てて指導に当たっていた。そこで、作業班ごとの実際の活動に合わせた単元名を設定し、【もとめる】【かかわる】【はたす】の視点で見直しながら年間計画を整理した。作業班ごとに作業内容や計画をより具体的に精査し、単元のねらいや支援の工夫について洗い出して、指導計画の内容の整理を進めてきた。

【もとめる】【かかわる】【はたす】見の視点で直しをした年間指導計画（陶芸班）

平成25年度 高等部 陶芸班作業学習年間指導計画

陶芸班では、陶芸作品制作に必要な技術を身に付けるとともに、卒業後の就労の場で必要となる「話を聞くこと」「あいさつ」「行動力」といった基本的なコミュニケーション能力を身に付けることを目指している。

一学期の学習では、製品が出来上がるまでの一連の工程を体験し、製品完成までの流れに見通しをもつ。また、道具の使い方を覚える。6月末頃からは、作業工程の一部分を専属で担当し、完成までのどの部分に自分が携わっているのかを理解するとともに、自分の仕事に責任感をもって制作に当たる。二学期は、一学期の作業の継続と、作業製品バザーに向けて製品の仕上げを行う。

陶芸班で使う粘土は素早く作らないと固まってしまうため、スピード感をもって作業に当たらなければならない。作業に見通しをもつことと併せて、素早く作業する力が身に付く。また、土練機や窯などの危険な道具を扱うため、作業環境を構造化して安全に配慮することで、危険を回避する力が身に付いてくる。最後に、日頃から挨拶や報告、連絡、相談を徹底し、社会に出てからの生活に役立つ基本的な力が養われることが期待される。

月	単元名	時数	単元設定の理由			
			○目標	3つの視点		
4 ～ 12	皿と箸置きを作ろう	144	「つぶし」「タタラ機で伸す」「型抜き」「成形」「乾燥」「なめし」「素焼き」「釉薬掛け」「本焼き」「やすり掛け」といった陶芸作品の一連の作り方を学習しやすい。全工程を体験することで、生徒の実態に合った工程を見極め、選択することができる。このことによって、流れ作業の学習では、製品の大量生産と上質の製品が作られることが期待できる。また、箸置きは手指の力が弱い生徒でも実態に合わせて作業内容を設定することができるので、本単元を設定した。			
			○自分の課題や目標を意識しながら作業に取り組むことができる。 【もとめる】 ○場に応じたやりとりができる。 【かかわる】 ○分からないことを聞くことができる。 【かかわる】 ○仲間と協力して製品を作り上げる。 【かかわる】 ○自分の役割を理解し、出来上がりの状態を確認して作業を行うことができる。 【はたす】 ○目標完成個数を掲げ、達成を目指す。 【はたす】	【もとめる】	【かかわる】	【はたす】
4 ～ 6	皿と箸置きを一人で作ろう	30	・道具の使い方を覚える	○		
			・完成までの制作手順が分かる。	○	○	○
7 ～ 11	皿と箸置きをみんなで作ろう	62	・工程の一つ一つを丁寧に、きれいで丈夫な仕上がりを意識して作る。	○		○
			・自分の分担に責任を持って丁寧に作る。	○		○
12 ～ 2	作業製品バザーに向けて	52	・受け取りや引き渡しの際の連携を図る。	○	○	
			・みんなで一つのものを作り上げる。	○	○	○
			・仕上がりを確認し、教師に点検してもらう。	○		○
			・やすりを掛けて製品を仕上げる。	○		○
			・洗浄、袋詰め、緩衝シート入れ、値札貼りを分担して行い、販売の準備をする。	○	○	○

今年度の年間指導計画についてアンケートをとったところ、現時点で以下のような反省点が出てきている。これらをもとに、作業班ごとに「どのような作業を通して何をねらうのか」「この作業班ではどのような力をつけることが期待されるか」を明確にしなが、次年度の年間指導計画を作成しているところである。

○各班の課題（担当者のアンケート結果）

木工班	・各生徒がそれぞれの得意分野を生かして、集中して作業に取り組んでいる。ただし、教育課程と関わるところであるが、年度初めの4・5月に、さまざまな作業種を体験させる時間をもっとあるとよかったかもしれない。運動会の生単などと重なる時期だが、一定の作業時間が確保できているとよかっただろう。
サービス班 ビルクリーニング部	・約3週間で喫茶部と交代するのではなく、半年続けた方が良かった。 ・今年度は9月にプロの方に来ていただいて清掃の仕方などについて講義をしてもらったが、できればもっと早い段階で（夏休み前に）講義を受けられると良かった。 ・窓清掃は作業手順がそれほど複雑ではないので、もっと早い段階で導入した方が良かった。 ・高等部内でのサービス班の位置づけが曖昧だったと思う。かつては軽度の生徒たちだけを集めて就労に向けて鍛える、という方針がはっきりとしていたと思うのだが。
サービス班 喫茶部	・喫茶部とビルクリーニング部を半年で交代するほうが良かった。 ・外部講師を呼んだり、実際に喫茶店に行き接客の仕方を学んだりできるとよかった。 ・PTA活動などの行事に合わせて喫茶店を計画的にオープンさせ、接客を体験させることができるとよかった。
手工芸班	・年度初めの作業体験は有効だったが、時間が少し長すぎたかもしれない。来年度は時間を短縮して行いたい。 ・作業種ごとに4つの班に分かれたのが有効だった。来年度も継続したい。
陶芸班 農芸班	・今年度の計画どおりに順調に作業学習を進めることができた。来年度も継続していきたい。

3 作業班毎の事例

1) 農芸班 単元名「自分の仕事に責任を持って取り組もう・バザーに向けて」

農芸班では、大きくEMIぼかしを作る作業と農作業にわかれる。またEMIぼかしの方は仕込み作業とふり作業に分かれる。それぞれ作業する場所や仕事内容も異なる。EMIぼかし作りについては、年間通して作る製品は変わらないが、班内の仕事を知ることから始め、自分の仕事についての工程や内容を理解したり、慣れて来たら責任を持ち集中して仕事に取り組んだり段階を上げながら作業を行っている。農作業についても、ハウスや畑の環境整備から始め、製品になる各種野菜の種まき・栽培・収穫作業まで一連の作業を行うことで、見通しを持って自分の作業を行えるようになってきた。

視点【もとめる】（1年男子）

作業内容を理解し、見通しを持って取り組めるように、視覚的支援や使用する道具等を工夫した。

生徒の姿（課題）	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容（課題）
・作業内容を理解できずにうろたえてしまう。 （作業に見通しが持てずに一人でやるのが難しかった）	○作業に必要な道具や材料を毎回同じ配置で作業台の上に準備する。米ぬかをカップで計量しボウルに入れる→EM溶液を計量し米ぬかが入っているボウルに入れる→自分の場所にもどり、米ぬかとEM溶液を混ぜ合わせる、の一連の作業を行いやすいように材料・道具を順番に配置することで、見通しを持ち、教師の支援がなくても自ら行えるようにした。 ○より作業をし易い道具を工夫した。（好みの道具を選べるように、何個か準備） ○タイマー等を使い、後どのくらい混ぜる作業をすればよいか理解できるようにした。	☆作業の流れに見通しを持って、落ち着いて行うことが増えてきた。 。（ボウルを持って米ぬかの場所に並べば、順番に行うべきことが理解でき、流れのついで作業を行えるようになってきた） ☆米ぬかを混ぜる時に木じゃくし等自分が使いやすい道具を見つけ自ら使用するようになった。 （良い変容が見られたが、好きな道具等にこだわりが見られ、それがいい時集中が切れることがある）

視点【かかわる】（2年男子）

適切な報告・連絡・相談ができるように必ず、できあがりを教師に確認してもらう場を設定する。

生徒の姿（課題）	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容（課題）
<p>・できあがり教師に確認してもらう際、後どのくらい混ぜ合わせたらよいか、もう少し等の抽象的な言葉を理解することが難しく、自ら判断がつかなかった。</p>	<p>○できあがり教師に確認してもらう場を意識的に設けた。「終わりました。見て下さい」と、掛ける言葉等を確認してから行った。</p> <p>○確認後、完成まで後どのくらい混ぜ合わせる作業を行えばよいか、タイマー等を使い、「あと何分」と客観的に理解できるようにし、時間を伝えた。</p>	<p>☆毎回、使う言葉が同じであることや他の生徒の様子も理解を促し適切な場面で報告することができた。またその後の作業への見通しも持ち、指示した通りの一定時間の集中ができた。</p> <p>（一回目に合格すると、二回目の作業に入るまで時間がかかる。合格の言葉で終了したような気持ち？）</p>

視点【はたす】（3年男子）

自分がどのくらいできたかを確認するように自らの目標設定と完成した分の数のマグネットをボードに貼る。外仕事であるので、自らの目標を紙に書いて残しておく等の事務作業の時間を増やすことは適当でないと考える。簡易にわかりやすく自分の仕事量を確認でき、次の意欲につながるように工夫した。

生徒の姿（課題）	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容（課題）
<p>・仕事内容や工程への見通しはあるが、どのくらい自分は仕事をしなければならぬか客観的に確認することが難しく意欲的にできない。</p> <p>仕事量が少なくなってしまう。</p> <p>（自分の行っている仕事量がどのくらい確認するのが難しい）</p>	<p>○毎回個人の目標設定と全体の目標設定の2つを行っている。特に個人の目標設定については、簡易にわかりやすく、カップ何杯（分完成させる）かを数字で示すようにしすぐに仕事に取りかかれるようにした。</p> <p>○完成した分のマグネットを完成する毎にボードに貼り、自分がどのくらいの仕事をしたか客観的に理解できるようにする。</p> <p>○集中して行っている時や2杯以上できた時は大きく称賛し、仕事への充実感や次への意欲へつなげるようにする。</p>	<p>☆何杯分を完成させるか数字でいうことで目標を確認しつつ、すばやく仕事に取りかかり、目標を達成することができていた。マグネット等の支援で自分の仕事量を確認することができた。</p> <p>☆目標が達成できると、意欲がわくのか次の日も集中して行う時間が増えた。</p>

〔成果と●課題〕

視点【もとめる】

○場の設定や道具の設置の工夫にが、作業内容の理解につながり、流れにのったスムーズな作業ができるようになってきた。

○写真等の視覚支援により、一連の流れの理解を促したり、工程を確認できたりする生徒が多くなってきた。

●工夫により良い変容も多いが、自ら自分なりの好みのペースや道具に拘泥することもある。

→慣れてきて仕事量の安定につながっているのは良いこと。反面、同じペースや同じ道具にこだわってしまうこともある。更なる製品の品質や量の向上につながらない。

視点【かかわる】

○意識的に完成かどうかを確認してもらう場を設定することで報告・連絡・相談することが増えてきた。

○繰り返し行うことで、適切に教師に仕事の報告等ができるようになってきた。また次の仕事の工程の友達へ仕事を依頼することや、依頼された方は落ち着いて受けることも多くなってきた。

●一回目の仕事・完成で満足してしまい、次の仕事への取りかかりが遅くなる。

視点【はたす】

○作業用のエプロンや個人の持ち物を置く場所を固定することや、作業に来てからの一連の動き（出欠ボード・身支度・持ち物の整理）をパターン化することで、自ら仕事へ取り組める姿勢を作ることができた。

○外作業なので、紙に目標や仕事の経過を書き込む事務作業を増やすよりは、簡易でわかりやすい数字での目標設定を行うこと、またマグネットを使用し完成品の量を確認することが作業量の確保・目標の理解・達成にもつながっている。

○完成品を数字で累計していくことで、みんなの仕事量を確認することができるようになってきた。

2) 陶芸班 単元名「皿と箸置きをみんなで作ろう」

前期に、皿や箸置きが完成するまでの工程を一人で行い、どのようにして製品が出来上がるのかを体験した。後期は、「つぶし」「のぼし」「型抜き」「成型」「仕上げ」の五つの工程に別れ、自分が完成までのどの工程を担当しているか見通しをもって分業で製品を仕上げている。五つの班の担当は、前期の様子をみながら教師側で編成した班である。本単元が始まった9月から現在までの生徒の変容を以下の通りにまとめた。

視点【もとめる】 (1年男子)

全ての活動が自主的・主体的に行われるよう構造的な空間作りを工夫している。また、毎日具体的な目標を自分で設定できるように作業日誌の工夫も行っている。

生徒の姿〈課題〉	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容〈課題〉
その日の目標を考えるのに時間がかかる上に、的外れな目標を立てがちである。	作業日誌の「次の課題」の欄に教師が具体的に課題を書き示すことで自己の課題に気付くことができる。また、作業工程が示された手順カードを個人が所有し、いつでも確認できるようにしている。手順カードには言葉の他、イラストも挿入し分かりやすくしている。	教師の書いた「次の課題」を良く読み取り、明確な目標が立てられるようになった。また、作業技能に関わる目標の時には、工程カードを見ながらポイントを意識しながら取り組むことができるようになってきた。

視点【かかわる】 (1年男子)

適切な報告や連絡・相談ができるような指導を工夫している。

生徒の姿〈課題〉	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容〈課題〉
教師を自分の所へ呼ぶことが最初の課題だった。また、適切な敬語が分からず注意されることが多かった。「先生これ」「これがどうしたの？」という会話がたびたび交わされた。	用事がある時は教師の所に近寄ってきて話しをするよう繰り返し言葉掛けを行った。また、「やりとりボード」を掲示し、「こんな時はこう聞く」というマニュアルを示した。不適切な言葉があった時にはその場で適切な言葉を指導し、自分の言葉で言い直しをさせた。	自分から教師の方へ来ることが定着した。また、話し方はとても丁寧になり、スムーズなやりとりができている。教師だけではなく生徒間のやりとりも丁寧に行っている。

視点【はたす】 (1年男子)

達成感を味わわせる工夫を作業中や反省会に取り入れている。

生徒の姿〈課題〉	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容〈課題〉
自己判断で完成させてしまうことが多かった。 目標が達成できたかと聞かれるといつも「はい」と答え、何ができたのかが不明確だった。	自分でできたと思った時に教師にも確認と点検をもらうよう徹底した。修正箇所があった時にはどこをどのように修正すればよいかを具体的に教えた。 目標は黒板に具体的に書き、反省会の中でそれが達成できたかを確認し、達成できた時には作業班全員で称賛の拍手をする	目標が具体になったことで、「できた」「できなかった」が明確に分かるようになり、反省会のコメントの中でも「こんなところがダメだった」や「これができて良かった」などの言葉が聞かれるようになった。

【○成果と●課題】

視点【もとめる】

- 目標が具体的に立てられるような教師のコメントが生きていた。
- 手順カードが活用され、自主的な活動が多く見られるようになった。
- 文字の読めない生徒の自主的な目標設定はまだ工夫が必要である。

視点【かかわる】

- やりとりボードは生徒にとってとても分かりやすく活用されている。
- 生徒観の関わりが増えた。

視点【もとめる】

- 反省かでの目標達成度の確認は、次時の意欲につながるともいよいものであった。
- 目標を具体化したことで、自己評価がしやすくなった。

3)手工芸班 単元名「フェルトコースター製作」

手工芸班における生徒の障がい特性は幅広い。そこで、生徒それぞれが抱える課題と生徒の得意なことやできることを生かした作業内容や作業工程を設定し、4つのグループに分かれて作業学習を行ってきた。そこで、それぞれの班に所属する生徒の変容を以下の通りにまとめた。

視点【もとめる】:刺し子班(2年男子)

生徒の姿 (課題)	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容 (課題)
・作業後、日誌を記入する際、前日の反省をそのまま写し、自分で振り返ることが難しい。	【作業内容】 布巾の製作で「縫い始め・縫い終わりの糸は2センチに切る」「指の腹で糸をしごく」など具体的な作業内容を示す。作業後は、教師と作業内容を振り返ってから日誌を記入するようにし、自分で気付くきっかけを作る。	・教師と振り返ることで、出来・不出来を「成功した」「残念」などと判断出来るようになってきている。出来なかった部分が次の目標となることが分かって、「次は〇〇を頑張ります」と言うことも見られた。

視点【かかわる】:フェルト班(2年女子)

生徒の姿 (課題)	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容 (課題)
・完成した製品を黙って次の人に渡す。また「お願いします」と早口で話す時があるので相手が聞き取れない場面がある。	【作業内容】 完成したフェルトを黙って渡した時はその都度言葉掛けする。相手からの返事を聞いてから自分の席に着くことを促す。「お願いします」とゆっくり話せた時には賞賛することで意欲を高める。	・その都度声掛けすることで少しずつ黙って製品を渡すことが減ってきている。また、良い状態の製品を完成することが多くなることで自信を持ち、次の人に渡す際に「お願いします」とゆっくり話せる機会が多くなってきている。

視点【はたす】:①フェルト班(2年女)、②ミシン班(2年女子)

- ①生徒自身が「自分でできる」ために補助具の工夫を行った。補助具の工夫により、生徒が「前よりも上手に製作できた！」などの喜びを感じることができるよう環境設定を行った。
- ②生徒が製品の品質の向上を目指し、自分で製品の良し悪しを確認したり、分からないところを自分で確認したりしながら作業を進められる環境を作った。製品によっては全行程を一人で行わせることにより、自分の役割を自覚させ、意欲の向上につなげられるようにした。

生徒の姿 (課題)	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容 (課題)
①教師の言葉掛けがないとすぐによそ見をする。手元に集中することが苦手である。しかし、作業内容の善し悪しは自分で分かる。 (補助具の活用により自分の役割を果たす。)	【作業内容】 鍋敷きの土台となる20cm×20cmのフェルトに、丸く切り取った色とりどりのフェルトを置く。 ○支援として、隙間なく丸いフェルトを置くことができるように目印となる枠を作成 ○完成品の提示	・「上手くできた！」という発言をすることも見られ、製品として『良い状態』『あまり良くない状態』を判断できるようになっている。自分でできるための支援の工夫が有効であった。 (さらに工夫した補助具の作成)
②指示通りに行わず、勝手に作業を進めてしまうところがある。製品の仕上がりを意識しておらず、間違ってもあまり気にせずそのまま縫い進める。製品をお客様に買って頂くという意識が低い。 (品質の向上を目差し、進んで作業に取り組み、自分の役割を果たす)	【作業内容】 巾着製作やバッグの仕上げを行った。作業手順表や完成品、縫い目の見本を提示し、手元に置いて自分で確認しながら作業を進められるようにした。	・教師の指示に従い、作業手順表を確認しながら集中して作業を進められるようになった。 ・縫い間違えや、縫い目が不揃いだと、自分からほどこいて縫い直すようになり、仕上がりを意識できるようになった。 ・「お客様に買ってもらえるかな」という発言をすることも見られた。 (さらに品質の向上を目差した完成度の高い製品を製作する。)

〔成果と●課題〕

視点【もとめる】

- 生徒の実態に応じた作業日誌の活用が図られ、本時の作業内容の理解につながった。
- 「始めの会」での目標の唱和を継続することで、製品の質の向上に対する意識が根付いてきた。ただ作れば良いという考えではなく、「喜ばれる製品づくり」の姿勢が見られる。
- 教師の助言や言葉掛けで目標や課題を決めている生徒が多い。
→生徒自身が自ら「気づく」ために自己評価の数値化やワークシート、反省会の工夫。

視点【かかわる】

- 口頭での反復練習（個別）、パターン化、カード化のような支援の工夫により、個々の生徒に 質問・報告の意識が定着してきている。
- 製品完成までの分業化をとおして、生徒同士のやりとり、教師とのかかわりの場面が増え、パターン化したやりとりに加えて、その場に応じた話し方の訓練にもつながっている。

視点【はたす】

- 集中して作業に取り組むことができるようになるための個に応じた場の設定により、自分の 作業に取り組む姿勢により良い変容が見られた。
- ひとつの課題をスモールステップで設定し、長期にわたって取り組ませることで作業内容への理解が深まり、製品の質の向上にもつながっている。
- 全工程をひとりで行うことで、製品作りへの意識が高まった生徒もいた。
- 一つの製品をみんなで一緒に作り上げていることを感じ取る様子が見られるようになった。

4)木工班 単元名「鉢台を作ろう」

本作業班の生徒の大半は、教師や班員との言葉による会話ややりとりができる。しかし、意図的にかかわりを持たせるような手立てをしないと、かかわりを持たずに作業をしてしまうことが多い。そこで、作業工程別に4つのグループに分け、グループ内での共同作業や他グループとの物の受け渡しを行う中で積極的にかかわりを持てるようにした。本作業班に所属する生徒の変容を以下の通りにまとめた。

視点【もとめる】（3年男子）

一人一人が課題を考えて作業に取り組む為に必要な過程である。そのために、前回の反省をもとにワークシートにその日の目標を記入するようにした。また、次回の作業に反映できるように振り返りも考えて記入するように促した。

生徒の姿（課題）	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容（課題）
・作業前、ワークシートに、本日の目標を書く際、前日と同じ目標を書くことが多かった。	ワークシートに今日の課題の欄を追加して、作業後に振り返りの中で、今日できなかったことを考え、書くようにし、次回の目標を考える資料にした。	・初めは教師と振り返ることで、できたこと、できなかったことを客観的に振り返ることができるようになった、また、課題の欄に記入することで、次回の目標に反映できるようになってきた。

視点【かかわる】（3年女子）

一人一人の作業がつながり、製品が出来ていく作業行程である。そのため自分の作業が終了したら、友達とかかわる場面を設け、言葉を交わしての受け答えができるようにした。

生徒の姿（課題）	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容（課題）
・落ち着きがないため、キョロキョロしてしまい、相手の目を見て「わかりました。」「お願いします。」と言えることが少ない。	・穴あけの2段階目を担当するため、磨き班に「お願いします。」と言葉を掛ける。その際、相手と話しをするときには、必ず体を相手に向けて目を見て話すようにさせる。このことを、作業が始まる前に確認してから作業に取り組みさせた。出ていないときには、やり直しをさせるようにした。	・体を相手に向けて受け答えをするようになってきた。しかし、体は向いていても、視線や頭が気になるほうに向いてしまっているので、継続的に指導していく必要がある。

視点【はたす】（1年男子）

板に穴をあけるための型を用意したり、ボンドを付ける場所を示した見本を作ることで、自分で作業をしている感覚を持てるようにした。自分の役割を果たすことが木工製品の完成につながることをその都度生徒に伝え、丁寧な仕事ぶりを確認させることで、作業への責任を果たすことを感じ取らせるようにした。

生徒の姿〈課題〉	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容〈課題〉
・実態に応じた作業種にそれぞれ固定していたので、他の作業種の様子がつかめない。〈いろいろな作業を知る。〉	・生徒の実態の中で可能な限り他の作業種を経験させる場面作る。	・自分の行っている作業が次の作業につながっていることを感じ取れるようになった。〈次の作業種の確認〉

〔成果と●課題〕

視点【もとめる】

- 前時の課題を生かして目標設定ができています。
- ワークシートを理解できていない生徒がいる。
→ワークシートを文字で書くのではなく、選択にする。

視点【かかわる】

- 口頭での事前指導と個別での反復練習により、個々の生徒に質問の仕方や報告の仕方などの言葉遣いが徐々に定着してきている。
- 製品完成までの分業化をとおして、生徒同士のやりとり、教師とのかかわりの場面が増え、その場に応じた話し方の訓練や、お互いに製品の出来映えの確認にもつながっている。

視点【はたす】

- 集中して作業に取り組むことができるようになるための個に応じた場の設定により、自分の作業に取り組む姿勢により良い変容が見られた。
- ひとつの課題をスモールステップで設定し、長期にわたって取り組ませることで作業内容への理解が深まり、製品の質の向上にもつながっている。
- 複数の工程をひとりで行うことで、製品作りへの意識が高まった生徒もいた。
- 一つの製品をみんなと一緒に作り上げていることを感じ取る様子が見られるようになった。

5) サービス班

(1) ビルククリーニング部 単元名「チームで清掃しよう」

本作業班には自閉的傾向の生徒が多いため、場の設定を工夫し、分かりやすい学習環境を心掛けた。また、教材教具や場の構造化を行い、下記の視点に基づいた支援方法を探ってきた。

視点【もとめる】（1年女子）

作業内容に意欲と見通しが持てるように、視覚的な支援や道具の準備などを工夫した。

生徒の姿〈課題〉	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容〈課題〉
・初めての環境では、作業内容に見通しを持てなかった。また、周囲の様子が気になり、作業に集中できなかった。〈自分の担当する仕事に、より長い時間、集中して取り組むことが課題である。〉	○その日の作業の見通しを持たせるために授業の開始時のミーティングで担当の仕事内容や手順を図で提示した。 ○作業内容を分析し、本人にあった担当箇所をスモールステップで取り組ませるようにした。 ○清掃箇所に応じて、ぞうさんの色を色分けするなど、本人が自分から取り組みやすいように清掃道具の配慮をした。	☆担当した仕事の手順に慣れるに従い、見通しと意欲を持って作業に取り組むようになった。また、集中して取り組める時間も伸びた。〈より長い時間、集中して取り組むことが課題である。〉

視点【かかわる】（2年男子）

チームでの清掃を取り入れることにより、協力しあうことの必要な場面を作ったりメンバーや人数、清掃担当箇所を考慮したりし、生徒同士でよりかかわりやすい学習環境を設定した。

生徒の姿(課題)	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容(課題)
・机を運ぶ時などの協力要請の場面で友達に声を掛けられず、協力の要請がスムーズにできなかった。 (協力の依頼ができるが課題である。)	○協力を頼む際の声掛けの仕方を教師がやってみせたり、声掛けするタイミングを教師が示したりした。 ○「やりとりマニュアル」を作成し、協力依頼の際の言葉掛けを提示した。 ○スムーズに言葉掛けできた時は称賛し、次への意欲や自信につなげた。	☆チームでの清掃活動を繰り返すに従い、チームの仲間に自分から協力の要請ができるようになった。 (相手にわかりやすい簡潔な話し方ができるようになることが課題である。)

視点【はたす】（2年男子）

手順表や点検表、また清掃依頼書を作成することにより、自分の力で取り組み、責任を持って担当の仕事をやり遂げられるように工夫した。さらに、清掃依頼書やお客様の声を聞かせることで、仕事に対するやりがいも感じさせるようにした。

生徒の姿(課題)	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容(課題)
・意欲的に作業に取り組むが、自分勝手な判断で行ってしまうことがあった。また、隅の汚れに気づかないなど作業の仕上がりが不十分のことが多かった。 (手順を覚えて担当の清掃をきれいに仕上げるのが課題である。)	○本人の実態を考慮した清掃箇所を担当させ、手順表と点検表をもとに、自分の力で作業をやり遂げることができるようにした。 ○清掃業者を招き、「プロの技術」の指導を受けさせたり、図や見本を示しながら繰り返し道具の使い方の練習をしたりするなど清掃技術の向上の場を設定した。	☆手順表を見ながら清掃することで作業の手順通りにできるようになった。また、点検表を見て自分で点検することで隅の汚れなどに自分で気づき、担当箇所をきれいに清掃できるようになってきた。ほうきやちりどりの使い方が上達し、仕上がりも良くなり、自分の力できれいにした成果を本人も実感できた。 (より効率の良い清掃の仕方が課題である。)

〔成果と●課題〕

視点【もとめる】

- 毎日のミーティングや反省会や作業日誌の記入やチェック表を用いて作業に対する姿勢や清掃技術を生徒たちに適宜、振り返らせることで、それぞれの生徒が課題を持って作業に取り組む姿が見られるようになった。
- 「清掃依頼書」を作成したり「お客様の声」を聞かせたりすることで、「お客様のために」働こうと清掃に意欲を持って取り組む姿が見られるようになった。
- 生徒自身がさらに自ら「気づく」ための自己評価の数値化やワークシート、反省会の工夫
- より効率の良い働き方

視点【かかわる】

○口頭での反復練習（個別）、パターン化、カード化のような支援の工夫により、個々の生徒に 質問・報告の意識が定着してきている。

○チームでの清掃を取り入れたことで生徒同士のやりとりが増え、協力しあうことや生徒同士でのコミュニケーションが増えた。

- 生徒同士でのより円滑なコミュニケーション

視点【はたす】

○生徒の実態に応じた清掃分担やチーム編成をすることで、作業に意欲的に取り組み、集中しやすい環境の設定ができた。

○チームのメンバーや清掃箇所を一定期間同じにして取り組ませることで、作業手順の理解とチームのメンバーでのかかわりが深まり、チームで協力しあう姿勢が見られるようになった。また、清掃の仕上がりの向上につながった。

○「お客様の声」を聞くことを取り入れたことで自己有用感を実感し、仕事に対するやりがいや達成感を感じて作業に取り組む姿が見られるようになった。

(2) 喫茶部 単元名「開店準備をしよう」

本作業班（喫茶部）における生徒の障害特性は幅広い。そこで、生徒それぞれが抱える課題と生徒の得意なことやできることを生かした作業内容や作業工程を設定し、4つの係に分かれて作業学習を行ってきた。そこで、それぞれの班に所属する生徒の変容を以下の通りにまとめた。

視点【もとめる】 ドリンク係(1年女)

作業内容に興味・関心を持ち、自ら取り組むことができるように I-Pad の写真や動画のアプリを使って、やるべきことを明確に伝えた。脳性マヒによる下肢機能が動かないといった障害があるが、手指の力が強いといった能力を生かすことができるように、見通しを持って意欲的に取り組むことができるように視覚支援を有効に活用できるように工夫をした。

生徒の姿（課題）	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容（課題）
<p>・やるべきことが分からないと近くの人をつねるなどの他傷行為が見られる。また、飽きやすい傾向も見られる。</p> <p>〈初めてのことや人・場に慣れて安心感を持って物事に取り組むことができるようになることが課題である。〉</p>	<p>○作業の前にI-Padの写真や動画を見せることでこれからやるべきことを明確に伝えて、安心感を持つことができるように視覚支援を行った。写真や動画の通りに場を設定することで、迷わずに活動できるようにした。できた際には、大いに賞賛を行い、自信を持って物事に取り組むことができるようにした。また、セルフエステイムが低い傾向があるので、成功体験を積むことを目標とした。</p>	<p>☆I-Padの写真や動画を見せることで、見通しを持って物事に取り組むことができるようになってきた。写真の数を減らしても、自分から道具を取り、行おうとする意欲が見られるようになってきた。</p> <p>〈自ら行おうとする気持ちが育ってきたが、反面、指示を聞かずに行ってしまいうこともあった。〉</p>

視点【かかわる】：フロア係(3年男)

接客の正しい姿勢や態度、言葉遣いを覚えるため、接客のマニュアルを作ったり、鏡を使ってお客様に対する望ましい姿勢や態度を養ったりするようにした。誰に対しても笑顔で接客ができるように生徒や教員をお客さん役として招き、実践練習を繰り返すようにした。

生徒の姿（課題）	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容（課題）
<p>・緊張すると無意識に体を動かしたり、顔が強ばったりすることが多い。また、言葉に詰まり、言いたいことをはっきり伝えられない。</p> <p>〈体を動かさなくて、笑顔で接客することができるようになることが課題である。〉</p>	<p>○接客のマニュアルを使用し、正しい言葉遣いや動き方を覚えるために繰り返しロールプレイを行い、自信をもって接客ができるようにする。</p> <p>○鏡で自分の表情を確認したり、友達とペアで接客の練習を行いアドバイスを聞いたりすることで、正しい姿勢や表情に気付くようにする。</p> <p>○チェックシートを使って、笑顔で接客ができていのかどうかを評価して本人に伝え、次の接客の際に生かせるようにする。</p>	<p>☆マニュアルの言葉遣いやお客様との接し方を覚え、自信をもって取り組み、接客の言葉がすらすら言えるようになった。また、笑顔で接客することを意識するようになってきた。</p> <p>手をベルトの前で合わせる基本の姿勢を覚えることで、手や体を動かさなくて落ち着いて接客できるようになった。</p> <p>〈マニュアル以外の言葉遣いや臨機応変な対応力を身に付け、分からないことはすぐに上司に相談することが課題である。〉</p>

視点【はたす】:洗い場係(2年女)

生徒自身が「自分ひとりでできる」ために視覚的支援の工夫を行った。視覚的支援をしたことにより、生徒が「ひとりでできた！」などの喜びを感じるようにした。また、自分の役割を果たすことが別の係やお客様のためにつながることを確認させることで、責任を果たすことを感じ取らせるようにした。

生徒の姿（課題）	課題解決に向けた支援	支援による生徒の変容（課題）
<p>・教師の言葉掛けがないと自信をもって作業に取り組むことが難しい。</p> <p>〈視覚的支援の工夫により自信をもって自分の役割を果たすことが課題である。〉</p>	<p>○担当場所の見やすい壁に、作業手順を明記した写真カードを貼り、ひとりで作業することができるような環境を作る。</p> <p>○自分の作業が別の係の仲間やお客様のためにつながることを確認させることで、責任をもって作業をすることの大切さを感じ取らせる。</p>	<p>☆写真カードを見ながらひとりで作業することができるようになった。</p> <p>☆自分の作業が他の係やお客様のためになっていることに気付き、自分の役割を果たそうとするようになってきた。〈さらに生徒が自信をもって取り組みやすい作業内容や教材教具の工夫〉</p>

〔成果と●課題〕

視点【もとめる】

- OI-Padの写真や動画による視覚支援によって、自ら行おうとする気持ちや意欲が育ってきた。
- 提示する写真の枚数が減っても、次にやるべきことが理解できており、自ら道具を取って行うことができるようになってきた。
- 見通しが持てずに、他傷行為によって意思表示をすることが無くなった。
- やるべきことが分かって積極的な取組が見られるようになった反面、教師の指示を聞かずに行ってしまい、手順を間違ってしまうこともあったので、作業工程ごとに教師が評価をする ことが必要であると感じている。

視点【かかわる】

- 接客のマニュアルを覚えて、正しい言葉遣い、姿勢、態度を身に付けることができた。
- 「お客様のことを考えて仕事をする」ことを意識し、鏡を見たり、友達のアドバイスを聞いたりして、お客様に不快な気持ちを与えないように自分で正しく修正しようとする意欲的な 姿が見られた。
- 臨機応変な対応力を身に付けるために、様々な場面を想定した練習が必要である。

視点【はたす】

- 責任をもって作業に取り組むことができるようになるための個に応じた場の設定や視覚的支援により、自分の作業に取り組む姿勢により良い変容が見られた。
- ひとつひとつの作業が他の係の作業やお客様のためにつながることを確認し取り組ませることで、作業内容への理解が深まり、サービスの質の向上にもつながっている。
- 役割分担し、担当作業をひとりで行うことで、その役割に責任をもって取り組む意識が高まった生徒もいた。
- 「お客様のことを考えて仕事をする」という気持ちを持ちながら、みんなで作業に取り組むことを感じ取る様子が見られるようになってきた。

VI 三年間の研究のまとめ

1 研究の成果

高等部の生徒たちは、学校教育の最終段階であり、自分を知り自分の進路や生き方についての選択肢を理解し、自分で自分のことや将来について決めていくことが求められる。そこで、全体テーマ「自分の思いを確かにし、主体的に生活しようとする力を育む指導の充実」を踏まえ高等部では、学部研究テーマを「将来の夢や希望をもち、実現に向けて努力しようとする生徒の育成を目指した授業づくり」を掲げ、作業学習を通して授業づくりにおける支援の工夫と年間指導計画の見直しに取り組んできた。その成果は以下の通りである。

1) 授業改善について

作業学習を研究対象として共通の三つの視点を捉えて「指導段階表」「授業参観シート」等の活用を図りながら授業づくりを進めてきた。三つの視点を基に考えることで、どの作業班も共通した軸をもち、授業づくりや支援の方法を考えることができた。また、班全体のねらいを個々の生徒に意識させることができた。視点ごとの成果は以下のとおりである。

- 【もとめる】・・・打合せや反省会において自己評価を継続することで、自分の課題を生徒自身が意識しスモールステップを積み重ねることで生徒の姿に変容が見られた。
- 【かかわる】・・・教師による意図的な場の設定や支援の工夫によって、対教師、さらに仲間同士でやりとりする場面も増えた。
- 【はたす】・・・作業工程における自分の役割だけではなく、作業班における責任を果たす、よりよい製品作りを担うという意識をもって取り組む様子が多々見受けられ、生徒が達成感や成就感を得ることができた。

また、研究協議の中から生まれた各作業班に共通した「やりとりマニュアル」（仮称）の作成は指導者の指導の一貫性を図る上で有効であった。

2) 年間指導計画の見直しについて

作業班ごとに作業内容や計画をより具体的に精査し、単元のねらいや支援の工夫について洗い出して、指導計画の内容の整理を進めてきた。年間指導計画を作成する中で、「求める生徒像」の育成に迫るためには、製品が社会でどのように利用されているかを理解すること、他者に喜んでもらうことを働く喜びにつなげることなどが、具体的な課題として挙げられた。金銭収支に関わることも含めて、これまでの作業学習では手薄だった部分でもある。製品・サービスのその後や販売活動についても作業学習の一環として捉えて年間指導計画を見直していきたい。

2 今後の課題

今年度、高等部では「将来の夢や希望をもち、実現に向けて努力しようとする生徒の育成を目指した授業づくり」をテーマに研究に取り組んできた。【もとめる】【かかわる】【はたす】の三つの視点を用いることで、支援の手立ての検討や、授業づくりの検証を共通した視点で行うことができた。ここで得られた成果を、他の教科・領域においても取り入れ、「教育課程」や「個別の指導計画」の作成に役立てていきたいと考える。

あ と が き

本研究は平成23年度から3カ年計画で計画された共同研究です。研究主題は「自分の思いを確かにし主体的に生活しようとする力を育む指導の充実」としました。研究初年度の平成23年度は副題として「キャリア発達段階を踏まえた教育課程の改善と活用」として研究をスタートさせましたが、研究を進めるなかでキャリア発達の視点から志教育の視点を踏まえた研究へと軌道を修正することになりました。詳細は、研究集録に記述したとおりです。

2年次・3年次の研究では、授業改善に向けて、もとめる、かかわる、はたすという三つの視点から九つのキーワードを得ることができたこと、学習展開の基本モデルを作ることができたこと、授業改善をとおして年間指導計画に志教育の視点を位置付けることができたことが、大きな成果として上げられます。

研究のまとめで、私たちは、児童生徒の自分の思いを確かにする過程について、児童生徒の中で「できた」という達成感を積み上げるなかで、単に「できた」に止まることなく、「できるぞ」というさらなる自信の深化につながっていくこと、そして活動の後に得られる次の達成感は、その先の活動に対する意欲と集中につながっていくことを実感することができました。こうした、児童生徒の一連の「できた」「できるぞ」という達成感や自信が持てる授業改善のスパイラルのなかで、自己肯定感や自己有用感につながっていくという研究仮説を提案させていただきました。しかし、それは、この研究仮説の視点の一つではないのだろうかと思います。なぜなら、私たちも児童生徒の達成感や自信が持てるような授業はどうあればよいのか、児童生徒と共に考えるなかで、私たち自身が「できた」「できるぞ」という自己肯定感や自己有用感を確かに感じる事ができたからです。もう一步踏み込めば、両者の相互作用のなかで自己有用感のスパイラルが生まれなければ、授業改善、より良い授業作りには到達しないということです。児童生徒に関わる私たち教師が授業を大切に、志を高くもつことがなによりも大切であるということです。

ともあれ、私たちは、これまでの私たちの成果を、特別支援教育の現場で活用できるという自負を込めて報告できることに喜びを感じています。ただし、この研究が多くの批判に耐えられるかどうかはまた別の問題です。特別支援教育に携わる先達や仲間達からの忌憚のない御批評、御指導を切にお願い申し上げます。

平成25年12月13日

教頭 昆野 和夫

研 究 同 人

校 長 今野 和則
教 頭 昆野 和夫
教 頭 須藤 博之

横山 武弘 片岡 明恵 柴田喜一郎 山内美緒子 澁谷 純子
野村 幸子 齋藤 成美 金子 秀一 宮川 和子 石垣 絵理

(小学部)

佐藤 伸 菅原 康 亀山 順子 須田 幸子 早坂 朋恵
佐藤 恵 大内 和恵 仁木 久恵 細川 千春 辻 のぶ子
○星 直哉 太田 澄江 香月 諒来 佐藤 康子 但馬美恵子
◎宮里 淳 ○亀谷 征功 中村 陽子 川端 修平 畠山 美貴
蛭名 淳子 今野 修 鈴木 裕子 ○牛島 成剛

(中学部)

森 佳美 樋口 潤子 ◎千葉 圭一 及川 美和 阿部ひろみ
矢田 翼 佐藤 裕志 戸田 慎一 武川 雅子 佐藤まちこ
平塚由美子 天野 貴文 齋藤里佳子 木村 雅江 ◎千葉 信博
今野由紀子 佐久間理恵 千葉 弘靖 小田島葉子 黒田由希子
工藤 隆則 相澤千恵子 横尾 修平 ○大森奈津子

(高等部)

津田 稔 梶原 春江 三浦 啓宏 千葉 誠治 ○千葉 由美
岩崎 邦彦 植松美奈子 青山 正興 ◎松浦 義勝 笠間 郁子
芳賀 崇 渥美 恵 菊地 裕美 佐藤みつ江 渚 敬司
佐々木 伸 ○荒井はるか 渡辺 育子 山下 健司 礪山 陽子
熊谷 真希 菅野 真資 佐々木かおり 鈴木 瑞穂 房間 梢
鹿又 義弘 星 嘉憲 樋口 洋一 長谷川史奈 村田 博子
○西村 繁美

平成25年度 宮城県立石巻支援学校 研究紀要

平成25年12月13日発行

〒986-0861 宮城県石巻市蛇田字新立野4-10-1

TEL 0225-94-0202 FAX 0225-94-0206

HP <http://sekiyou.myswan.ne.jp/>

Mail ishinomaki-hs@pref.miyagi.jp
